

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	5
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	6
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	7
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	8
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	9
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	10	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	11	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	12	
2年					
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2		
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	13	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	14
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	1学期	2	2	15
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	16
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	教養演習AI (防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習AI GES201F 稲月 正	1学期	2	2	19
		2年			
	教養演習AI GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	20
		2年			
	教養演習AII (文化論セミナー) GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	21
		2年			
教養演習AII (防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2		
	2年				
教養演習AII GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	22	
	2年				
教養演習AII GES202F 稲月 正	2学期	2	2	23	
	2年				
教養演習AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	24	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ(防衛セミナー) GES301F 休講	1学期	3	2	25
	3年				
	教養演習BⅠ GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	26
	3年				
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 休講	集中	3	2	27
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	28
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	27
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	28
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	29
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	30
	1年				
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	31
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	32
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	33
1年					
環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	34	
1年					
未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	35	
1年					
私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	36	
1年					
思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	37	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 MCC001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	1年	
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	1年	34
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	1年	35
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	1年	36
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	1年	37
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	1年	
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	1年	38
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	1年	39
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	1年	40	
共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	1年		
法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	1年	41	
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	1年		
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	1年	42	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	企業と社会	2学期	1	2	43
	BUS001F 山下 剛	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	PHR002F 閉講	1年			
	現代社会と新聞ジャーナリズム	1学期	1	2	
	SOC001F 休講	1年			
	都市と地域	2学期	1	2	44
	RDE002F 奥山 恭英	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	45
	IRL003F 大平 剛 他	1年			
	開発と統治	2学期	1	2	
	IRL002F 閉講	1年			
	グローバル化する経済	1学期	1	2	46
	ECN001F 魏 芳 他	1年			
	テロリズム論	1学期	1	2	47
	PLS001F 戸蔭 仁司	1年			
	国際紛争と国連	2学期	1	2	
	IRL005F 閉講	1年			
	国際社会と日本	2学期	1	2	48
	IRL004F 阿部 容子 他	1年			
韓国の社会と文化	2学期	1	2	49	
ARE010F 金 貞愛	1年				
エスニシティと多文化社会	1学期	1	2		
IRL001F 閉講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2		
HIS004F 閉講	1年				
歴史の読み方II	1学期	1	2		
HIS005F 閉講	1年				
そのとき世界は	2学期	1	2		
HIS002F 閉講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	50
		1年			
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	51	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	52
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	53
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	54
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外戸保 大介	2学期	1	2	55
	1年				
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	56	
	1年				
地誌学 GEO112F 外戸保 大介	1学期	1	2	57	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	58
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	59
		1年			
フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	60	
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	61	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	62
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	63
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	64
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	65
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	66
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	67
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	68
		1年			
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	69	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	70	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	71	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	72	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	73	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	74	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) HSS082F 松田 晃二郎	2学期	1	1	75	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	76	
		1年				
	■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	77
			1年			
		キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	78
		1年				
キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆		1学期	1	2	79	
		1年				
コミュニケーション実践 CAR111F 閉講		2学期	1	2		
		1年				
グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講		2学期	1	2		
		1年				
プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆		1学期	2	2	80	
		2年				
プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆		2学期	2	2	81	
		2年				
地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博		2学期	2	2	82	
		2年				
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之		1学期	1	2	83	
		1年				
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	84		
	1年					
プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2			
	2年					
プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2			
	2年					

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2	
		3年			
	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2	
		3年			
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	85
		1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	1学期	1	2	86
		1年			
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
		2年			
	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	87
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (群 1-G) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	88
		群 1 - G			
	英語I (律政 1-H) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	89
		律政 1 - H			
	英語I (律政群 1-I) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	90
		律政群 1 - I			
	英語II (律政 1-H) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	91
		律政 1 - H			
	英語II (律政群 1-I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	92
		律政群 1 - I			
	英語III (律政 1-H) ENG102F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	93
		律政 1 - H			
英語III (律政群 1-I) ENG102F 安丸 雅子	1学期	1	1	94	
	律政群 1 - I				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語 IV (律政 1-H) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	95
		律政 1 - H			
	英語IV (律政群 1-I) ENG112F 木梨 安子	2学期	1	1	96
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2-E) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	97
		律政群 2 C - E			
	英語V (律政群 2-F) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	98
		律政群 2 - F			
	英語V (律政群 2-G) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	99
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2-F) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	100
		律政群 2 - F			
	英語VI (律政群 2-G) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	101
		律政群 2 - G			
	英語VII (律政群 2-F) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	102
		律政群 2 - F			
英語VII (律政群 2-G) ENG202F クリスティン・マイスター	1学期	2	1	103	
	律政群 2 - G				
英語VIII (律政群 2-F) ENG212F 三宅 啓子	2学期	2	1	104	
	律政群 2 - F				
英語VIII (律政群 2-G) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	105	
	律政群 2 - G				
英語IX (英中国済営比人律政 3年) ENG301F 休講	1学期	3	1	106	
	英中国済営比人律政 3年				
英語X (英中国済営比人律政 3年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XI (英中国済営比人律政 3年) ENG302F 休講	1学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				
英語XII (英中国済営比人律政 3年) ENG312F ダニー・ミン	2学期	3	1	107	
	英中国済営比人律政 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	108
		済営人律政群 1年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	109
		済営人律政群 1年			
	中国語III CHN102F ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	1	1	110
		済営人律政群 1年			
	中国語IV CHN112F ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	1	1	111
		済営人律政群 1年			
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	112
		英済営人律政群 2年			
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	113
		英済営人律政群 2年			
	中国語VII CHN202F 王 晨	1学期	2	1	114
		英済営人律政群 2年			
	中国語VIII CHN212F 王 晨	2学期	2	1	115
		英済営人律政群 2年			
	朝鮮語I KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	116
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II KRN111F 呉 香善	2学期	1	1	117
		済営律政群 1年			
朝鮮語III KRN102F 金 光子	1学期	1	1	118	
	済営律政群 1年				
朝鮮語IV KRN112F 金 光子	2学期	1	1	119	
	済営律政群 1年				
朝鮮語V KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	120	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VI KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	121	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VII KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	122	
	済営比人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VIII KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	123
		済営比人律政群 2年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	124
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	125
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	126
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	127
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	128
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	129
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	130
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	131
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	132
		済営人律政 1年			
ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	133	
	済営人律政 1年				
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	134	
	済営人律政 1年				
ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	135	
	済営人律政 1年				
ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	136	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	137	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	138
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	139
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	140
		済営人律政 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	141
		済営人律政 1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	142
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	143
		済営人律政 1年			
	フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	144
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	145
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	146
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	147
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語I SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	148	
	中国済営比人律政 1年				
スペイン語II SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	149	
	中国済営比人律政 1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	150	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	151	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	152	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	153
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	154
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	155
		英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	156
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	157
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	158
		留学生1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	159
		留学生1年			
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	160
		留学生1年			
	日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	161
		留学生1年			
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	162
		留学生2年			
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	163
		留学生2年			
	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	164
		留学生1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	165
		留学生1年			
日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	166	
	留学生1年				
日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	167	
	留学生1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	168
		1年			
	現代法曹論I LAW200M 山田 忠政	2学期	1	2	169
		1年			
	現代法曹論II LAW201M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	法律実務論I LAW390M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	法律実務論II LAW391M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	法学基礎演習I SEM111M 今泉 恵子	1学期	1	2	170
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 石塚 壮太郎	1学期	1	2	171
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 岡本 舞子	1学期	1	2	172
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 二宮 正人	1学期	1	2	173
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 小池 順一	1学期	1	2	174
		1年			
法学基礎演習I SEM111M 近藤 卓也	1学期	1	2	175	
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 休講	1学期	1	2		
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 清水 裕一郎	1学期	1	2	176	
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 高橋 衛	1学期	1	2	177	
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 津田 小百合	1学期	1	2	178	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I	1学期	1	2	179
	SEM111M 中村 英樹	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	180
	SEM111M 大杉 一之	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	181
	SEM111M 林田 幸広	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	182
	SEM111M 堀澤 明生	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	183
	SEM111M 福本 忍	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	
	SEM111M 休講	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	184
	SEM111M 水野 陽一	1年			
	法学基礎演習I	1学期	1	2	185
	SEM111M 藤田 尚	1年			
	法学基礎演習II	2学期	1	2	186
	SEM112M 今泉 恵子	1年			
	法学基礎演習II	2学期	1	2	187
	SEM112M 石塚 壮太郎	1年			
法学基礎演習II	2学期	1	2	188	
SEM112M 岡本 舞子	1年				
法学基礎演習II	2学期	1	2	189	
SEM112M 二宮 正人	1年				
法学基礎演習II	2学期	1	2	190	
SEM112M 小池 順一	1年				
法学基礎演習II	2学期	1	2	191	
SEM112M 近藤 卓也	1年				
法学基礎演習II	2学期	1	2		
SEM112M 休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II SEM112M 清水 裕一郎	2学期	1	2	192
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 高橋 衛	2学期	1	2	193
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 津田 小百合	2学期	1	2	194
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 中村 英樹	2学期	1	2	195
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 大杉 一之	2学期	1	2	196
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 林田 幸広	2学期	1	2	197
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 堀澤 明生	2学期	1	2	198
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 福本 忍	2学期	1	2	199
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 水野 陽一	2学期	1	2	200
		1年			
法学基礎演習II SEM112M 藤田 尚	2学期	1	2	201	
	1年				
外国文献研究I LAW290M 堀澤 明生	1学期	2	2	202	
	2年				
外国文献研究II LAW291M 福本 忍	2学期	2	2	203	
	2年				
法哲学専門演習I SEM311M 重松 博之	2学期	3	2	204	
	3年				
法哲学専門演習II SEM312M 重松 博之	2学期	3	2	205	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法哲学専門演習Ⅲ	2学期	4	2	206
	SEM411M 重松 博之	4年			
	法哲学専門演習Ⅳ	2学期	4	2	207
	SEM412M 重松 博之	4年			
	憲法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	208
	SEM311M 石塚 壮太郎	3年			
	憲法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	209
	SEM311M 中村 英樹	3年			
	憲法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	210
	SEM312M 石塚 壮太郎	3年			
	憲法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	211
	SEM312M 中村 英樹	3年			
	憲法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	212
	SEM411M 石塚 壮太郎	4年			
	憲法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	213
	SEM411M 中村 英樹	4年			
	憲法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	214
	SEM412M 石塚 壮太郎	4年			
	憲法専門演習Ⅳ	2学期	4	2	215
	SEM412M 中村 英樹	4年			
行政法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	216	
SEM311M 近藤 卓也	3年				
行政法専門演習Ⅰ	1学期	3	2	217	
SEM311M 堀澤 明生	3年				
行政法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	218	
SEM312M 近藤 卓也	3年				
行政法専門演習Ⅱ	2学期	3	2	219	
SEM312M 堀澤 明生	3年				
行政法専門演習Ⅲ	1学期	4	2	220	
SEM411M 近藤 卓也	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	行政法専門演習Ⅲ SEM411M 堀澤 明生	1学期	4	2	221
		4年			
	行政法専門演習Ⅳ SEM412M 近藤 卓也	2学期	4	2	222
		4年			
	行政法専門演習Ⅳ SEM412M 堀澤 明生	2学期	4	2	223
		4年			
	刑法専門演習Ⅰ SEM311M 大杉 一之	1学期	3	2	224
		3年			
	刑法専門演習Ⅱ SEM312M 大杉 一之	2学期	3	2	225
		3年			
	刑法専門演習Ⅲ SEM411M 大杉 一之	1学期	4	2	226
		4年			
	刑法専門演習Ⅳ SEM412M 大杉 一之	2学期	4	2	227
		4年			
	刑事訴訟法専門演習Ⅰ SEM311M 水野 陽一	1学期	3	2	228
		3年			
	刑事訴訟法専門演習Ⅱ SEM312M 水野 陽一	2学期	3	2	229
		3年			
	刑事訴訟法専門演習Ⅲ SEM411M 水野 陽一	1学期	4	2	230
		4年			
刑事訴訟法専門演習Ⅳ SEM412M 水野 陽一	2学期	4	2	231	
	4年				
刑事学専門演習Ⅰ SEM311M 藤田 尚	1学期	3	2	232	
	3年				
刑事学専門演習Ⅱ SEM312M 藤田 尚	2学期	3	2	233	
	3年				
刑事学専門演習Ⅲ SEM411M 藤田 尚	1学期	4	2	234	
	4年				
刑事学専門演習Ⅳ SEM412M 藤田 尚	2学期	4	2	235	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	社会保障法専門演習I SEM311M 津田 小百合	1学期	3	2	236
		3年			
	社会保障法専門演習II SEM312M 津田 小百合	2学期	3	2	237
		3年			
	社会保障法専門演習III SEM411M 津田 小百合	1学期	4	2	238
		4年			
	社会保障法専門演習IV SEM412M 津田 小百合	2学期	4	2	239
		4年			
	労働法専門演習I SEM311M 岡本 舞子	1学期	3	2	240
		3年			
	労働法専門演習II SEM312M 岡本 舞子	2学期	3	2	241
		3年			
	労働法専門演習III SEM411M 岡本 舞子	1学期	4	2	242
		4年			
	労働法専門演習IV SEM412M 岡本 舞子	2学期	4	2	243
		4年			
	国際法専門演習I SEM311M 二宮 正人	1学期	3	2	244
		3年			
	国際法専門演習II SEM312M 二宮 正人	2学期	3	2	245
		3年			
国際法専門演習III SEM411M 二宮 正人	1学期	4	2	246	
	4年				
国際法専門演習IV SEM412M 二宮 正人	2学期	4	2	247	
	4年				
民法専門演習I SEM311M 休講	1学期	3	2		
	3年				
民法専門演習I SEM311M 福本 忍	1学期	3	2	248	
	3年				
民法専門演習I SEM311M 矢澤 久純	2学期	3	2	249	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習I SEM311M 清水 裕一郎	1学期	3	2	250
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 福本 忍	2学期	3	2	251
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 矢澤 久純	2学期	3	2	252
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 清水 裕一郎	2学期	3	2	253
		3年			
	民法専門演習III SEM411M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 福本 忍	1学期	4	2	254
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 矢澤 久純	2学期	4	2	255
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 清水 裕一郎	1学期	4	2	256
		4年			
	民法専門演習IV SEM412M 休講	2学期	4	2	
		4年			
民法専門演習IV SEM412M 福本 忍	2学期	4	2	257	
	4年				
民法専門演習IV SEM412M 矢澤 久純	2学期	4	2	258	
	4年				
民法専門演習IV SEM412M 清水 裕一郎	2学期	4	2	259	
	4年				
民事訴訟法専門演習I SEM311M 小池 順一	1学期	3	2	260	
	3年				
民事訴訟法専門演習II SEM312M 小池 順一	2学期	3	2	261	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民事訴訟法専門演習III SEM411M 小池 順一	1学期	4	2	262
		4年			
	民事訴訟法専門演習IV SEM412M 小池 順一	2学期	4	2	263
		4年			
	企業法専門演習I SEM311M 今泉 恵子	1学期	3	2	264
		3年			
	企業法専門演習I SEM311M 高橋 衛	1学期	3	2	265
		3年			
	企業法専門演習II SEM312M 今泉 恵子	2学期	3	2	266
		3年			
	企業法専門演習II SEM312M 高橋 衛	2学期	3	2	267
		3年			
	企業法専門演習III SEM411M 今泉 恵子	1学期	4	2	268
		4年			
	企業法専門演習III SEM411M 高橋 衛	1学期	4	2	269
		4年			
	企業法専門演習IV SEM412M 今泉 恵子	2学期	4	2	270
		4年			
	企業法専門演習IV SEM412M 高橋 衛	2学期	4	2	271
		4年			
法社会学専門演習I SEM301M 林田 幸広	1学期	3	2	272	
	3年				
法社会学専門演習II SEM302M 林田 幸広	2学期	3	2	273	
	3年				
法社会学専門演習III SEM401M 林田 幸広	1学期	4	2	274	
	4年				
法社会学専門演習IV SEM402M 林田 幸広	2学期	4	2	275	
	4年				
■理論法学科目	法思想史 LAW210M 重松 博之	2学期	2	2	276
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■理論法学科目	外国法 LAW212M 前 裕 大志	2学期	2	2	277
		2年			
	日本法制史 LAW312M 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	278
		2年			
	法社会学 LAW211M 林田 幸広	1学期	2	2	279
		2年			
	法哲学 LAW310M 重松 博之	2学期	3	2	280
	3年				
比較法文化論 LAW313M 梁田 史郎	1学期	3	2	281	
	3年				
紛争処理論 LAW311M 林田 幸広	2学期	3	2	282	
	3年				
■公法科目	日本国憲法原論 LAW120M 石塚 壮太郎	1学期	1	2	283
		1年			
	憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期	1	2	284
		1年			
	憲法機構論 LAW221M 中村 英樹	1学期	2	2	285
		2年			
	憲法訴訟論 LAW320M 石塚 壮太郎	2学期	2	2	286
		2年			
	行政法総論 LAW121M 堀澤 明生	1学期 (ペア)	2	4	287
		2年			
	行政争訟法 LAW222M 近藤 卓也	2学期	2	2	288
		2年			
	国家補償法 LAW321M 近藤 卓也	1学期	3	2	289
	3年				
地方自治法 LAW223M 岡本 博志	1学期 (ペア)	3	4	290	
	3年				
情報公開・個人情報保護法 LAW322M 岡本 博志	2学期	3	2	291	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■刑事法科目	刑法犯罪論 LAW130M 大杉 一之	2学期 (ヘア)	1	4	292
		1年			
	刑法犯罪各論I LAW230M 土井 和重	1学期	2	2	293
		2年			
	刑法犯罪各論II LAW330M 土井 和重	1学期	2	2	294
		2年			
	刑事訴訟法総論 LAW231M 水野 陽一	1学期	2	2	295
		2年			
	刑事訴訟法各論 LAW331M 水野 陽一	2学期	2	2	296
		2年			
	犯罪学 LAW232M 藤田 尚	1学期 (ヘア)	3	4	297
		3年			
	刑事司法政策I LAW332M 藤田 尚	1学期	3	2	298
		3年			
刑事司法政策II LAW333M 藤田 尚	2学期	3	2	299	
	3年				
■社会法科目	社会法総論 LAW140M 岡本 舞子	2学期	1	2	300
		1年			
	社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	301
		2年			
	所得保障法 LAW243M 津田 小百合	2学期	2	2	302
		2年			
	雇用関係法 LAW240M 岡本 舞子	1学期	2	2	303
		2年			
	労使関係法 LAW241M 岡本 舞子	2学期	2	2	304
		2年			
独占禁止法 LAW340M 諏佐 マリ	集中	3	2	305	
	3年				
知的財産法 LAW341M 小川 明子	集中	3	2	306	
	3年				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■社会法科目	環境法 LAW342M 森田 崇雄	集中	3	2	307
		3年			
	社会法の現代的展開 LAW343M 柴田 滋	2学期	3	2	308
		3年			
■国際関係法科目	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	309
		2年			
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	310
		2年			
	国際私法 LAW252M 中林 啓一	2学期	3	2	311
		3年			
	国際取引法 LAW350M 休講	集中	3	2	
		3年			
	現代国際関係法 LAW351M 二宮 正人	集中	3	2	312
		3年			
現代国際関係法 (英語) LAW351M 二宮 正人	集中	3	2	313	
	3年 (英語)				
■民事法科目	民法総則 LAW160M 矢澤 久純	2学期 (ヘア)	1	4	314
		1年			
	物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	315
		2年			
	担保物権法 LAW261M 清水 裕一郎	2学期	2	2	316
		2年			
	債権総論 LAW263M 福本 忍	1学期 (ヘア)	2	4	317
		2年			
	債権各論 LAW262M 休講	2学期 (ヘア)	1	4	
		1年			
親族法 LAW264M 小野 憲昭	2学期	2	2	318	
	2年				
相続法 LAW265M 小野 憲昭	2学期	2	2	319	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■民事法科目	民事訴訟法総論 LAW266M 小池 順一	1学期	2	2	320
		2年			
	民事訴訟法各論 LAW267M 小池 順一	2学期	2	2	321
		2年			
	倒産処理法 LAW362M 小池 順一	1学期	3	2	322
	3年				
民事執行法 LAW363M 春日川 路子	集中	3	2	323	
	3年				
民事法の実務的展開 LAW361M 休講	2学期	3	2		
	3年				
■商事法科目	企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	1学期	2	2	324
		2年			
	会社法I LAW270M 高橋 衛	1学期	2	2	325
		2年			
	会社法II LAW271M 高橋 衛	2学期	2	2	326
		2年			
	企業取引法I LAW272M 今泉 恵子	2学期	2	2	327
	2年				
企業取引法II LAW372M 前越 俊之	2学期	3	2	328	
	3年				
証券市場と法 LAW370M 前越 俊之	2学期	3	2	329	
	3年				
企業法の現代的展開 LAW371M 休講	集中	3	2		
	3年				
■関連科目A	政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	1	2	330
		1年			
	都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	331
	1年				
日本政治論 PLS110M 上條 諒貴	2学期	1	2	332	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期	1	2	333
		1年			
	NPO論 PLC114M 榎原 真二 他	1学期	1	2	334
		1年			
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期	1	2	335
		1年			
	政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	336
		1年			
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	337
		1年			
	西洋政治史 PLS111M 西 貴倫	1学期	1	2	338
		1年			
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	1	2	339
		1年			
	公共政策論 PLC211M 榎原 真二	1学期	2	2	340
		2年			
	政策理論特講 PLS213M 松田 憲忠	集中	2	2	341
		2年			
政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期	2	2	342	
	2年				
現代政治思想 PLS212M 大澤 津	1学期	2	2	343	
	2年				
地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期	2	2	344	
	2年				
都市経営論 PAD213M 田代 洋久	2学期	2	2	345	
	2年				
途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期	2	2	346	
	2年				
政策評価論 PLC310M 横山 麻季子 他	2学期	2	2	347	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	政党政治論	1学期	2	2	348
	PLS211M 中井 遼	2年			
	都市政策論	1学期	2	2	349
	PLC219M 田代 洋久	2年			
	福祉政策論	1学期	2	2	350
	PLC217M 狭間 直樹	2年			
	環境政策論	2学期	2	2	351
	PLC216M 申 東愛	2年			
	アジア地域社会論	2学期	2	2	352
	PLC222M 三宅 博之	2年			
	地域統合論	2学期	2	2	353
	PLS214M 中井 遼	2年			
	自治体政策研究	2学期	2	2	354
	PLC214M 橘原 真二	2年			
	公共経営論	2学期	2	2	355
	PAD212M 狭間 直樹	2年			
	政治文化論	2学期	2	2	356
	PLS215M 大澤 津	2年			
	地方行政改革論	2学期	2	2	357
	PAD310M 森 裕亮	2年			
応用政策特講	集中	2	2	358	
PAD214M 湯川 勇人	2年				
行政組織論	1学期	2	2	359	
PAD210M 横山 麻季子	2年				
対外政策論	2学期	2	2	360	
PLC213M 坂本 隆幸	2年				
比較政策論	2学期	2	2	361	
PLC210M 坂本 隆幸	2年				
国際機構論I	1学期	3	2	362	
IRL312M 政所 大輔	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	国際機構論II IRL313M 政所 大輔	2学期	3	2	363
		3年			
	国際協力論I IRL211M 大平 剛	1学期	3	2	364
		3年			
	国際協力論II IRL212M 大平 剛	2学期	3	2	365
		3年			
	国際人権論 IRL213M 政所 大輔	2学期	3	2	366
		3年			
	国際紛争論 IRL214M 川上 耕平	1学期	3	2	367
		3年			
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	368
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 小賀 久	1学期	3	2	369
		3年			
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 休講	1学期	3	2		
	3年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 休講	2学期	3	2		
	3年				
■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	ミクロ経済学II ECN210M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	マクロ経済学I ECN113M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	マクロ経済学II ECN211M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期	2	2	370
		2年			
国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	国際経済論II	2学期	2	2	
	ECN241M 休講	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	371
	ECN242M 柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	372
	ECN243M 柳井 雅人	2年			
	金融論I	1学期	2	2	373
	ECN260M 後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	374
	ECN261M 後藤 尚久	2年			
	経営組織論	2学期	2	2	375
	BUS212M 山下 剛	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	376
	BUS214M 鄭 義哲	2年			
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	377
	BUS215M 鄭 義哲	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	378
	BUS213M 浦野 恭平	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	379
	ACC214M 西澤 健次	2年			
財務会計論II	2学期	2	2	380	
ACC215M 西澤 健次	2年				
会計監査論	2学期	2	2	381	
ACC216M 任 章	2年				
国際貿易論I	1学期	3	2	382	
ECN345M 水戸 康夫	3年				
国際貿易論II	2学期	3	2	383	
ECN346M 水戸 康夫	3年				
国際金融論I	1学期	3	2	384	
ECN363M 前田 淳	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	385
	3年				
	産業組織論I ECN341M 佐藤 隆	1学期	3	2	386
	3年				
	産業組織論II ECN342M 佐藤 隆	2学期	3	2	387
	3年				
	証券市場論 BUS330M 久多里 桐子	2学期	3	2	388
	3年				
	中小企業論 BUS313M 別府 俊行	1学期	3	2	389
	3年				
	財政学I ECN361M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	財政学II ECN362M 休講	2学期	3	2	
	3年				
地方財政論 ECN365M 難波 利光	1学期	3	2	390	
3年					
労働経済学I ECN343M 畔津 憲司	1学期	3	2	391	
3年					
労働経済学II ECN344M 畔津 憲司	2学期	3	2	392	
3年					
人的資源管理論 BUS310M 脇 夕希子	2学期	3	2	393	
3年					
ビジネス英語研究 ENG232M ブルック 前田	2学期	3	2	394	
3年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	395
	1年				
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	1学期	1	2	396
1年					
発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	397	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育制度論 EDU227M 休講	1学期	3	2	398
		3年			
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	399
		3年			
	社会科教育法 A EDU240C 下地 貴樹	1学期	3	2	400
		3年			
	社会科教育法 B EDU241C 吉村 義則	2学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法 C EDU242C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法 D EDU243C 休講	2学期	3	2	
		3年			
	公民科教育法 A EDU244C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	公民科教育法 B EDU245C 休講	2学期	3	2	
		3年			
	道德教育指導論 EDU262M 船原 将太	2学期	2	2	401
		2年			
	特別活動論 EDU263M 休講	2学期	2	2	
		2年			
教育方法学 EDU260M 休講	2学期	2	2		
	2年				
生徒・進路指導論 EDU261M 休講	2学期	2	2		
	2年				
教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期	2	2	402	
	2年				
教育実習 1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習 2 EDU480C 休講	1学期	4	2		
	4年				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 休講	4年			
	教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	
	EDU490C 休講	4年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	403
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	404
	EDU225M 恒吉 紀寿	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	405
	EDU228M 河嶋 静代	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	
	EDU220M 休講	2年			
教育工学	2学期	2	2		
EDU265M 閉講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	406
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	407
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	408
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	409
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	410
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	411
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	412
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	413
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	414
2年					
現代社会と文化 ANT210F 休講	2学期	2	2		
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	415	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	416	
2年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	417
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	418
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	419
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	420
		1年			
企業と社会 BUS001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	421	
	1年				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	422
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	422
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	422
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	422
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	422
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	422
		1年			
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	423	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	424
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	425
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	426
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	426
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 閉講	1学期	1	1	427	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	427	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	428
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	1学期	2	2	428
	2年				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論	1学期	1	2	429
	LAW100M 小野 憲昭	1年			
■公法科目	日本国憲法原論	1学期	1	2	430
	LAW120M 石塚 壮太郎	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	
	LAW220M 休講	1年			
行政法総論	1学期(ペア)	2	4		
LAW121M 休講	2年				
■社会法科目	社会法総論	2学期	1	2	
	LAW140M 休講	1年			
■国際関係法科目	国際法I		2	2	
	LAW250M 休講	2年			
	国際法II		2	2	
	LAW251M 休講	2年			
■民事法科目	債権各論	2学期(ペア)	1	4	431
	LAW262M 福本 忍	1年			
	民事法の理論的展開	1学期	3	2	432
LAW360M 福本 忍	3年				
■商事法科目	会社法I	1学期	2	2	
	LAW270M 休講	2年			
	会社法II	2学期	2	2	
	LAW271M 休講	2年			
■関連科目A	都市環境論	1学期	1	2	433
	PLC111M 三宅 博之	1年			
	NPO論	1学期	1	2	
	PLC114M 休講	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	434
	PLC211M 楢原 真二	2年			
	地方自治論	1学期	2	2	
	PAD211M 休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目A	福祉政策論 PLC217M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	国際機構論I IRL312M 休講		3	2	
		3年			
	国際機構論II IRL313M 休講		3	2	
		3年			
	国際協力論I IRL211M 休講		3	2	
		3年			
	国際協力論II IRL212M 休講		3	2	
		3年			
	国際人権論 IRL213M 休講		3	2	
		3年			
	国際紛争論 IRL214M 休講		3	2	
	3年				
倫理学 PHR210M 休講		2	2		
	2年				
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 高崎 陽子	1学期	3	2	435	
	3年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	3	2	436	
	3年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	3	2	437	
	3年				
■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期	1	2	438
		1年			
	ミクロ経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期	2	2	439
		2年			
	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	440
		1年			
	マクロ経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期	2	2	441
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	公共経済学		2	2	
	ECN262M 休講	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	442
	ECN240M 魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	443
	ECN241M 魏 芳	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	
	ECN242M 休講	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	
	ECN243M 休講	2年			
	金融論I	1学期	2	2	
	ECN260M 休講	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	ECN261M 休講	2年			
	経営組織論		2	2	
	BUS212M 休講	2年			
	企業ファイナンスI		2	2	
	BUS214M 休講	2年			
	企業ファイナンスII		2	2	
	BUS215M 休講	2年			
経営戦略論	2学期	2	2	444	
BUS213M 山下 剛	2年				
財務会計論I	1学期	2	2	445	
ACC214M 西澤 健次	2年				
財務会計論II		2	2		
ACC215M 昼のみ開講	2年				
会計監査論		2	2		
ACC216M 休講	2年				
国際貿易論I		3	2		
ECN345M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	国際貿易論II		3	2	
	ECN346M 休講	3年			
	国際金融論I	1学期	3	2	
	ECN363M 休講	3年			
	国際金融論II	2学期	3	2	
	ECN364M 休講	3年			
	産業組織論I		3	2	
	ECN341M 休講	3年			
	産業組織論II		3	2	
	ECN342M 休講	3年			
	証券市場論		3	2	
	BUS330M 休講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	BUS313M 休講	3年			
	財政学I	1学期	3	2	446
	ECN361M 前林 紀孝	3年			
	財政学II	2学期	3	2	447
	ECN362M 前林 紀孝	3年			
	地方財政論		3	2	
	ECN365M 休講	3年			
労働経済学I		3	2		
ECN343M 休講	3年				
労働経済学II		3	2		
ECN344M 休講	3年				
人的資源管理論	1学期	3	2		
BUS310M 休講	3年				
ビジネス英語研究		3	2		
ENG232M 休講	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	448
	EDU111M 楠 凡之	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	1学期	1	2	449
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	450
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育制度論	1学期	3	2	451
	EDU227M 見玉 弥生	3年			
	教育課程論	2学期	3	2	452
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	社会科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU240C 休講	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU241C 休講	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 休講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 休講	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	453
	EDU244C 下地 貴樹	3年			
	公民科教育法 B	2学期	3	2	454
	EDU245C 吉村 義則	3年			
道徳教育指導論	2学期	2	2	455	
EDU262M 船原 将太	2年				
特別活動論	2学期	2	2	456	
EDU263M 楠 凡之	2年				
教育方法学	2学期	2	2	457	
EDU260M 下地 貴樹	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	458	
EDU261M 楠 凡之	2年				
教育相談	1学期	2	2	459	
EDU264M 山下 智也	2年				

法学部 法律学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1 EDU380C 児玉 弥生 他	2学期	3	2	460
		3年			
	教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	461
		4年			
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	462	
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	463	
	4年				
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	464
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	465
		2年			
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	466
		2年			
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期	2	2	
	2年				
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	467	
	2年				
教育工学 EDU265M 閉講	2学期	2	2		
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」についての知識を生かし、SDGs(持続可能な開発目標)に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理(治水・利水)、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは?
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか?-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート: 30%
最終試験: 70%

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 【確率の影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) 生命と遺伝子操作1 【再生医療】 【iPS細胞】
- 12回 生命の倫理 (2) 生命と遺伝子操作2 【ゲノム編集】
- 13回 生命の倫理 (3) 生命科学と家族 【遺伝的つながり】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

* タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加 (毎回の課題提出を含む) 100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) により提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解することを目指す。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】【GPS】
- 3回 グループワーク1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 5回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 6回 グループワーク2：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 7回 画像認識の仕組み 【画像処理】【ドット】【解像度】
- 8回 顔画像認識の応用と危険性 【マーケティング】【個人情報】
- 9回 画像認識技術はどこまで人間に近づけるか 【形状認識】【機械学習】
- 10回 グループワーク3：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 11回 IoT【センサー】【クラウドコンピューティング】
- 12回 グループワーク4：IoTを利用した未来のサービスを読む
- 13回 自律型ロボットと人工知能【AI】【ディープラーニング】【技術的特異点】
- 14回 人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】【法整備】
- 15回 グループワーク5：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 60%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 30%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術のある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地域資源管理論	
		ENV200F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。
本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。

①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。
※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs 15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs 8.働きがいも経済成長も」に関係します。

②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -
※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」に関係します。

③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -
※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs 12.（まちを）つくる責任つかう責任」に関係します。

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』晃洋書房
角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社
神谷由紀子編著 (2014) 『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

地域資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について-
- 第7回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム-
- 第8回 地域資源の過剰利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：20%
最終試験：80% (持ち込み不可)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話(判例)や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

SDGs (持続可能な開発目標)で言うと、「SDGs 14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs 15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs 8.働きがいも経済成長も」、「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」、「SDGs 11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs 12.(まちを)つくる責任つかう責任」に関連する授業内容となります。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、氷山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。
「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジュメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加するには、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探し方
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りこみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

教養演習 AII (文化論セミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義(「異文化理解の基礎」「現代社会の文化」)や「アカデミック・スキルズ2」を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには「文化人類学」とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。
「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジユメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジユメ」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジユメの内容...50%
無断欠席やレジユメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジユメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養演習 A II	
		GES202F	

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
(総合的に判断する。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

1回 ガイダンス(日高・柳川)

博物館1日目

- 2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 館内見学(1回目)
- 5回 多様性生物学と進化(蓑島)【進化】【生物多様性】
- 6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】

博物館2日目

- 7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 8回 博物館を楽しむ:いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 9回 館内見学(2回目)
- 10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競走】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】

博物館3日目

- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 歴史に関するトピック①
- 14回 歴史に関するトピック②
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習: 授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目(ガイダンス)に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日(土)、10月31日(土)、11月14日(土)の3回に分けて博物館で行う予定(いずれも終日)。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連:

- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENW001F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（月）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月6日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。
 (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
 (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、フ
アシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDG s 3 健康と福祉を

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的な概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満した学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。	
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか？ - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法？ - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている？ - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
- 第7回 電気は「物」か？ - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か？
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない？ - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

法律の読み方 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

市民活動論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

企業と社会【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人々での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域 1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域 2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域開発とは
- 5回 地域 4 : 地域間という視点
- 6回 地域 5 : 地域を分析する
- 7回 地域 6 : 地域事例 (L Q による分析)
- 8回 地域 7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市 1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市 2 : 都市の理論
- 11回 都市 3 : 都市の構造
- 12回 都市 4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市 5 : 都市を分析する
- 14回 都市 6 : 都市事例
- 15回 都市 7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第3回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第4回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第5回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第6回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第7回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- 第8回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト組成【総合商社】【世銀保証】【IFC-Bローン】【プロジェクトファイナンス】
- 第9回 松田 日本企業の特質と異文化マネジメント【ホフステッド】【複数の資本主義】
- 第10回 久木 2010年代後半のイギリス【国民投票】【総選挙】
- 第11回 篠崎 東南アジアを知ろう【地理】【宗教】【自律史観】
- 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回 まとめ

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少8回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバルイゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、Moodleを利用した日韓の歴史についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 日韓若者のお互いに対する意識
- 3 韓国のいろは①【韓国ってどんな国？】
- 4 韓国のいろは②【ハングルの仕組みなど】
- 5 グローバル化するK-POP
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 8 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 9 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 10 日本における「韓流」史
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 13 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 14 日韓の食文化について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) 40%

小レポート20%

期末レポート40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、予め毎回のテーマについて調べ、授業終了後には内容を整理し、各自の「考え」をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ Moodleを利用した小レポート（5回ほど）を必ず提出すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用（コピペ等）が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 異文化理解

戦後の日本経済【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」（1950年代後半から1970年代前半）に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのかを考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦漢史概説(1) -「皇帝」の誕生-
 - 4回 秦漢史概説(2) -前漢の盛衰-
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておく、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地誌学	GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description
本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks
なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じ紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
 - 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
 - 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
 - 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
 - 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
 - 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
 - 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
 - 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
 - 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
 - 第10回 自己分析
 - 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
 - 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
 - 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
 - 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description
 本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。
 ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
 ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
 ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 社会人のマナー
 - 3回 選挙・まちづくり
 - 4回 災害への備え
 - 5回 犯罪防止
 - 6回 自転車の交通安全
 - 7回 消費者トラブル
 - 8回 大学生とお金
 - 9回 身体の健康
 - 10回 心の健康
 - 11回 ハラスメント防止
 - 12回 消防と救急
 - 13回 薬物乱用
 - 14回 振り返り
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
 授業中に行う質疑応答 ... 10%
 まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バスケットボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バスケットボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。
また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活をより実りあるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ② キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③ SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④ わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤ わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥ わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦ これからの日本社会をとりまく環境 【このままで日本はどうか】
- ⑧ 自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨ 見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪ キャリアの転機とエンプロイアビリティ 【社会が求める人物とは】
- ⑫ リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬ 自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭ 将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮ 全体まとめ、ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

①遅刻厳禁②飲食禁止③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだすか』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全

実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ（T&G）、サニーサイドアップ、チームラボキッズ（teamLab）、労働基準監督官（厚生労働省）、カモ井加工紙（mt）、大創産業（ダイソー）、西日本旅客鉄道（JR西日本）、スノーピーク、全日本空輸（ANA）、本田技研工業（HONDA）、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製薬所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。
やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話いただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。なお、旧授業名は「プロフェッショナルの仕事2」。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには?

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

プロフェッショナルの仕事II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、今回も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「11. まちづくり」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」（1500字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義は、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズに身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(伝える)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します(教材費は1,000円以内の予定)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方(基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方(応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します(100%)。
詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。
新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護(アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート(70%)、エッセイ(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート(A4一枚程度)を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報メディア演習
			INF330F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー
- ソーシャルメディアに対する思考力

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながり再設計する -、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
- 3回目：思考力向上のためのスキル1【批判的な読み方】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
- 9回目：思考力向上のためのスキル2【視座図と視点図】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに教科書を読んで、次の授業の内容を必ず理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、受講生の皆さんの意見や課題の結論等を発表、共有する場面が多くある。積極的に発言してもらいたい。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、思考力、アクティブラーニング

英語I (群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社 1404円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel/Food
- 2回 At the Office/Hotels
- 3回 Office Life/Recreation
- 4回 Advertising/On the Job
- 5回 Business/Restaurants
- 6回 Travel/Office Life
- 7回 Transportation/Culture
- 8回 At Work/Holidays
- 9回 On the Job/Restaurants
- 10回 Weather/Business World
- 11回 Travel/Human Resources
- 12回 Education/Celebrations
- 13回 Office Environment/Restaurants
- 14回 Business World/Shopping
- 15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政 1 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN: 9784023315686
Matthew Wilson / Tomoyuki Tsuruoka、QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L & R TEST 600 Listening、松柏社、1,430円、ISBN: 9784889187506

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN:9784023316843

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course Introduction
- Week 2: Scene 1 Travel, Scene 2 Human Resources / 金のフレーズ音読
- Week 3: Scene 3 Education, Scene 4 Office Life / 金のフレーズ語彙テスト pp. 10-31
- Week 4: Scene 5 Celebrations, Scene 6 Job Interviews / 金のフレーズ語彙テスト pp. 32-53
- Week 5: Scene 7 Food, Scene 8 At Work / 金のフレーズ語彙テスト pp. 54-75
- Week 6: Scene 9 Daily Life, Scene 10 Recreation / 金のフレーズ語彙テスト pp. 76-97
- Week 7: Scene 11 Travel, Scene 12 Business / 金のフレーズ語彙テスト pp. 98-119
- Week 8: Scene 13 Sightseeing, Scene 14 On the Job / 金のフレーズ語彙テスト pp. 120-141
- Week 9: Scene 15 Restaurants, Scene 16 Shopping / 金のフレーズ語彙テスト pp. 142-163
- Week 10: Scene 17 Business World, Scene 18 Restaurants / 金のフレーズ語彙テスト pp. 164-185
- Week 11: Scene 19 Office Life, Scene 20 Recreation / 金のフレーズ語彙テスト pp. 186-207
- Week 12: Scene 21 Travel, Scene 22 Office Environment / 金のフレーズ語彙テスト pp. 208-229
- Week 13: Scene 23 Hotels, Scene 24 On the Job / 金のフレーズ語彙テスト pp. 230-251
- Week 14: Scene 25 Money, Scene 26 Office Meetings / 金のフレーズ語彙テスト pp. 252-271
- Week 15: Scene 27 Shopping, Scene 28 Business World

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%）及び期末試験（50%）に基づいて行う。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。金のフレーズ語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

第1回の授業の前に必ず生協で教科書を購入すること。使用済みの教科書・教科書のコピーは容認されません。

必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。

理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

『First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition』 センゲージラーニング 2,200円 ISBN978-4-86312-293-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会
- 『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 1』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 復習
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、中間確認テスト20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加度10%
最終評価には TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前後にそれぞれ予習、復習をやること。
予習...単語の学習 (毎回単語テストを実施する)
復習...学習した箇所を必ず復習すること。
不明な点を明らかにし必要ならば質問すること

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Surprising Japan! 2 (SHOHAKUSHA)
(1,850円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 What makes Kobe beef so special?
- 第 3 回 What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?
- 第 4 回 What are the seven things in shichimi?
- 第 5 回 Why does Japan's postal symbol look like that?
- 第 6 回 Why is there plastic grass in my bento?
- 第 7 回 Why is there a 5 o'clock bell?
- 第 8 回 Why do train drivers in Japan make those strange gestures?
- 第 9 回 How is nori made?
- 第 1 0 回 Why do Japanese wear masks?
- 第 1 1 回 What do the dates on food packages mean?
- 第 1 2 回 Why do Japanese ask about blood type?
- 第 1 3 回 Do Japanese mosquito coils work?
- 第 1 4 回 Why does miso soup move by itself?
- 第 1 5 回 What are those giant concrete things by the sea?

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

(注) 平常点は 30% であるが、4 回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価には TOEIC スコア が反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (律政 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3」 朝日出版社 ¥1836 (朝)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語III (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

英語III (律政 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅲ
			ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Four Corners Second Edition Level 2A Jack Richards 他著 ケンブリッジ大学出版 ￥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 New friends
- 3回 Unit2 People and places
- 4回 Unit3 What's that?
- 5回 Unit4 Daily life
- 6回 Unit5 Free time
- 7回 Unit6 Work and play
- 8回 まとめ1
- 9回 Unit7 Shopping
- 10回 Unit8 Fun in the city
- 11回 Unit9 People
- 12回 Unit10 In a restaurant
- 13回 Unit11 Entertainment
- 14回 Unit12 Time for a change
- 15回 まとめ2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と面接試験(20%)と筆記試験(60%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：前回の復習
事後学習：該当回の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 IV (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政 1 - H /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
 This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 2B (Second edition)
 Publisher: CUP
 ISBN: 9781108627726
 Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction/orientation
- Week 2: Telling stories
- Week 3: Giving and discussing tips
- Week 4: Describing how food is prepared
- Week 5: Discussing how to react in situations
- Week 6: Comparing and contrasting cities
- Week 7: Talking about character traits
- Week 8: Presentation 1
- Week 9: Describing inventions
- Week 10: Describing past events
- Week 11: Speculating about everyday situations
- Week 12: Reporting what others say
- Week 13: Talking about getting things done
- Week 14: Discussing environmental trends
- Week 15: Presentation 2 and exam outline.

成績評価の方法 /Assessment Method

- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 30%

英語 IV (律政 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

J.C. Richards & D. Bohike 著 「Four Corners 2B (second Edition)」 Cambridge University Press 2200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第3回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第4回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第5回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第6回 中間テスト (1)
- 第7回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第8回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第9回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第10回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第11回 中間テスト (2)
- 第12回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第13回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第14回 基本文法 & 英作 & 会話
- 第15回 基本文法 & 英作 & 会話

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で翌週の小テストの箇所を告知するので、必ず復習しておくこと。また、予習に関しては、指定された学習箇所の意味を事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎日の自己学習は、使用テキストの会話や英語表現を覚えることに重点を置いてください。繰り返し音読して覚え、覚えた表現を忘れないために、意識的に復習して記憶を定着させるように心がけてください。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2-E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 C - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC形式のPre-testで現在の実力を把握して、12のユニットで各パートの解答力アップのポイントを学び、それを踏まえた上で練習問題に取り組むことで目標のスコアとの差を埋めていく努力をします。同時に各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。
仕上げに、Post-testを解いて、それまでの練習の効果を図り、その後の目標達成までの継続的な自己学習へとつなげていきます。

教科書 /Textbooks

Ayako Yokogawa, Tony Cook著
“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
センゲージ・ラーニング 2016年 ¥2,200
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Pre-test の実施。
- 2回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 3回 Unit 2 基本戦略①
- 4回 Unit 3 基本戦略②
- 5回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 6回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 7回 Unit 6 盛会の言い換えパターンを知る
- 8回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 9回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 10回 Unit 9 接続詞vs. 前置詞
- 11回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 12回 Unit 11 接続副詞に強気ある
- 13回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
 平素の学習状況と小テスト・・・35% 期末試験・・・65%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①音声ファイルを活用し、必ず本文の予習をして授業に臨みましょう。
- ②各ユニットの演習問題はTOEIC対策問題として活用しますので、必ず取り組みましょう。
- ③巻末付録のWord Listを予習・復習に活用しましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語二ユース等を通して英語にふれるようにしましょう。
 予習・復習をしましょう

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成 コース：準中級編」 溝口優美子 他著 金星堂 ¥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purshasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
(著者) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200 ISBN978-4-7647-4090-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Travel、文法：
- 3回 Unit 2 Dining Out、文法：形容詞
- 4回 Unit 3 Media、文法：副詞
- 5回 Unit 4 Entertainment、文法：時制
- 6回 Unit 5 Purchasing、文法：主語と動詞の一致
- 7回 Unit 6 Clients、文法：能動態・受動態
- 8回 Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞
- 9回 Unit 7 Recruiting、文法：動名詞・不定詞
- 10回 Unit 8 Personnel、文法：現在分詞・過去分詞
- 11回 Unit 9 Advertising、文法：代名詞
- 12回 Unit 10 Meeting、文法：比較
- 13回 Unit 11 Finance、文法：前置詞
- 14回 Unit 12 Offices、文法：接続詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくること。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-”
(著者) 吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420 ISBN9784791960309

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant 文法：人称代名詞、単語小テスト 1
- 3回 Unit 2 Entertainment 文法：不定代名詞と再帰代名詞
- 4回 Unit 3 Business 文法：現在・過去の時制
- 5回 Unit 4 Office 文法：現在完了
- 6回 Unit 5 Telephone 文法：時・期間を表す前置詞
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail 文法：位置・場所を表す前置詞
- 8回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題
- 9回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、TOEIC練習問題
- 10回 Unit 8 Bank & Post Office 文法：自動詞と他動詞
- 11回 Unit 9 New Products 文法：形容詞を作る接尾辞
- 12回 Unit 10 Travel① 文法：副詞を作る接尾辞
- 13回 Unit 11 Travel② 文法：分詞構文
- 14回 Unit 12 Job Applications 文法：比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくること。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 律政群 2 - G /Law School 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、550点以上です。

教科書 /Textbooks

石井隆之他著 Perfect Practice for the TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 30% + 期末テスト 40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.
 Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 3: Unit 1: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 5: Unit 2: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 7: Unit 3: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3.
 Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 10: Unit 4: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 12: Unit 5: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, Conversation (video), Grammar check and practice, Pronunciation.
 Week 14: Unit 6: Listening, Reading, Speaking, if time supplementary activities.
 Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%
 Final exam 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Please don't use your smart phone in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Second Edition) JC Richards and D Bohlke, ISBN 9781108627726, ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

n/a

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule*

- Lesson 1: Introduction to the class
- Lesson 2: Unit 1, Lessons A&B
- Lesson 3: Unit 1, Lessons C&D
- Lesson 4: Unit 2, Lessons A&B
- Lesson 5: Unit 2, Lessons C&D
- Lesson 6: Unit 3, Lessons A&B
- Lesson 7: Unit 3, Review
- Lesson 8: Midterm test
- Lesson 9: Unit 4, Lessons A&B
- Lesson 10: Unit 4, Lessons C&D
- Lesson 11: Unit 5, Lessons A&B
- Lesson 12: Unit 5, Lessons C&D
- Lesson 13: Unit 6, Lessons A&B
- Lesson 14: Unit 6, Lessons C&D
- Lesson 15: Speaking test and review

*May be changed to suit the needs of the class

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)
- 10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)
- 10% Vocabulary Quizzes
- 20% Speaking test
- 15% Midterm test
- 15% Final Test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make consistent effort! I design my class and grading to encourage good English study habits outside of class. With good attendance, homework, and preparing for the vocabulary quizzes, you can do well in this class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。

Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える

Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める

Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる

Active Learning: 語彙や表現法を学習する

Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる

Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書 /Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ¥1,870

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Desert Wisdom
- 第3回 Unit 2 The Power of Friendship
- 第4回 Unit 3 Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
- 第5回 Unit 4 Men are from Mars, Women are from Venus
- 第6回 Unit 5 The Beginning Parts of Botchan
- 第7回 Unit 6 Guernica
- 第8回 Unit 7 The Art of Lying
- 第9回 Unit 8 Fuji-san
- 第10回 Unit 9 The Three Secrets to Persuasion
- 第11回 Unit 10 Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
- 第12回 Unit 11 Eating Disorders
- 第13回 Unit 12 Working Conditions, Death from Overwork
- 第14回 Unit 13 Emotional Robots
- 第15回 Unit 14 Maslow's Hierarchy of Needs

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%, 小テスト 20%, 平常点(課題を含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業範囲の予習を行う

事後学習：学習内容の復習を行い、単語リストを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』

著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,

2020年1月 発行、 ¥2,700 (税別)

出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------------|--------------------------|
| 1回 | はじめに 英語を学ぶということ | |
| 2回 | 聴解 (単語と文法の力をつける①) | 読解 (単語と文法の力をつける①) |
| 3回 | 聴解 (単語と文法の力をつける②) | 読解 (単語と文法の力をつける②) |
| 4回 | 聴解 (単語と文法の力をつける③) | 読解 (単語と文法の力をつける③) |
| 5回 | 聴解 (単語と文法の力をつける④) | 読解 (文脈を考える①) |
| 6回 | 聴解 (英語の音に注目する①) | 読解 (文脈を考える②) |
| 7回 | 聴解 (英語の音に注目する②) | 読解 (文脈を考える③) |
| 8回 | 聴解 (英語の音に注目する③) | 読解 (言語外の知識を利用する①) |
| 9回 | 聴解 (英語の音に注目する④) | 読解 (言語外の知識を利用する②) |
| 10回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する①) | 読解 (言語外の知識を利用する③) |
| 11回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する②) | 読解 (言外の意味を捉える①) |
| 12回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する③) | 読解 (言外の意味を捉える②) |
| 13回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する④) | 読解 (言外の意味を捉える③) |
| 14回 | 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) | 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (英中国済営比人律政3年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor: ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語VIII	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～ありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語Ⅰ・Ⅱ』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【ㄹ 거예요】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状態説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ！韓国語（改訂版）』白水社 2017年。2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-를 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 10% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

ロシア語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

外国人用のロシア語テキストの読解、および会話テキストの聞き取り読解・訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話ができるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	Скоро первое сентября
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	Мама и футбол
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	Мать
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	Салют
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	Гипноз
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	Важный разговор
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	Трудный экзамен
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	Дом отдыха
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	Бабушка и Вовка
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	Вторая молодость
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	О чём думает марабу?
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	Как я встречал новый год
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	Любимый праздник
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	Это случилось в воздухе
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	Мои друзья

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課の復習
- 2回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 3回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 4回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 5回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 6回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 7回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 8回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習
- 10回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 11回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 12回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 13回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 14回 ビデオ学習④ 会話練習、作文【Я И СПОРТ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】 物】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持ってない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV 「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

ドイツ語II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言いで話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数的一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDにつかかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパン・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパン・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新装 カフェ・フランセ ニコラ・ガイヤール 他著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむづかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルールの復習
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 dialogueの練習と頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞の復習
- 5回目 dialogueの練習と人称代名詞の位置について(2課終了)
- 6回目 代名動詞と過去分詞の性数一致について
- 7回目 代名動詞の複合過去形 (3課終了)
- 8回目 dialogueの練習と中性代名詞
- 9回目 指示代名詞について (4課終了)
- 10回目 単純未来と近接未来
- 11回目 dialogue の練習 (5課終了)
- 12回目 現在分詞
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 lecture (6課終了)
- 15回目 受動態と所有代名詞 (補足)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 大過去
- 4回目 代過去のおさらいと時・理由・条件を表す接続詞 (7課終了)
- 5回目 dialogueの練習と接続詞を使う練習 (8課終了)
- 6回目 条件法のはなし
- 7回目 条件法現在の形と用法
- 8回目 条件法過去について
- 9回目 dialogueの練習とactivities (9課終了)
- 10回目 関係代名詞 que と qui
- 11回目 関係代名詞 ce que と ce qui
- 12回目 関係代名詞 ou と dont
- 13回目 強調構文と接続法について (10課終了)
- 14回目 接続法の練習 (11課終了)
- 15回目 lecture (12課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) unité 5 : どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・ 40%
期末テスト・・・ 40%
授業中の取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違うか、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

スペイン語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはず。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

教科書 /Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをしますが、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 再帰動詞、無人称文など(1)
- 5 再帰動詞、無人称文など(2)
- 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 8 点過去、現在完了の用法(1)
- 9 同上(2)
- 10 同上(3)
- 11 線過去の用法(1)
- 12 同上(2)
- 13 同上(3)
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)
- 15 同上(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法 (1)
- 2 同上 (2)
- 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
- 4 同上 (2)
- 5 過去完了と時制の一致
- 6 受け身文、無人称文 (1)
- 7 同上 (2)
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法 (1)
- 10 接続法の用法 (2)
- 11 スペイン語版トトロを理解する (1)
- 12 スペイン語版トトロを理解する (2)
- 13 スペイン語版トトロを理解する (3)
- 14 スペイン語版トトロを理解する (4)
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を読み暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020（1学期と同じ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、提示された課題をメールで送ること。
事後学習として、授業内容を踏まえた応用課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SNSが発展しているけれども、大学や社会においては、Eメールがいまだに重要なコミュニケーション・ツールとなっています。キャンパス・ジャパニーズの基本となるEメールの書き方を中心に、書き言葉でのコミュニケーション能力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
- 石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン(テーマ決め・準備)	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン(発表)	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン(発表と自己評価)	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ピジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子他、くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の多様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他編著、研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】
- 7回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 8回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 10回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】
- 11回 「言語間の平等を考える」【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み(課題や授業中の発表を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいってください。

キーワード /Keywords

多文化共生 社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

法学総論【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義の到達目標とします。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジユメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正巳・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる(べき)か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボデイガードが殴ってきたら？…【国家=権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公/私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法/私法】、【実体法/手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか/反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験…100%
- ・ 授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求められることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

法学総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

法(学)には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、例外的な考えや細かな考えに繋がって行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 山田 忠政 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 I

LAW200M

授業の概要 /Course Description

法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及びその他法律に関わる様々な職業（司法書士、裁判所書記官、検察事務官など）の役割、現代的意義を理解することを目的とします。

講義の他、特別講師による講演を予定しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、講義には最新版の六法を持参してください（出版社等は問いません）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記スケジュールの変更を要するときは、事前にお知らせします。

- 1回 オリエンテーション 本講義について
- 2回 法曹三者に関する基礎知識
- 3回 法曹に必要なマインドとスキル(1)
- 4回 法曹に必要なマインドとスキル(2)
- 5回 刑事裁判の基礎、仕組み
- 6回 民事裁判の基礎、仕組み
- 7回 裁判官の業務、その役割
- 8回 検察官の業務、その役割
- 9回 弁護士の業務、その役割
- 10回 弁護士講師による講演
- 11回 裁判所事務官(書記官)、検察事務官、法律事務員の業務、その役割
- 12回 隣接法律専門職講師による講演(司法書士を予定)
- 13回 周辺他種業講師による講演(裁判所書記官等を予定)
- 14回 法律学の学習の意義、仕方
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・ 50%

定期試験・・・ 50%

※授業又は講演終了後に、A4用紙半分程度のレポート提出を求めます。

※講演中の私語・途中入退室を減点対象とします。

※レポート未提出者は、学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマについて事前に調べて講義や講演に臨むことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

現代法曹論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

進捗や外部講師の都合によりスケジュールを変更する場合があります。
授業内容や講師の変更がある場合には、事前にお知らせします。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状と課題を学ぶために必要かつ有益な能力を身につけることです。具体的には、次のことを学びます。

- (1) 社会で生じている実際の事件や紛争、そして、それらを解決するための法システムに存在する問題点を発見する方法
- (2) 問題点を検討するにあたり、資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）
- (3) 収集した資料を精読・分析する方法
- (4) ゼミ内で検討結果としての自分の考えを発表する方法
- (5) 論点についてお互いに討論する方法

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』第3版（有斐閣・2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
池田 真朗 ほか著『判例学習のA to Z』（有斐閣・2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、役割分担を決める。
授業の受け方・講義ノートの取り方・レポート作成上の注意を学ぶ。
- 第2回 パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
- 第3回 各自、興味のある法律問題・事件について調べる。
そのうえで候補テーマに関して、文献資料や判例等がどの程度存在しているのが調査する。
- 第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
- 第5回 文献の要約の仕方を学ぶ。
- 第6回 報告書（レジュメ）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方について学習する。
報告者の順番を決める。
- 第7回 レポートの作成方法を学ぶ。
- 第8回～第15回 報告順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、ゼミ放棄とみなします。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。

具体的には以下のとおりです。

- 1, 報告者にはレジユメの作成と参加者への配布を行うこと
- 2, 報告者以外の受講者は、事前に報告予定者のレジユメを読み込みんでおき、質問事項を準備すること
- 3, 事後的に論点についての議論を振り返ったうえで、自説をまとめておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, ゼミへの積極的な参加を希望します。
- 2, 報告者は、翌週の講義回においては報告担当者のために「司会者」の役割を果たすことになります。
- 3, 2名以上のグループ学習・討論の機会が設けられることがあります。

キーワード /Keywords

文献検索、レジユメの作成、ディスカッション、文献引用法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な基礎知識とスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 報告者を決めて、全員で基礎的な法学文献を読む、
- ② リーガルリサーチの仕方や文献引用の方法などを学ぶ、
- ③ その実践として、履修者は一定のテーマについて<情報収集→分析→レジユメの作成→報告→討論>を行う、
- ④ それを受けてレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（講談社、2012年）、弥永真生『法律学習マニュアル（第4版）』（有斐閣、2016年）、斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法学の基礎知識
- 第3～6回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第7回 リーガルリサーチ① -法令・判例・文献の探し方
- 第8回 リーガルリサーチ② -文献の種類と文献引用の仕方
- 第9～14回 履修者の報告と討論
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユメおよび報告（40%）、日常の授業への取り組み（40%）、レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジユメ作成、報告、討論への参加、レポート提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、判例の分析、議論を通じて、法律を学ぶ上での基礎的知識を修得し、法的思考の基本を身につけることを目的とします。
演習では、労働法分野の近時の最高裁判決や『労働判例百選』掲載の重要判決を読みたいと思います。受講生全員に判決を読んできていただきます。受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。受講生の報告を中心に進めますが、労働法の基本的な内容や関連判例は、教員のほうからフォローします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○村中孝史＝荒木尚志編『労働判例百選（第9版）』（有斐閣・2016年）
野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例・文献の調べ方、引用方法
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 判例の検討
- 第9回 判例の検討
- 第10回 判例の検討
- 第11回 判例の検討
- 第12回 判例の検討
- 第13回 判例の検討
- 第14回 判例の検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：演習で扱う判決を読んでくること。
事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づき、さらに文献等を調べ、理解を深めること。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指しています。
また北九州市立大学が国際交流協定を結んでいる海外の協定大学からの短期留学生との合同授業を予定しています（国際教養演習との合併）ので、留学生との交流を望む学生はふるってご参加ください。その経験を生かし、夏休み中の海外体験の実践を求めます。具体的プランのない人には、二宮が担当する基盤教育科目のライフ・デザイン特講B（海外学習プログラム）の受講がおすすめです。

到達目標は、

- 法情報検索技術の基礎を身につける、
- 知識や情報を集めて自分の意見を言うことができる、
- チームを組んで特定の課題に取り組むことができる、
- ディスカッションやプレゼンテーションを通じ、自分の考えをわかりやすく述べることができる、
- 短期留学生との交流を通じ、異文化に対する受容性を育む、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。
基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、別途、指示します。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 コースガイダンス
第02回 あなたの関心のある国際問題は何？
- 【リーガルリサーチの基礎を学ぶ】
- 第03回 学術的なリサーチの基礎を学ぼう (OPAC, CiNii, データベースなどの使い方)
第04回 北九州市立大学図書館や法学部資料室を探検しよう
第05回 実践課題: 関心のあるテーマについて < Buddy Work >
第06回 成果報告会
- 【国際的な時事問題についてみんなで議論しよう】
- 第07回 時事問題Aに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Bに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第08回 時事問題Cに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Dに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第09回 時事問題Eに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Fに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第10回 時事問題Gに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Hに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第11回 時事問題Iに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Jに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第12回 時事問題Kに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Lに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
第13回 時事問題Mに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
時事問題Nに関するブリーフィングとフリーディスカッション (45分)
- 第14回 夏休み中の海外体験プランを披露しよう
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 関心のある国際問題の発表...10%
リーガルリサーチの成果報告...20%
時事問題に関するブリーフィング...20%
時事問題に関するフリーディスカッションへの貢献...40%
夏休み中の海外体験プランの発表...10%
ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度 (積極的な発言など) を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- 夏休み中の海外体験の実践が求められます。また予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。
- IとIIをセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 法学部法律学科へようこそ。あなたの夢は何ですか。
この一年間は、その実現にとって必要な基礎を固める大切な時期となります。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

- 【法的分析等に関する基礎技術の習得】 【留学生との交流】 【海外体験】

法学基礎演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得します。
次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方を学習します。

本授業は、レポートの書き方に重点を置いたものです。

受講生との話し合いにより、テーマを選定します。
そのテーマに関し報告者がレポートを作成します。
このレポートを基にグループで議論しながら、受講生が授業中にこのレポートを添削します。
他の受講生の添削を参考に、改めてレポートを作成し、担当者に、後日、提出します。

自己でレポートを作成すること、他の受講生の作成したレポートを添削すること、添削に併せてグループで議論することにより、レポート作成方法、法律的思考方法を習得します。

テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他受講生の希望により決定します。

グループ学習を基本とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例、文献、法令の調べ方について
- 3回 以下、順次、個別テーマについてレポート提出
- 4回～14回 順次、個別テーマについてレポート提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告テーマについて、報告者が図書館の資料、データベースによる判例の検索、インターネットの活用等により、資料を収集する。
この資料を基に自分の見解をまとめ、レポートを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な発言、参加を希望します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、これから法学を学ぶ者にとって必要な知識と技能の習得を目的とします。演習前半では、法学の基礎知識と法令・判例・文献の調べ方をはじめとするリーガル・リサーチの方法を学習します。演習後半では、死刑制度や裁判員制度をめぐるディベート、および憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～8回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ
第9～14回 ディベートまたはグループ報告
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、我が国の法体系、基本的な法律用語、判例や法律文献の探し方、文献の引用方法、討論の練習など、これから法学を学習するために必要な基本的な知識・技能を習得することに加え、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して、法律文献を読む力を養成することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 我が国の法体系
- 第3回 基本的な法律用語の確認
- 第4回 判例・法律文献の探し方(図書館ツアー)
- 第5回 文献の引用方法
- 第6回 討論の練習(1)【議題の設定】
- 第7回 討論の練習(2)【準備(前半)】
- 第8回 討論の練習(3)【準備(後半)】
- 第9回 討論の練習(4)【討論とまとめ】
- 第10回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要(前半)】
- 第11回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(2)【事実の概要(後半)】
- 第12回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(3)【判決理由(前半)】
- 第13回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(4)【判決理由(後半)】
- 第14回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(5)【補足説明】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習、復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

導入科目（法学総論・日本国憲法原論・民法入門）をあわせて受講することが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように、積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要な情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
- 4回～9回 ディベートをやってみよう
- 10回～14回 各担当者による報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法入門と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。

とはいえ、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」的姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。

具体的には、前半で、法律学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法律基礎講座①～法律の構造について
- 第3回 法律基礎講座②～専門的な法律用語
- 第4回 法律基礎講座③～法律のヒエラルキーを知ろう
- 第5回 判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！
- 第6回 判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう
- 第7回 判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記
- 第8回 判決文を読み込む①～判決書の構造
- 第9回 判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握
- 第10回 判決文を読み込む③～グループ報告
- 第11回 判決文を読み込む④～裁判所の判断を読み解こう
- 第12回 判決文を読み込む⑤～グループ報告
- 第13回・第14回 各グループによる事案報告会
- 第15回 まとめ

* 具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。

ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材について、あらかじめ目を通し、疑問点をまとめる。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことで知識の定着を図る。

履修上の注意 /Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。
何度が課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は

①大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を身につけること

②社会的問題に対する関心を高めること
を目的とする。

そのために、原則として各回を前半と後半に分け、前半部では指定教科書の講読を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。

これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に 第2版』（弘文堂、2017年）（1000円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法学入門書各種

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）

第2回 グループディスカッション

第3回 法学とは何か（1）

第4回 法学とは何か（2）

第5～13回 前半：テキスト講読・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討

第14回 総合討論

第15回 まとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり

※大学施設案内や図書館利用方法のガイダンス等も実施する予定

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の主体的参加状況：70%

中間レポート：10%

学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書講読に関しては、各回内容の予習・復習。

取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法学の基礎技術（1）」

現代社会においては、さまざまな問題が絶えず発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書 /Textbooks

①六法（2020年版・令和2年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません）。

②テキストを指定しません。随時必要な資料を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

この他、随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』2版（弘文堂・2017.11）。

○法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。

井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。

田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』2版（有斐閣・2019.12）。

○弥永真生『法律学習マニュアル』4版（有斐閣・2016.04）。

○早川吉尚『法学入門（有斐閣ストウディア）』（有斐閣・2016.03）。

○田中成明『法学入門』新版（有斐閣・2016.03）。

山下純司 / 深町晋也 / 高橋信行『学生生活の法学入門』（弘文堂・2019.12）。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※事情により内容を変更することもあります。
- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明、自己紹介など)
 - 2回 文献の読み方を学ぶ(1)キー・センテンスの発見
 - 3回 文献の読み方を学ぶ(2)要約
 - 4回 文献の読み方を学ぶ(3)パラグラフ・リーディング
 - 5回 文献の読み方を学ぶ(4)文献を読み解くとは?
 - 6回 情報を収集する(1)図書館実習
 - 7回 情報を収集する(2)新聞記事と法令の検索
 - 8回 情報を収集する(3)判例・裁判例と文献の検索
 - 9回 情報を収集する(4)引用の方法
 - 10回 文章を書く(1)文献リストをつくる
 - 11回 文章を書く(2)レポートの要素と構成
 - 12回 文章を書く(3)主題と要旨
 - 13回 文章を書く(4)レポートの比較検討
 - 14回 文書を書く(5)優れたレポートとは?
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
提出されたレポート等(30%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(50%)を総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①担当した課題(テーマ)について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジюмеを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に臨んでください。
- ②演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定しています。基礎演習IIも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習I【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

学部を問わず、いわゆる演習（ゼミ）に求められる要素はいくつかありますが、とりわけ参加者の主体性・積極性という点においては（少なくとも他の講義に比べ）いささか強く求められると思います。誤解を恐れて言い換えれば、ゼミは参加者の「自由」の程度が高いということです。しかしながらその一方で、ゼミには「お作法」のようなものがあるのも事実です。例えば、「読む・調べる・まとめる・報告する・議論する・理解を深める」といった一連の流れは、残念ながら / 当然ながら「自由」ではなく、それなりの「読み方・調べ方・まとめ方・報告の仕方など」があります。このことを踏まえ、本ゼミは、参加者全員が、そうした最低限の「お作法」をゆっくりでも / じっくりと習得することを最大のねらい（到達目標）とします。とりわけ、①「まとめ」としてのレジユメの作成、およびそれを基にした②「報告」、③「議論」ができるようになることを暫定的なゴールにしておきたいと思います。なお、扱う内容（テーマ）は、広く社会問題です。法が関わらない社会問題はおそらく存在しないからです。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する予定です。使用する場合は、参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミを進めていく中で適宜、参加者に提示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2～3回 「お作法」シミュレーション（1）短い文章を素材にしてゼミの流れを掴む
- 第4～5回 「お作法」シミュレーション（2）自分でテーマを見つけて分析してみる
- 第6～7回 「お作法」シミュレーション（3）テーマに関わる情報収集をしてみる
- 第8～9回 「お作法」シミュレーション（4）レジユメに基づいて報告してみる
- 第10回 振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第11回～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備（レジユメのできばえ）……40%
- ② 報告の内容（説明 / 質疑への応答）……30%
- ③ 議論への貢献度……30%

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、前もってレジユメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います（欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください）。
- ・ 最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なくその都度担当者に尋ねてください。
- ・ 上記にあるように、ゼミで取り扱うテーマは広く社会問題です。法概念や判例を直接取り扱うトレーニングを期待していると期待ハズレとなりますのでご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 法解釈学のスキル習得へと駆け上がっていく前に、社会の中のアレコレを / キョロキョロしながら考えてみたい学生向けかなと思います。
- ・ 本ゼミの場合、「正解 / 不正解」の区別はさほど意味を持ちません。自分なりに一生懸命とりくみ、発話 / 傾聴することを重視します。
- ・ 積極性に自信のある学生の参加はもちろん歓迎しますが、（半歩でも）積極性を身に着けた方がいいカモ、と思っている（だけの）学生も大歓迎いたします。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は法学を学ぶにあたり、基本的な文献を読解する能力を得るとともに、自身で表現するための練習を行います。
まずは、テキストを精読しますが、あわせて、辞書を引く力、文献を調査する能力、レジユメを作成する能力、議論能力など、今後の大学での学習の基礎体力を身につけます。

教科書 /Textbooks

奥田純子ほか『読む力 中上級』（くろしお出版，2013）
道垣内弘人『プレップ 法学を学ぶ前に』（弘文堂，2017）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『論文の教室』（NHK出版，2002年）
横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂，2018）
※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 自己紹介、ゼミのガイダンス
第2回 文献調査について
第3回 図書館ガイダンス(予定)
第4回～9回 文献講読
第10回 各参加者による報告・議論
第11回 各参加者による報告・議論
第12回 各参加者による報告・議論
第13回 各参加者による報告・議論
第14回 各参加者による報告・議論
第15回 演習全体の総括討論
【参加者の状況を見て割合が変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います。
1. 演習への参加状況(60%)
2. 報告レジユメを基にしたペーパー(40%)

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。
演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートにまとめ、期末ペーパーに反映させてください。

履修上の注意 /Remarks

3回以上の正当な理由なき欠席を認めません。演習は、参加者たちによって作り上げていくものです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学という空間において、アカデミック・スキルを一通り学ぶことは必須となる。
演習の前期では主として「読むこと」に重きを置く。

キーワード /Keywords

文献調査，引用

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習（ゼミ）では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識、思考、およびスキルなどを身につけることを最大の目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律（学）文献の調べ方、法学的議論の仕方・方法（論）、パソコン（インターネット・データベース）を利用した（裁）判例などの検索（いわゆる「リーガル・リサーチ」）、判例の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学びます。

なお、この演習は、3・4年次ゼミ（○○専門演習Ⅰ～Ⅳ）などにおいて、各自関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次段階で修得することを想定しています。

本演習では、上記各種の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話をしっかりと理解しながら）聴く」、「自身の法的判断を（レポート、文献書評、および判例評釈等のかたちで）書く・表現する」、および「（法学文献や判決理由を精確に）読む」力を涵養します。しっかりと法律学科での「学び」の基礎・基本を本演習で固めてください。

教科書 /Textbooks

- ①松本 恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）
 - ②いしかわまりこほか（指宿 信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第5版』（日本評論社、2016年）；定価（1,800円＋税）
 - ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習の中で適宜、紹介します。

法学基礎演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、「めやす」です。受講人数・ゼミ生の習熟度・理解度により若干修正される場合があります。

第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験およびレポートについての説明。

第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は、教員が用意します。）

第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）

第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）

第5回 リーガル・リサーチ①：図書館ツアー（5月GW明け頃を予定）

第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）などを学ぶ。

第7回 リーガル・リサーチ③：より高度な法学文献・判例（評釈）等の検索方法を学ぶ。

第8回 「判例」とは何か？：最高裁判決の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学ぶ。

第9回 グループ報告（※さしあたり、3グループを想定）：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）。

第10回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。

第11回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）。

第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論。

第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）。

第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）および教員による補論。

第15回 まとめ：ゲスト（本演習担当者の高校時代からの友人である弁護士）を招いての「特別ゼミ」を実施予定。

※8月初旬にレポートを提出していただきます。内容は、「法（法学）」に関する【文献書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、論文、教科書、小説などジャンルは問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可とします。）。「読書感想文」ではなく、あくまで【書評】を執筆してくださいね。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など.....50%

※レポート（文献書評）の内容.....30%

※期末定期試験の成績.....20%（※福本担当法学基礎演習Ⅰでは期末定期試験を実施するので必ず受験すること！）

【注意】（正当な理由のない）レポート未提出者や期末定期試験未受験者には、原則として単位を付与しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本演習では、研究報告の準備以外に、事前準備（予習）が多く課せられます。たとえば、次の週に扱うテーマや報告グループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように種々の文献等を読み、解らないところなどを調べてくることが要求されます。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分です。

【事後学習】ゼミで扱った内容やグループで報告した判決について、ゼミ生各個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニ・レポートを作成していただく予定です。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分です。

履修上の注意 /Remarks

シラバスをご覧くださいお解かりの通り、「楽勝ゼミ」ではありません。ご注意ください。なお、事前連絡（無理な場合は事後遅滞なき連絡）のない「無断欠席」や「遅刻等」に対しては、退ゼミ処分も含めて厳しい態度で臨みます。「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」がしっかりできるゼミ生になってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的学習姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは平常点は0点です。よって、「緊張感」を持ってゼミに臨んでください。ですが、変な「緊張」はしなくて構いません。ゼミの雰囲気自体は至極アットホームです（これまでの経験上はね.....笑）。

キーワード /Keywords

法的思考の基礎を固める、法的三段論法、リーガル・リサーチ、法学徒としての在り方、判決研究の基礎

法学基礎演習I【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
刑事法学以外にも、大学生活を送る際に必要となる法学以外の教養、一般常識等についても確認する。例えば、メールの書き方をはじめとする、ビジネスマナーに類することも学んで頂きます。
また、図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももうける予定。刑務所見学等、施設見学を行う予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、イントロダクション。
第2回 ゼミで扱うテーマの決定。
第3回～6回 大学生活を送る際に必要となるスキルについて（メールの書き方、ビジネスマナー等）。
第7回～10回 受講者の関心に応じて、具体的な社会的問題を素材として法を学ぶ。
第11回～14回 受講者の関心のあるテーマについて、グループごとに報告、ディスカッション。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回のテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として講義中に配布したレジュメ等を確認し、わからない箇所をそのままにしないこと。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいいので、何かこれに打ち込んだというのを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ（学生時代に頑張ったこと）の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい！という気持ちを持った方の受講を希望します。

法学基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学の基礎を学び、法的思考力を養うことを目的とする。そのためには、まずは資料収集の方法を学び、様々な文献を読むことでその文献の論点を見出し、論点に対して自己の見解を述べられるようにする。また、法的思考力を養うために、刑事法関連のテーマを題材として、グループディスカッションを行う。議論のテーマに関しては、死刑制度、少年法の適用年齢の引き下げ、厳罰化、裁判員制度、被害者なき犯罪と非犯罪化等を予定しているが、受講生と相談しながら決めたいと思う。希望があれば、刑務所参観等を実施する。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 末川博『法学入門（第6版補訂版）有斐閣双書（2014年）。
- 松井茂記=松宮孝明=曾野裕夫『はじめての法律学（第5版）』有斐閣（2017年）。
- 伊藤正己=加藤一郎共著『現代法学入門（第4版）』有斐閣双書（2005年）。
- 松元茂=河野哲也共著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法（改訂第2版）』玉川大学出版（2015年）。
- 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版）』慶應義塾大学出版会（2019年）。
- 川出敏裕=金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 守山正=安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正=小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和信息プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループ報告におけるテーマの設定
- 第3回 資料収集の方法を学ぶ
- 第4回 レジюме及びレポート作成の方法を学ぶ
- 第5回 討論の準備(1)
- 第6回 討論の準備(2)
- 第7回 グループによる報告(1)死刑の是非
- 第8回 グループディスカッション(2)死刑の是非
- 第9回 グループによる報告(1)厳罰化の是非
- 第10回 グループディスカッション(2)厳罰化の是非
- 第11回 グループによる報告(1)少年法の適用年齢引き下げの是非
- 第12回 グループディスカッション(2)少年法の適用年齢引き下げの是非
- 第13回 グループによる報告(1)裁判員制度の是非
- 第14回 グループディスカッション(2)裁判員制度の是非
- 第15回 まとめ

* 授業内容及び報告内容については、受講数によっては変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

3分の1以上欠席した場合は、単位認定はしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は、通常の講義とは異なり、自主的に学ぶ場です。
仲間たちと大いに議論し、楽しく法学の基礎を学びましょう。

キーワード /Keywords

法学、刑事法

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅱでは、次のことを学修します。

- ①事件や紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、
 - ②問題を検討するために必要な資料文献等の検索・収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、③文献資料の分析方法など、法学基礎演習Ⅰにおいてすでに学修したことを前提に、裁判の役割と判例の読み方を学びます。そのため、本演習では、2段階構成をとります。
- 第一段階：教科書の輪読を予定しています。この作業を通して、
裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能が理解できるようになるでしょう。
（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学ぶことができます）
- 第二段階：受講生各自が、一番興味のある法律問題を取り扱った実際の判例を選択して、報告します。
報告者は、当該判例の紹介と批評を行います。
その後、受講者全員で、当該判例の考え方や報告者の批評のあり方・内容等について、自由に議論します。

教科書 /Textbooks

池田 眞朗 ほか著『判例学習のAtoZ』（有斐閣・2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

- 第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定
- 第2回～第7回 教科書の輪読を通して、判例の意義・役割・読み方を学習する。

※以後、課外学習が非常に重要になっていくことに十分留意すること。

- 第2回（判例を読む）判決文の形と判決の分析について
- 第3回 判例の機能と学び方（民事判例：基礎編）
- 第4回 判例の機能と学び方（民事判例：上級編）
- 第5回 判例の機能と学び方（刑事判例：基礎編）
- 第6回 判例の機能と学び方（刑事判例：上級編）
- 第7回 判例の機能と学び方（憲法判例の特殊性）
- 第8回 判例の機能と学び方（憲法判例：上級編）

第9回～第15回 受講者による各自が選んだ判例の発表と討論

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%・ゼミへの参加度 40%、レポート作成 10%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。
正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の担当部分の報告準備とは別に、
①自ら興味を抱く裁判例を選択しておくこと。
②第9回以降に各自が順次行う（あるいは期末に提出する）判例報告を準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。
報告者には、以下の点が求められます。
1, 報告概要（レジюме）を作成し、報告時には、参加者全員にレジюмеのコピーを配布すること。
2, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
3, 事案についての質疑に回答できるように、判決全文を手元に用意して報告に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミへの積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

判例の機能、判例の読み方、判例評釈

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学学習は、それ自体が多くの知識と多彩なスキルを前提としている。この演習は、法学基礎演習Iに引き続き、法学の学び方を学ぶためのものであり、法学学習に必要な知識と発展的なスキルの習得を目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 報告者を決めて、全員で法学文献を読む、
- ② 報告者を決めて、全員で判例を読む、
- ③ 小論文執筆のための中間報告を行う、
- ④ それを受けて小（規模な）論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青木人志著『判例の読み方』（有斐閣、2017年）、上田健ほか著『憲法判例50！（START UP）』（有斐閣、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 基礎的な法学文献の講読と検討
- 第5～8回 基本的な憲法判例の講読と検討
- 第9～14回 履修者の中間報告と検討
- 第15回 まとめ

※受講人数等によって、構成の変更がありうる

成績評価の方法 /Assessment Method

小論文（40%）、中間報告（30%）、日常の授業への取り組み（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。
情報収集、レジュメ作成、報告、討論への参加、小論文提出が求められる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「法学基礎演習I」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、判例の分析、議論を通じて、法律を学ぶ上での基礎的知識を修得し、法的思考の基本を身につけることを目的とします。
演習では、労働法分野の近時の最高裁判決や『労働判例百選』掲載の重要判決を読みたいと思います。受講生全員に判決を読んできていただきます。受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○村中孝史 = 荒木尚志編『労働判例百選(第9版)』(有斐閣・2016年)
野田進 = 山下昇 = 柳澤武編『判例労働法入門(第6版)』(有斐閣・2019年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例の検討
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 判例の検討
- 第9回 判例の検討
- 第10回 判例の検討
- 第11回 判例の検討
- 第12回 判例の検討
- 第13回 判例の検討
- 第14回 判例の検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：演習で扱う判決を読んでくること。
事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づき、さらに文献等を調べ、理解を深めること。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にしたディベートを通じ、受講者に対し、与えられたテーマを論理的に分析・討論していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指します。
また北九州市立大学が国際交流協定を結んでいる海外の協定大学からの短期留学生との合同授業を予定しています（国際教養演習との合併）ので、留学生との交流を望む学生はふるってご参加ください。その経験を生かし、夏休み中の海外体験の実践を求めます。具体的プランのない人には、二宮が担当する基盤教育科目のライフ・デザイン特講B（海外学習プログラム）の受講がおすすめです。

到達目標は、

- 法情報検索技術を身につける、
- 知識や情報を集めて自分の意見を客観的に表現することができる、
- チームを組んで特定の課題に積極的に取り組むことができる、
- ディベートを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をわかりやすく述べることができる、
- 短期留学生との交流を通じ、異文化に対する受容性を深める、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，夏休みの成果の発表
- 第2回 ディベートとは①：実践ビデオを見る
- 第3回 ディベートとは②：文献から紐解く，ディベート【テーマA】の発表とグループ分け
- 第4回 ディベート【テーマA】に関する基礎調査
- 第5回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第6回 立論シートの作成
- 第7回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第8回 Let's Debate! 【A】
- 第9回 総括，ディベート【テーマB】の発表とグループ分け
- 第10回 ディベート【テーマB】に関する基礎調査
- 第11回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第12回 立論シートの作成
- 第13回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第14回 Let's Debate! 【B】
- 第15回 まとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献...20%
ディベートテーマAへの取組...40% (準備作業...15% , ディベート...25%)
ディベートテーマBへの取組...40% (準備作業...15% , ディベート...25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

夏休み中の海外体験の実践が求められます。
また予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

IとIIをセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートを通じ、Iで培った力をさらに伸ばしていきましょう。

キーワード /Keywords

【国際問題の分析】 【ディベート】

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生との話し合いによりテーマを決定します。
原則として、グループで作業してもらいます。
そのテーマについて、文献、判例等を調査し、ディベート形式で議論をします。

この授業は、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成、コミュニケーション力の養成を目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、グループの決定、
- 2回 以下、順次グループによるディベート
- 3回～14回 順次グループによるディベート
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各グループで、テーマについて、参考文献、関連判例を調査する。
調査資料に基づいて、事前にグループで議論し、判例の評価、学説の分析、グループの意見についてまとめる。
レジュメを作成して、授業に臨む。(必要な学習時間の目安は、90分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な準備、発言を期待します。

キーワード /Keywords

文献調査能力 コミュニケーション力

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iで習得した知識と技能のさらなる向上を目的とします。演習前半では、前期に引き続き、法学の基礎知識とリーガル・リサーチの方法を学習したうえで、憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。演習後半では、受講者が関心のあるテーマについてレポートを執筆してまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～6回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ
第7～10回 グループ報告
第11～14回 レポートの執筆指導
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通じて、法律文献を読む力を養成することを目標とする。2学期は、非嫡出子の相続分規定の合憲性が争われた最高裁判例を中心に読んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第4回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(2)【多数意見(前半)】
- 第5回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(3)【多数意見(後半)】
- 第6回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(4)【補足意見(前半)】
- 第7回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(5)【補足意見(後半)】
- 第8回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(6)【反対意見(前半)】
- 第9回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(7)【反対意見(後半)】
- 第10回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第11回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(2)【法廷意見(前半)】
- 第12回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(3)【法廷意見(後半)】
- 第13回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(4)【補足意見(前半)】
- 第14回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(5)【補足意見(後半)】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習、復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

導入科目（法学総論・日本国憲法原論・民法入門）を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期に引き続き，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Iに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告してもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 判例の分析
- 9回～14回 各自が選択したテーマについて個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例研究のための文献収集
- 第3回 データベース利用法
- 第4回 各グループによる判例研究
- 第5回 判例の選択及び後半報告グループ分け
- 第6回・第7回 報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第8回・第9回 報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第10回 中間反省会
- 第11回・第12回 報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第13回・第14回 報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（出席、報告内容、議論に対する姿勢など）、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人も、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は

①大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を見つけること

②社会的問題に対する関心を高めること

を目的とする。

そのために、原則として各回を前半と後半に分け、前半部では実際の判決文や法学の専門文献（初歩的なもの）の読解を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。

これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

【「法学基礎演習Ⅰ」と同じ】

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に 第2版』（弘文堂、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）

第2～9回 前半：判例読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討

第10～14回 前半：法学文献読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討

第15回 全体のまとめ

※参加者の人数等により内容は変更する可能性あり

※参加者の人数によっては、個別報告を科す可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の議論への主体的参加状況：70%

中間レポート：10%

学期末レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例読解・法学文献読解に関しては、各回内容の予習・復習。

取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法学の基礎技術（2）」

現代社会においては、さまざまな問題が絶えず発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書 /Textbooks

①六法（2020年版・令和2年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません）。

②テキストを指定しません。随時必要な資料を参照してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

この他、随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』2版（弘文堂・2017.11）。

○法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。

井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。

田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』2版（有斐閣・2019.12）。

○弥永真生『法律学習マニュアル』4版（有斐閣・2016.04）。

○早川吉尚『法学入門（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣・2016.03）。

○田中成明『法学入門』新版（有斐閣・2016.03）。

山下純司 / 深町晋也 / 高橋信行『学生生活の法学入門』（弘文堂・2019.12）。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※事情により内容を変更することもあります。

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明など)
- 2回 判例を学ぶ (1) 判例とは何か ?
- 3回 判例を学ぶ (2) 判例理論と学説、射程
- 4回 判例を学ぶ (3) 判例を探せ
- 5回 判例を学ぶ (4) 判例評釈の方法
- 6回 判例を学ぶ (5) 判例研究①
- 7回 判例を学ぶ (6) 判例報告②
- 8回 プレゼンテーションを学ぶ (1) プレゼンテーションとディスカッション
- 9回 プレゼンテーションを学ぶ (2) プレゼンテーションとディスカッション
- 10回 プレゼンテーションを学ぶ (3) プレゼンテーションとディスカッション
- 11回 プレゼンテーションを学ぶ (4) プレゼンテーションとディスカッション
- 12回 プレゼンテーションを学ぶ (5) プレゼンテーションとディスカッション
- 13回 プレゼンテーションを学ぶ (6) プレゼンテーションとディスカッション
- 14回 プレゼンテーションを学ぶ (7) プレゼンテーションとディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート等 (30%)、演習における報告内容 (20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容 (50%) を総合的に評価します (カッコ内は評価の全体に占める割合です。)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①担当した課題 (テーマ) について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジюмеを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要 (summary) を作成して演習に臨んでください。
- ②演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

基礎演習IIIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定しています。基礎演習Iも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Iでおおむね習得できた（ことになっている）ゼミでの「お作法」を再確認することから始めます（この意味で、法学基礎演習Iのシラバスもご参照ください）。その上で、各自がテーマを決め、報告・議論を行うことを中心とします。なお、最終成果物として、各自が設定したテーマごとに、小レポートを作成することを予定しています。ちなみにレポートにもお作法（体裁）があります。そのお作法を意識し、体裁が整ったレポートを作成することを到達目標とします。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する予定です。使用する場合は、参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミを進めていく中で適宜、参加者に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2～4回 共通の文章をテーマに「お作法」を思い出す作業
- 第5～6回 レポート作成のポイント
- 第7～8回 共通の文章をテーマに作成したレポートをピアレビューする
- 第9～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①レジュメの作成と報告（40%）
- ②議論への貢献度（40%）
- ③小レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：
報告者は、前もってレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたるなどして、小レポートの作成に備えてください。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います（欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください）。
- ・ 最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なく担当者に尋ねてください。
- ・ 上記にあるように、ゼミで取り扱うテーマは広く社会問題です。法概念や判例を直接取り扱うトレーニングを期待していると期待ハズレとなりますのでご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 法解釈学のスキル習得へと駆け上がっていく前に、社会の中のアレコレを / キョロキョロしながら考えてみたい学生向けかなと思います。
- ・ 本ゼミの場合、「正解 / 不正解」の区別はさほど重要ではありません。自分なりに一生懸命とくみ、発話 / 傾聴することを重視します。
- ・ 積極性に自信のある学生の参加はもちろん歓迎しますが、（半歩でも）積極性を身に着けた方がいカモ、と思っている（だけの）学生も大歓迎いたします。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

後期は、表現することを中心にします。
法学部における学習の基本となる、判例を用いた学習についての基本を学びます。
判例の検討にあたっては、いかなる条文による制度が問題になっており、当該事案で特に争点となる文言を裁判所がどのように解釈したのか、その事案では事実をどのように評価したかを検討してください。
そのうえで、自身の選択した判例を素材に報告・レポートを行う、法的にコミュニケーションする力を身に着けます。

教科書 /Textbooks

横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂、2018）
池田真朗ほか『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。
野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』（筑摩書房、2018）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～第3回 文献講読
第4回 判例学習の方法
第5回～第7回 判例講読
第8回～第14回 判例報告、ディベート
第15回 まとめ
【参加者の状況、人数に応じて変動することがあります】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を考慮して、評価を行います。
授業への取り組み状況 20%
判例報告 30%
期末ペーパー 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】
文献講読にあたっては、事前に当該文献を精読し、それぞれのパラグラフについて「こういうことが書いてある」というのを自分の言葉で説明できるようにしておくこと。判例報告にあたっては、事前にレジュメを配布しておくこと。
【事後学習】
判例報告後、ディベートなどで問題となった事項を反映させておくこと。

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

三回以上の正当な理由なき欠席を認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通じて、法学部生としての文章の型を身につけましょう。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの内容を承(う)けて、より高度な法的思考（特に、最高裁判所が示した判決理由を読む際の【法的三段論法】の駆使・錬磨）、法学文献・判例評釈等の批判的・分析的な読み方、および判例（判決理由）の精確な読み方・扱い方（判例（判決理由中において定立された規範）の抽出方法・その射程範囲の測定・分析手法、および判例評釈執筆手法）などを修得することが本演習の最大の目的です。
法学基礎演習Iとは異なり、本演習では、報告の内容面（質の高さ）やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な民事判例研究報告（債権法分野）を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することとなる「○○専門演習I～IV」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切に望みます。

教科書 /Textbooks

- ①陶久利彦『法的思考のすすめ（第2版）』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）
 - ②窪田充見＝森田宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年）；定価（2,300円＋税）
 - ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介します。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容はあくまで「めやす」です。受講人数や各ゼミ生の理解度・習熟度等により適宜、修正・変更される場合があります。

第1回 ガイダンス：報告グループ&報告順の決定。期末レポート（判例評釈）についての説明。

第2回 最高裁判決の読み方の復習①（法的三段論法の錬磨）-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として-

第3回 最高裁判決の読み方の復習②（最高裁がその判決理由の中で定立した規範〔判例〕の「射程」の分析、大前提たる法的ルール自体を最高裁が規範定立した場合の分析など。）-最大判 昭和40年11月24日 民集19巻8号2019頁を素材として-

第4回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①1～17頁）〔グループA〕。

第5回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①17～47頁）〔グループB〕。

第6回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①48～90頁）〔グループC〕。

第7回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①91～140頁）〔グループD〕。

第8回 キャリアセンター・ツアー（受講生諸君には、是非とも自身のキャリア・プランについてもしっかりと考えてもらいたいと思っています。）

第9回 民事判例研究報告（グループA・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

※採り上げる判決は、教科書②掲載の「最高裁」判決とします（大審院判決の報告希望を妨げるものではありませんが、事実関係の読取りが難解ですので、特段の事情がない場合、最高裁判決とします。）。民法学（債権法学）の基本書・体系書、各種判例評釈、および調査官解説（最高裁判所判例解説民事篇）等を熟読し、質の高い民事判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決について質問や意見を発表することができるように、準備を入念にしておいてください。

第10回 民事判例研究報告（グループA・2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第11回 民事判例研究報告（グループB・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第12回 民事判例研究報告（グループB・2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第13回 民事判例研究報告（グループC・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第14回 民事判例研究報告（グループC・2回目；規範の抽出・射程についての議論、教員による補論）。

第15回 まとめ（実務家〔演習担当者の高校時代からの友人である弁護士〕を招いての「特別ゼミ」を実施予定。内容は「要件事実（論）入門」を予定。）

※令和3年2月初旬、期末レポートを提出していただきます。内容は、各グループで報告した最高裁（または大審院）判決についての【判例評釈】です。

成績評価の方法 /Assessment Method

※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告に当たっていないときの予・復習状況……40%

※民事判例研究報告の内容（レジュメの構成・報告・議論の質の高さおよび内容）……30%

※期末レポート（判例評釈）の内容……30%（期末レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）

【注意】正当な理由なき無断遅刻・無断欠席は、ゼミ受講を放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、負担はより大きくなります。）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げる判決について、種々の観点から質問・指摘などができるように、各種判例評釈、調査官解説、および民法学（主に債権法分野）の基本書・体系書等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。その他、毎回の演習前までに、事前に熟読してくるべき資料等を指示しますので、それらを熟読してくることも求められます。なお、この毎回の予習に必要な学習時間の目安は90分です。

【事後学習】各ゼミ生は、文献輪読で解からなかった点を箇条書きにしたペーパーを提出したり、民事判例研究報告で扱われた最高裁（ないし大審院）判決（自身が所属する報告グループ以外のグループが報告した判決）の判決理由の読み方（判例の射程など）に関する独自の見解をまとめて、ミニ・レポートとして提出しなければなりません。なお、この毎回の復習に必要な学習時間の目安は60分です。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」の負担でキツイと思っている受講生にとっては、過酷な演習になると思われます。覚悟を持って臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をやる場所です。「遊び」に来るところではありません。真剣に学問・研究に取り組んでくださいね……と少しプレッシャーをかけてみました。

キーワード /Keywords

最高裁（ないし大審院）判決の読み方、法的三段論法、（定立された）規範の射程、民事判決研究、債権法、自分のキャリア・プランを考える

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
具体的な社会的問題を取り上げ、法的な問題点等を解説することを通じて、法を学ぶということの具体的なイメージを持てるようにする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。
※ゼミの具体的な内容は、受講者の関心に応じて、適宜調整していく予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいので、何かこれに打ち込んだというものを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ(学生時代に頑張ったこと)の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい!という気持ちを持った方の受講を希望します。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、「法学基礎演習Ⅰ」で掲げた到達目標である法的思考をさらに深めることを目的とする。
「法学基礎演習Ⅰ」では、グループディスカッションを中心に授業を行うが、本演習では、「法学基礎演習Ⅰ」で身に付けた能力を用いて、各自で刑事法に関するテーマ設定を行い、個別報告を通して、法的思考力を高める。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 末川博『法学入門（第6版補訂版）有斐閣双書（2014年）。
- 松井茂記=松宮孝明=曾野裕夫『はじめての法律学（第5版）』有斐閣（2017年）。
- 伊藤正己=加藤一郎共著『現代法学入門（第4版）』有斐閣双書（2005年）。
- 松元茂=河野哲也共著『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法（改訂第2版）』玉川大学出版（2015年）。
- 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版）』慶應義塾大学出版会（2019年）。
- 川出敏裕=金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 守山正=安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正=小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 個別テーマの設定(1)マップの作成
- 第3回 個別テーマの設定(2)報告
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 授業内容及び報告内容については、受講数によっては変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

3分の1以上欠席した場合は、単位認定はしない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に「法学基礎演習I」を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

法学、刑事法

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究 I

LAW290M

授業の概要 /Course Description

学生らは事前に課題文献を自分で邦訳し、その場で翻訳することで、自身で英語の専門の文献を読み解く技能を習得する。当該翻訳した内容について、授業担当者から逐一、「それってどういうことなんですか」と、要約が求められ、表現力を身に付けてもらう。そのうえで、日本法との対照について話し合い、自身で批判的な思考を持ちつつ他者と議論する力を養ってもらう。

教科書 /Textbooks

受講者と話し合う。現時点での担当者の想定文献は以下のとおり。
マーク・ラムザイヤーほか『アメリカから見た日本法』（有斐閣,2019）
Hiroshi Okayama, "Judicializing The Administrative State" (Routledge,2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Eアラン・ファーンズワース『アメリカ法への招待』（勁草書房，2014）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 自己紹介，ガイダンス
第二回 ~十四回 文献講読
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の授業の取り組み 60%
期末のレポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

何よりも、課題となっている文献を翻訳してくること。
授業後は、課題文献において参照された参考文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、外国文献研究であり、外国語文法について必ずしも十分な解説を与えるわけではないことに注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やる気のある方は挑戦してみてください。

キーワード /Keywords

比較法，コモン・ロー

外国文献研究II 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

フランス民法（なかでも、フランス債務法（2016年改正前民法〔債務法〕および改正後民法〔債務法〕ともに扱う予定。））に関する基礎的知識の一端を、原著講読を通じて獲得することがこの授業の主なねらいである。

具体的には、フランス民法（債務法）の基本書（学部生レベルで読みやすいもの。さしあたり、2016年改正前・後の民法〔債務法分野〕の基本書を予定している。）の一部をゆっくりとしたペースで邦訳・輪読していく。その際、フランス語基本文法にも触れるので、フランス語がまったく読めない学生の受講も大歓迎である。

この授業を通じて、外国民法（この授業ではフランス民法）の知識を活用し、わが国の民法における債権法改正などを異なった視点から分析できる能力を身につけてもらい、フランス語というツールを用いて、法的問題およびそれに対する思考・判断を臆気（おぼろげ）ながらも表現できる力を身につけることができるようになってもらう。

最終的には、わが国の民法との法制度比較（比較法的検討）を通じて、わが国の民法上の法制度の理解をいっそう深めてもらえれば幸いである。フランス語自体よりもフランス民法に関心がある受講生の頑張り期待したい。

教科書 /Textbooks

※受講生諸君のフランス語邦訳能力（基本文法がどのくらい習熟できているか）を初回授業時に見極めたくえで、輪読文献を決定する。よって、教科書は、当該文献のコピーを配布することとする。

ただし、仏和辞書については、必ず（古書でもよいから）「紙」の辞書を購入の上、毎回持参すること。色々種類はあるが、フランス語初学者には、倉方 秀憲ほか（編）『プチ・ロワイヤル仏和辞典[第4版]』（旺文社、2010年）を勧める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）

○山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）

レモン・ギリアン、ジャン・ヴァンサン編著（Terme juridique研究会 中村紘一ほか監訳）『フランス法律用語辞典 第2版』（三省堂、2002年）

○滝沢正『フランス法 第4版』（三省堂、2010年）

外国文献研究II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンスおよび授業の進め方についての協議並びにフランス語邦訳能力測定（短かめの仏文を邦訳してもらう。あくまで、フランス語基本文法の習熟度を測定することのみが目的なので、この測定の出来は、成績評価には一切影響しない。よって、初回授業時に必ず「仏和辞書」は持参すること！）。
- 第2回：輪読文献・邦訳箇所の選定結果発表。なお、再度、この文献で邦訳できそうかどうか、アンケートないしヒアリングを実施する。
- 第3回：フランス民法（債務法）の基礎知識についての講義。※輪読文献のコピーをこの回で配布予定。
- 第4回：フランス語基本文法①【つづり字と発音の規則、アンシェヌマとリエゾンについてなど】
- ※以下、第7回までは、フランス民法のテキスト
- 第5回：フランス語基本文法②【名詞の性・冠詞・形容詞（*形態論）】
- 第6回：フランス語基本文法③【動詞の活用、法と時制（複合過去、半過去、条件法、接続法など）（*形態論）】
- 第7回：フランス語基本文法④【関係代名詞、分詞構文、ジェロンティブ、中性代名詞、複文構造など（*統語論）】
- 第8回：邦訳・議論①【「契約の意義・種類」に関する部分】
- 第9回：コース（cause）理論に関する邦語文献の紹介と検討
- 第10回：邦訳・議論②【「コース（cause）理論」に関する部分】
- 第11回：邦訳・議論③【「同時履行の抗弁（権）」に関する部分】
- 第12回：邦訳・議論④【「危険負担（理論）」に関する部分】
- 第13回：邦訳・議論⑤【「解除条件（フランス民法・旧1183条）および（黙示の）解除条件（同法・旧1184条）」に関する部分】
- 第14回：邦訳・議論⑥【「契約の解除（フランス民法・旧1184条）」関連部分；法的基礎・解除の要件・効果】
- 第15回：邦訳・議論⑦【「契約の解除（改正フランス民法における契約解除制度）」の訳読】および「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、質疑・応答および議論への積極的参加の度合い（フランス語初学者については、フランス語基本文法を学ぼうとする意欲・努力・やる気も加味して評価する。）、文献・資料邦訳能力の向上度など.....80%
- ※期末定期試験（フランス債務法分野のテキストの邦訳試験：60分。持込み「すべて可」の予定）.....20%
- 以上の合算で成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】文法事項の理解度測定も兼ねて簡単な邦訳問題を出すので、次回までに邦訳を作っていること。訳の内容もさることながら、一生懸命頑張っているかを観たい。なお、この予習に必要な学習時間の目安は60分である。
- 【事後学習】各回で邦訳し切れなかった部分（1~2文）の邦訳を事後学習として課す。邦訳のポイントないしヒントは、授業の最後に示す。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意 /Remarks

- 何よりも、フランス法（フランス債務法）に関心を持ち、フランス語にも関心を持って邦訳作業を進めることが肝要である。フランス語の基本文法についても解説するので、解からない場合は遠慮なく質問して欲しい。
- なお、理由の如何を問わず、4回以上欠席した場合、原則として単位を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- フランス語が今現在、全く読めなくても、「フランス語が読めるようになりたい！しかも、フランス民法の原著を読めるようになりたい！」というやる気のある学生の受講は大歓迎である！

キーワード /Keywords

フランス民法、債務法、原著講読

法哲学専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

これまでの3年次のゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分が承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『物象化 承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）、ロナルド・ドゥワオーキン『裁判の正義』（木鐸社）、アクセル・ホネット『私たちのなかの私 承認論研究』（法政大学出版局）などである。

本年は、その延長上で、ポール・リクール『正義をこえて 公正の探求1』（法政大学出版局）をテキストとして取り上げる。現代フランスを代表する哲学者であるリクールが、法哲学や裁判といった領域の諸問題と対峙するなかで、法や正義や公正の問題にどのように取り組んだのかについて、分析し検討する。

教科書 /Textbooks

ポール・リクール『正義をこえて 公正の探求1』（法政大学出版局、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ポール・リクール『承認の行程』（法政大学出版局、2006年）

ポール・リクール『道徳から応用倫理へ 公正の探求2』（法政大学出版局、2013年）

法哲学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 リクールについて
- 第3回 序説
- 第4回 権利の主体は誰か
- 第5回 責任の概念
- 第6回 純粹に手続き的な正義論は可能か
- 第7回 ジョン・ロールズの『正義論』以後
- 第8回 正義の審級の複数性
- 第9回 ハンナ・アーレントによる感性的判断と政治的判断
- 第10回 解釈と / または論証
- 第11回 裁く行為
- 第12回 制裁、復権、赦し
- 第13回 良心と法律
- 第14回 論点の整理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジユメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

開講学期（2学期開講）に注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リクール 正義 公正

法哲学専門演習II【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

法哲学専門演習Iでは、現代正義論に関連する文献を講読したが、法哲学専門演習IIでは、「現代正義論」という主題に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法】(【】内は例示。以下同様)
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②【国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義】
- 第6回 自由研究報告④【自由】
- 第7回 自由研究報告⑤【権利】
- 第8回 自由研究報告⑥【生命】
- 第9回 自由研究報告⑦【環境】
- 第10回 自由研究報告⑧【法と国家】
- 第11回 自由研究報告⑨【自由と正義】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命と環境】
- 第13回 自由研究報告⑪【法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学専門演習IIでは特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

旧カリキュラムのもとでの3年生向けのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編著『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（岩波書店）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）などである。

新カリキュラムのもとで始まった4年生ゼミでは、その延長上で、アクセル・ホネット『見えないこと 相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）、M.J.サンデル『リベラリズムと正義の限界（原著第二版）』（勁草書房）、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）、村岡晋一『ドイツ観念論 - カント・フィヒテ・シェリング・ヘーゲル』（講談社、2012年）をテキストとしてとりあげることによって、現代正義論およびその前提となる諸理論について考察してきた。今年は、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）をテキストとしてとりあげる。それにより、現代正義論について概観する（第2部）と同時に、伝統的な法哲学的主題（第1部）や法的思考の特質（第3部）についても分析・検討する。

教科書 /Textbooks

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

平野仁彦、亀本洋、服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002年）

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ～ テキスト選択と参考文献の指示など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【法と法哲学の諸相】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【法規範・法体系・法実践】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【法概念をめぐる諸問題】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【法・道徳・強制】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【法と社会】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【法の価値または目的】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【功利と公正】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【自由と平等】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【文化と正義】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【政治と正義】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【法的思考】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【法的思考をめぐる論争】
- 第15回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑬【法解釈】とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジユメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

開講学期（2学期開講）に注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法の概念 法と正義 法的思考

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

法哲学専門演習Ⅲでは、現代正義論に関連する文献を講読したが、法哲学専門演習Ⅳでは、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法哲学】(【】内は例示。以下同様)
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②【法と国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義と自由】
- 第6回 自由研究報告④【環境と生命】
- 第7回 自由研究報告⑤【法】
- 第8回 自由研究報告⑥【国家】
- 第9回 自由研究報告⑦【正義】
- 第10回 自由研究報告⑧【自由】
- 第11回 自由研究報告⑨【権利】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命倫理と法哲学】
- 第13回 自由研究報告⑪【環境倫理と法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学専門演習Ⅱでは特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

憲法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

憲法の領分は非常に広範だが、この演習では、ひとまず日本国憲法の論点に絞って、掘り下げていくことにする。

本演習の内容は以下の通りである。

- ①メインレポーターが、一定の憲法の争点について、報告する。
- ②サブレポーターが、関連する憲法判例について、報告する。
- ③全員で討議する。

※全員がメインレポートとサブレポートを最低1回ずつ担当する。

教科書 /Textbooks

大石真ほか編『憲法の争点』（有斐閣、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○長谷部恭男ほか編『憲法判例百選I・II（第6版）』（有斐閣、2013年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～14回 履修者の報告と討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメおよび報告（40％）、日常の授業への取り組み（40％）、レポート（20％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

メインレポート40分、サブレポート20分、質疑30分に堪える準備を行うこと。自らが担当した論点か、判例について事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習II」とセットで受講することが望ましい。
小型の六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、憲法の専門的学習を通じて、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。Iの進行の形式は次のとおり。まず指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で分担講読する。各回の報告担当者がレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う形で進めていく。

教科書 /Textbooks

松井茂記『LAW IN CONTEXT 憲法』（有斐閣、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告テーマ・順序決定など）
- 第2回 （“肩慣らし”として）グループ・ディスカッション
- 第3～14回 テキストの分担講読（報告及び議論）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な事前準備が求められる。指定テキストは、憲法上の具体的問題について「設問」を用意し、対立する主張、考えるべき課題を整理したものである。各テーマ10ページ前後の叙述であるが、その内容を理解するためには、十分な読み込みが必要となる。

また、テキストの出版年がやや古いため、最新の状況を理解するために、必要に応じてテキスト以外の文献も参照すること。

各回報告者以外の参加者も、議論に参加する準備として、毎回少なくとも指定テキストを十分に読み込んでおくことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

憲法「学」の領分は、比較法、法思想、法制史、政治哲学、社会学など広範囲にわたる。この演習では、「憲法専門演習III・IV」での論文執筆に向けて、各自の興味関心に沿って報告をしてもらう。テーマは、必ずしも、日本国憲法に直接関わるものである必要はない。例えば、アメリカ連邦最高裁判所や欧州人権裁判所の判例、ホップズやロック、ハーバマス等の翻訳書、海外の一定の法制度の検討でもよい。もちろん、日本国憲法の論点でもよい。ほかにも、個人情報保護やハイトスピーチなどの、憲法に関わる時事的論点でもよい。

本演習の内容は以下の通りである。

- ①メインレポーターが、自らの選択したテーマについて報告する。
- ②全員で討議する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 履修者の中間報告と討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメおよび報告(40%)、日常の授業への取り組み(40%)、レポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

メインレポート30～60分、質疑30分に堪えうる準備を行うこと。自らが担当したテーマについて、事後にレポートの提出を求める。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習I」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、憲法の専門的学習を通じて、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
「演習I」を踏まえて「演習II」では、「演習III」「演習IV」で論文を執筆するための準備を行う。
具体的には、参加者がそれぞれ「①論文のテーマ（問い）、②そのテーマ（問い）をめぐる社会状況や憲法学における議論状況、関連する判例、③自分の見解」をまとめたレジュメを作成して報告し、それに基づいて全員で検討・議論を行うという形で進めていく。
最終的に、論文の全体構成を練り上げることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
第2～14回 各自が決定したテーマに関する報告及び議論
第15回 論文執筆に向けたまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
ゼミレポートの内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な事前準備が求められる。自分の立てた問いに答えるために必要な内容を、十分に・丁寧に調べてまとめることが必要となる。
報告回の前回までにレジュメを完成させて、事前に全員に配布すること。
報告者以外の参加者は、あらかじめ配布レジュメを十分に読み込んでおき、報告者にとって有益な質問・意見を述べる事が求められる。

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法専門演習II 【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習Ⅳ」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。

本演習は、次の手順で行われる。

- ①各自の研究テーマの決定、
- ②授業外でテーマに関する文献を読み込んで全体像を把握、
- ③隔週の研究進捗状況の報告と、それについての検討、
- ④最終的に、目次（全体の構成）と要旨を完成させる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～5回 研究テーマの決定
- 第6～15回 研究報告および検討

成績評価の方法 /Assessment Method

目次と要旨の完成度（40%）、隔週の報告内容（40%）、日常の授業への取り組み（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマの選択や決定の際に、その後の研究の方向性も含めて考えながら、文献にあたること。隔週の報告の間にしっかりと文献を読み込んで、報告に備えること。検討を踏まえて、次の文献にあたりつつ、全体の構成を常に考えること。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習Ⅳ」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テーマはかなり自由に決定してよい（それについては、憲法専門演習Ⅱのシラバスを参照）。ただしその分、憲法または関連分野に強い興味関心をもって取り組むことができる者が望ましい。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅳ」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「Ⅲ」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）
第2～5回 研究テーマの決定
第6～15回 研究報告・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
論文概要（全体構成）の内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。
それをもとにして検討を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「憲法専門演習Ⅳ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

これまで深めてきた憲法および憲法学に関する知見に基づき、「憲法専門演習Ⅲ」と合わせて、論文（1万5千～2万字程度）を執筆することを目的とする。「憲法専門演習Ⅲ」で作成した、目次と要旨に基づき、さらにそれを深めて肉づけし、論文を完成させる。

本演習は、次の手順で行われる。

- ① 授業外でテーマに関する文献をさらに読み込んで各章を肉づけ、
- ② 研究の中間報告と、それについての検討、
- ③ 研究の最終報告と、それについての検討、
- ④ 論文の完成。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～11回 論文の中間報告
- 第12～15回 論文の最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

論文（70%）、レジュメおよび報告（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外での文献講読・執筆活動が前提となる。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席や、正当な理由のない遅刻は許されない。やむをえない場合には、事前に連絡すること。
本演習は「憲法専門演習Ⅲ」とセットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅲ」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「Ⅳ」においては、「Ⅲ」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、さらに研究を専門化、精緻化させながらゼミ論文を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2～15回 研究報告・検討～論文作成

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：30%
各回の議論への主体的参加状況：30%
論文の内容：40%

※論文を完成させられなかった場合、原則として単位は認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。
それをもとにして検討を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「個別研究指導Ⅰ憲法専門演習Ⅲ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい（「Ⅳ」のみで論文を完成させることはかなりの困難を伴う）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 グループ報告またはディベート
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

行政法という科目は、性質上、公益を扱っているような話題であれば、なにがしかの意味で関わる事が出来ます。本演習では行政法についての基本的な調査能力を身に着けたうえで、行政法政策に対して隣接分野がどのように接近しているかを学ぶことで、よりよい解釈、法政策というものについての知見を深めることを目指します。ゼミの後半では、指定されたテーマについてグループで調査してプレゼンテーションを行ってもらい、学生らもそれに対して質問することで、議論能力を身に着けてもらいます。

常に事前の予習で自分の頭で考えることを意識してください。

教科書 /Textbooks

飯田高『法と社会科学をつなぐ』(有斐閣, 2016)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋裕ほか『エコノリーガルスタディーズのすすめ』(有斐閣, 2014)
このほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス, 演習の方針についての確認
第二回~十四回 精読, 報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミにおける報告(30%) ゼミにおける質疑(20%)
最終回までに提出するレポート(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定箇所についての精読をするとともに、指定箇所でも指示されている参照文献をまとめて報告すること。

履修上の注意 /Remarks

演習という科目の性質上、無断での欠席は他の参加者への迷惑になります。特に報告の回での無断欠席は甚大な被害を齎すので厳かに慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員にとってもチャレンジとなります。頑張りましょう。学問的ノリのよさが必要です。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 グループ報告またはディベート
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み40%、レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

前期で法政策を検討するためのツールを手に入れたので、個別の法政策を検討する準備をいたします。
行政法の授業で習った概念を、法政策の方向からとらえなおし、よりよい法律や条例の作成を考えることを目指します。

教科書 /Textbooks

深澤龍一郎ほか『公共政策を学ぶための行政法入門』（法律文化社，2018）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長尾龍一『法学ことはじめ』（信山社叢書,1998）○
水野祐『法のデザイン』（フィルムアート社，2018）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス
第二～十四回 文献購読，報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 30%
報告 30%
期末のペーパー 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に指定されたテキストの部分についてペーパーを作成すること。
報告にあたっては事前にレジユメを作成してメーリングリスト等に送付すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

準備負担は前期にもまして重くなると思われれます。がんばりましょう。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2回 論文テーマの決定
第3～14回 論文指導
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

行政法は、種々の新しい問題と付き合わざるを得ません。そうした問題に対して、法学というものは、おそらく、社会学や経済学等に比べていくぶん古びた道具立てながらも——強制力を最終的には有する規範を用いることができる学問として、やはり参画することが期待されています。たとえば、仮想通貨、自動運転、民泊問題、プロッキングなどがあげられるでしょう。こうした問題を行政法側から扱った文献や、法学の革新を目指す諸論文を読みながら、皆さんの卒業発表の材料を探します。講義の最終回程度までに、専門演習Ⅳで報告又は執筆する内容のタイトルとアウトラインを完成させましょう。そうすることで、現代の政策問題に行政法的にアプローチしつつも、自分自身でそうしたアプローチとは違った方向についても目を向ける能力を養います。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。たとえば、弥永真生＝宍戸常寿『ロボット・AIと法』（有斐閣、2018）¥2,860等。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『論文の教室』（NHKブックス・2002）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 ガイダンス 論文の執筆について
 - 第二回 テーマ探し① AI・ロボット
 - 第三回 テーマ探し② 民泊問題
 - 第四回 テーマ探し③ メガソーラー (これらは例示である)
 - 第五回 立法学のフロンティア 1
 - 第六回 立法学のフロンティア 2
 - 第七回 立法学のフロンティア 3
 - 第八回 現代法の動態 1
 - 第九回 現代法の動態 2
 - 第十回 現代法の動態 3
 - 第十一回 現代法の動態 4
 - 第十二回 現代法の動態 5
 - 第十三回 現代法の動態 6
 - 第十四回 学生の選択した文献
 - 第十五回 まとめ
- (学生の関心、テーマ探し状況に応じて変更があり得る)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末の論文アウトライン 50%

行政法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自身で設定したテーマについて文献調査を行うことが求められる。
報告者は事前にレジユメを作成し、ゼミに送付すること。
なお、毎回、責任質問者を設定し、中心的に質問をすることを求めることを計画している。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習I・IIを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の執筆にあたって、種々の法令やコンメンタール、議会資料を精力的に調査することが必要とされます。
こうした調査についての勘所を得ることも、皆さんが如何なる分野に将来進まれるのであれ、重宝するものです。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 中間報告
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

行政法専門演習Ⅲで設定したテーマについて論文の完成を目指します。
行政法にかかわる新しい問題や自身が選択した本について、自身で官公庁資料や論文を検索し、日々それをまとめながら過ごしてください。
受講生は担当回において設定したテーマについての調査を行った結果を報告し、質疑に応えられるよう準備すること。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 目標の確認
- 第二回 学生の報告 1
- 第三回 学生の報告 2
- 第四回 学生の報告 3
- 第五回 学生の報告 4
- 第六回 学生の報告 5
- 第七回 学生の報告 6
- 第八回 学生の報告 7
- 第九回 執筆指導 1
- 第十回 執筆指導 2
- 第十一回 執筆指導 3
- 第十二回 互いの書いたもののピアレビュー 1
- 第十三回 論文の修正 1
- 第十四回 論文の修正 2
- 第十五回 まとめ

状況に応じて、必要な文献の理解の確認報告を行ってもよい。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告30% 期末の論文 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にゼミ生に向けて報告者はレジュメを送付すること。
平素より文献調査を行い、報告による質疑で得た課題を論文執筆に活かすように。

行政法専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Ⅲを履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の集大成として、何かを形に残しましょう。

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求（1）」

刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ① 法学の基本的な知識の確認
 - ② 法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③ 法を支える基本的思考の理解
 - ④ 刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は担当者に相談してください。

教科書 /Textbooks

- ① 六法（2020年版・令和2年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問いません。）。
- ② 刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 開講時に基本定な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。
- 井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。
 - 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方（法学教室Library）』（有斐閣・2013.04）。
 - 塩見淳『刑法の道しるべ（法学教室Library）』（有斐閣・2015.08）。
 - 山口厚『新判例から見た刑法（法学教室Library）』3版（有斐閣・2015.02）。
 - 只木誠（編著）『刑法演習ノート（刑法を楽しむ21問）』2版（弘文堂・2017.03）。
 - 佐久間修 / 高橋則夫 / 松澤伸 / 安田拓人『Law Practice 刑法』3版（商事法務・2017.10）
 - 大塚裕史『ロースクール演習刑法』2版（法学書院・2013.06）。
 - 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選I総論』7版（有斐閣・2014.07）。
 - 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論』7版（有斐閣・2014.08）。

刑法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

刑法総論・刑法各論の授業内容を踏まえて、基本的な論点を考察する。

- ①報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
- ②報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。
- ③報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
- ④報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
- ⑤報告者は、ディスカッションでの検討を元にしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。

* レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用してください。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 リーガル・リサーチの基礎
- 3回 研究レポートの構成と内容
- 4回 判例と裁判例、判例理論について
- 5回 テーマ(1)の報告と検討
- 6回 テーマ(2)の報告と検討
- 7回 テーマ(3)の報告と検討
- 8回 テーマ(4)の報告と検討
- 9回 テーマ(5)の報告と検討
- 10回 テーマ(6)の報告と検討
- 11回 テーマ(7)の報告と検討
- 12回 テーマ(8)の報告と検討
- 13回 テーマ(9)の報告と検討
- 14回 テーマ(10)の報告と検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。演習後は、ディスカッションでの検討を元に、指摘された事項や疑問点について関連資料等を参照して再検討してください。さらに、レポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直す効果的です。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論(刑法総論)」および「刑法犯罪各論I・II(刑法各論I・II)」を履修していること(または履修中であること。)を求めます。「授業の概要」を参照してください。また、専門演習Iは、専門演習II・III・IVと連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求（2）」

刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ① 法学の基本的な知識の確認
 - ② 法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③ 法を支える基本的思考の理解
 - ④ 刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は担当者に相談してください。

教科書 /Textbooks

① 六法（2020年版・令和2年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問いません。）。

② 刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本定な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

- 井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方（法学教室Library）』（有斐閣・2013.04）。
- 塩見淳『刑法の道しるべ（法学教室Library）』（有斐閣・2015.08）。
- 山口厚『新判例から見た刑法（法学教室Library）』3版（有斐閣・2015.02）。
- 只木誠（編著）『刑法演習ノート（刑法を楽しむ21問）』2版（弘文堂・2017.03）。
- 佐久間修 / 高橋則夫 / 松澤伸 / 安田拓人『Law Practice 刑法』3版（商事法務・2017.10）
- 大塚裕史『ロースクール演習刑法』2版（法学書院・2013.06）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選I総論』7版（有斐閣・2014.07）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論』7版（有斐閣・2014.08）。

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

刑法総論・刑法各論の授業内容を踏まえて、基本的な論点を考察する。

- ①報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
- ②報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。
- ③報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
- ④報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
- ⑤報告者は、ディスカッションでの検討を元にしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。

* レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用してください。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 テーマ(1)の報告と検討
- 3回 テーマ(2)の報告と検討
- 4回 テーマ(3)の報告と検討
- 5回 テーマ(4)の報告と検討
- 6回 テーマ(5)の報告と検討
- 7回 テーマ(6)の報告と検討
- 8回 テーマ(7)の報告と検討
- 9回 テーマ(8)の報告と検討
- 10回 テーマ(9)の報告と検討
- 11回 テーマ(10)の報告と検討
- 12回 テーマ(11)の報告と検討
- 13回 テーマ(12)の報告と検討
- 14回 テーマ(13)の報告と検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。演習後は、ディスカッションでの検討を元に、指摘された事項や疑問点について関連資料等を参照して再検討してください。さらに、レポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直す効果的です。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論(刑法総論)」および「刑法犯罪各論I・II(刑法各論I・II)」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。また、専門演習IIは、専門演習I・III・IVと連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「刑法理論の実践（1）」

刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法の重要判例を素材に刑法理論の実践的な適用を学びます。単なる知識の確認に留まることがないように、判例・学説の分析に基づいて事案を具体的かつ緻密に考察を進めていきます。自己の考察を説得的な文章で表現することを重視します。

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は担当者に相談してください。

教科書 /Textbooks

①六法（2020年版・令和2年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問いません。）。

②刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本定な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

- 井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方（法学教室Library）』（有斐閣・2013.04）。
- 塩見淳『刑法の道しるべ（法学教室Library）』（有斐閣・2015.08）。
- 山口厚『新判例から見た刑法（法学教室Library）』3版（有斐閣・2015.02）。
- 只木誠（編著）『刑法演習ノート（刑法を楽しむ21問）』2版（弘文堂・2017.03）。
- 佐久間修 / 高橋則夫 / 松澤伸 / 安田拓人『Law Practice 刑法』3版（商事法務・2017.10）
- 大塚裕史『ロースクール演習刑法』2版（法学書院・2013.06）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選I総論』7版（有斐閣・2014.07）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論』7版（有斐閣・2014.08）。

刑法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

判例の著名事件を元にした事例を考察する。

- ①報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
- ②報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。
- ③報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
- ④報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
- ⑤報告者は、ディスカッションでの検討を元にしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。

* レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用してください。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 研究レポートの構成と内容
- 3回 判例研究の方法
- 4回 事例分析の方法
- 5回 事例(1)の報告と検討
- 6回 事例(2)の報告と検討
- 7回 事例(3)の報告と検討
- 8回 事例(4)の報告と検討
- 9回 事例(5)の報告と検討
- 10回 事例(6)の報告と検討
- 11回 事例(7)の報告と検討
- 12回 事例(8)の報告と検討
- 13回 事例(9)の報告と検討
- 14回 事例(10)の報告と検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。演習後は、ディスカッションでの検討を元に、指摘された事項や疑問点について関連資料等を参照して再検討してください。さらに、レポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直す効果的です。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論(刑法総論)」および「刑法犯罪各論I・II(刑法各論I・II)」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。また、専門演習Ⅲは、専門演習I・II・IVと連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「刑法理論の実践（2）」

刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法の重要判例を素材に刑法理論の実践的な適用を学びます。単なる知識の確認に留まることがないように、判例・学説の分析に基づいて事案を具体的かつ緻密に考察を進めていきます。自己の考察を説得的な文章で表現することを重視します。

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は担当者に相談してください。

教科書 /Textbooks

①六法（2020年版・令和2年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問いません。）。

②刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本定な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

- 井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方（法学教室Library）』（有斐閣・2013.04）。
- 塩見淳『刑法の道しるべ（法学教室Library）』（有斐閣・2015.08）。
- 山口厚『新判例から見た刑法（法学教室Library）』3版（有斐閣・2015.02）。
- 只木誠（編著）『刑法演習ノート（刑法を楽しむ21問）』2版（弘文堂・2017.03）。
- 佐久間修 / 高橋則夫 / 松澤伸 / 安田拓人『Law Practice 刑法』3版（商事法務・2017.10）
- 大塚裕史『ロースクール演習刑法』2版（法学書院・2013.06）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選I総論』7版（有斐閣・2014.07）。
- 山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論』7版（有斐閣・2014.08）。

刑法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

判例の著名事件を元にした事例を考察する。

- ①報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
- ②報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。
- ③報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
- ④報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
- ⑤報告者は、ディスカッションでの検討を元にしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。

* レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用してください。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 事例(1)の報告と検討
- 3回 事例(2)の報告と検討
- 4回 事例(3)の報告と検討
- 5回 事例(4)の報告と検討
- 6回 事例(5)の報告と検討
- 7回 事例(6)の報告と検討
- 8回 事例(7)の報告と検討
- 9回 事例(8)の報告と検討
- 10回 事例(9)の報告と検討
- 11回 事例(10)の報告と検討
- 12回 事例(11)の報告と検討
- 13回 事例(12)の報告と検討
- 14回 事例(13)の報告と検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。演習後は、ディスカッションでの検討を元に、指摘された事項や疑問点について関連資料等を参照して再検討してください。さらに、レポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直す効果的です。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論(刑法総論)」および「刑法犯罪各論I・II(刑法各論I・II)」を履修していること(または履修中であること。)を求めます。「授業の概要」を参照してください。また、専門演習Ⅳは、専門演習I・II・IIIと連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジюме作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジюме作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、犯罪学及び刑事政策の分野において、受講生自身がテーマを選定し、報告することにより、法的な問題解決能力を身に付けることを目的とする。演習内容としては、個別報告を中心に、受講生全員で報告内容をディスカッションしながら進めていく。また、希望があれば、刑務所参観等を実施する。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

刑事学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

就職活動等での欠席はやむを得ないが、基本的には3分の2以上は出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は、講義とは異なり、自分で課題を見つけ、解決策を見出す場です。

問題意識を持ち、積極的に授業へ参加しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、「刑事学専門演習Ⅰ」で学んだ法的思考や問題解決能力をさらに発展させることに主眼を置いている。そのため、「刑事学専門演習Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。授業の進め方に関しては、個別報告を基に受講生全員でディスカッションを行う。また、希望があれば、刑務所参観等を実施する。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

刑事学専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの選定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

就職活動等での欠席はやむを得ないが、基本的には3分の2以上は出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「刑事学専門演習I」で学んだ内容をさらに深められるような授業にしましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、個別報告を通して、法的思考や問題解決能力を身に付け、受講生全員で討論を行うことにより、社会に出た際に必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。
個別報告に関しては、犯罪学のテーマを選択する場合には、理論を基に考察を行い、刑事政策のテーマを選択する場合には、犯罪の原因を究明し、それに対する対策を考える必要がある。犯罪学や刑事政策の知識を前提に進めるため、事前に犯罪学や刑事司法政策の授業を受講することが望ましい。
希望があれば、刑務所参観等を実施する。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正＝安部哲夫共著『ピギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正＝小林寿一共著『ピギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

就職活動等での欠席はやむを得ないが、基本的には3分の2以上は出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

すでにゼミのいろはは心得ていると思いますので、最後に研究というものに従事してから卒業しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、「刑事学専門演習Ⅲ」と同様、個別報告を通して、法的思考や問題解決能力を身に付け、受講生全員で討論を行うことにより、社会に出た際に必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。したがって、「刑事学専門演習Ⅲ」と併せて受講することが望ましい。
希望があれば、刑務所参観等を実施する。

教科書 /Textbooks

なし。
必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学』成文堂（2016年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

就職活動等での欠席はやむを得ないが、基本的には3分の2以上は出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会に出る最後の場として、自由に研究するもよし、生涯の友を見つけるもよし。最後に楽しみながら勉学に勤めましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

社会保障法専門演習I【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。
実際の判決文を一つ一つ丁寧に読み進めることを通じて、講義では触れられない詳細な法理論を身につける訓練をする。
また、判例研究以外にも、受講者の希望によって、一定のテーマに特化した報告という形態も考えられる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。
基本的に2回の演習で1つの判例・テーマを取り上げ、グループによる報告・検討を基礎に、全員で討論を行う。これを通じて、当該問題・課題に対する自らの見解をまとめあげる。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、討論への参加等、総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

社会保障法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

2学期に開講する「社会保障法専門演習II」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになる。
各回のテーマ理解に必要な基本的事項は、予習・復習により理解の定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に社会保障法専門演習Iを受講した者を対象とし、引き続き社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 今年度全体の総まとめと来年度の課題設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加状況・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

1学期に開講する「社会保障法専門演習I」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになります。
各回のテーマ理解に必要な基礎的事項については、予習・復習により定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障法専門演習II 【昼】

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

主として「社会保障法専門演習Ⅰ・Ⅱ」を昨年度以前に受講済みの者を対象とし、社会保障法分野において、自らの関心のある特定のテーマを設定し、それについての判例及び学術論文を輪読・討論する。
最終的には、2学期終了時に一定のゼミ論文を作成・提出してもらう。そのための指導の一環として位置付けているので、その点を考慮した上、受講すること。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講者と相談の上決定する。
第1回 各自の問題関心の具体化
第2回～第3回 それぞれの問題関心に沿った学術文献を探す
第4回～第14回 各自持ち寄った文献を参加者全員で輪読し討論する。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加状況・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
(事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、自身の論文に活かす。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。
各自が問題関心をしっかり持ち、論文執筆に向け努力を怠らないことが重要。
そのため、講義等を通じて指摘された事項について、各自予習・復習を行うとともに、自発的な授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

津田の担当する「社会保障法専門演習Ⅲ」を受講済みの者を対象とし、1学期に引き続き、自らの関心のある特定のテーマについて、ゼミ論文を作成・提出するための指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

- 第1回 1学期および夏季休業期間中の総括
- 第2回～第14回 各受講者の論文指導
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加状況・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 自身の論文に向き合い、疑問点・課題を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、論文に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講生と相談の上決定する。

ゼミ論執筆のため、各自予習・復習を怠らず、講義等を通じて指摘された事項についての授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習I【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働法に関する判例を読みながら、労働法の基礎的知識からやや専門的な知識までを学び、労働問題に対する一定の法的判断を行う能力を身につけることにあります。

ゼミでは、受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。判例研究のやり方、作法、楽しみを学びながら、労働法の基礎知識の定着を目指します。また、近時の重要判決を読むことで、最近の労働問題の傾向も見たいと思います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田進 = 山下昇 = 柳澤武編『判例労働法入門 (第6版)』(有斐閣・2019年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例・文献の調べ方、引用方法
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 判例の検討
- 第9回 判例の検討
- 第10回 判例の検討
- 第11回 判例の検討
- 第12回 判例の検討
- 第13回 判例の検討
- 第14回 判例の検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当する判例について講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

労働法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 演習 クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働法に関する判例を読みながら、労働法の基礎的知識からやや専門的な知識までを学び、労働問題に対する一定の法的判断を行う能力を身につけることにあります。
各人が関心のあるテーマを選択し、それに関する判例の検討を中心としつつ、ときには統計データの考察や外国法との比較なども行いながら、日本の現状を分析し、検討してもらいます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジユメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田進 = 山下昇 = 柳澤武編『判例労働法入門 (第6版)』(有斐閣・2019年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例の検討
- 第3回 判例の検討
- 第4回 判例の検討
- 第5回 判例の検討
- 第6回 判例の検討
- 第7回 判例の検討
- 第8回 テーマに関する個別報告
- 第9回 テーマに関する個別報告
- 第10回 テーマに関する個別報告
- 第11回 テーマに関する個別報告
- 第12回 テーマに関する個別報告
- 第13回 テーマに関する個別報告
- 第14回 テーマに関する個別報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

労働法専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当テーマについて講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働問題の中から各人が関心に応じて選択したテーマについて、一定の成果物（レポートまたは論文）を完成させることです。
たとえば、治療と労働の両立、育児・介護と仕事の両立、固定残業代、長時間労働、正社員と非正社員との処遇格差といった労働法における現代的課題について、各自が判例の検討、文献の調査・分析、統計データの分析、外国法との比較などを行い、報告し、議論するという形で、演習を進めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマに関する個別報告
- 第3回 テーマに関する個別報告
- 第4回 テーマに関する個別報告
- 第5回 テーマに関する個別報告
- 第6回 テーマに関する個別報告
- 第7回 テーマに関する個別報告
- 第8回 テーマに関する個別報告
- 第9回 テーマに関する個別報告
- 第10回 テーマに関する個別報告
- 第11回 テーマに関する個別報告
- 第12回 テーマに関する個別報告
- 第13回 テーマに関する個別報告
- 第14回 テーマに関する個別報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

労働法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当テーマについて講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働問題の中から各人が関心に応じて選択したテーマについて、一定の成果物（レポートまたは論文）を完成させることです。
たとえば、治療と労働の両立、育児・介護と仕事の両立、固定残業代、長時間労働、正社員と非正社員との処遇格差といった労働法における現代的課題について、各自が判例の検討、文献の調査・分析、統計データの分析、外国法との比較などを行い、報告し、議論するという形で、演習を進めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 テーマに関する個別報告
- 第3回 テーマに関する個別報告
- 第4回 テーマに関する個別報告
- 第5回 テーマに関する個別報告
- 第6回 テーマに関する個別報告
- 第7回 テーマに関する個別報告
- 第8回 テーマに関する個別報告
- 第9回 テーマに関する個別報告
- 第10回 テーマに関する個別報告
- 第11回 テーマに関する個別報告
- 第12回 テーマに関する個別報告
- 第13回 テーマに関する個別報告
- 第14回 テーマに関する個別報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%

労働法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当テーマについて講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

到達目標は、

- 知識や情報を集めて自分の考えを導き出すことができる、
- チームを組んで特定の課題に誠実に取り組むことができる、
- ディベートやディスカッション、プレゼンテーションを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をわかりやすく述べることができる、
- 問題の処理にあたって、理論に加えて、実社会とのつながりを意識することができる
- 責任感を身につける、とします。

教科書 /Textbooks

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 顔合わせ，キャリア形成と演習，コースガイダンス，係決め等
 第2回 ゼミ生の主張 「将来の私と2018年度の目標・行動計画」（各自4分），演習としての年間活動計画の策定
 第3回 リサーチの仕方（Web情報を中心に）
- 【テーマ（グループで自由選定）】に関する概要調査書面及び文献リスト作成（両資料配布）と報告（PPT利用）
- 第4回 グループ作業①：調査の進め方・役割分担の確認，テーマリサーチ
 第5回 グループ作業②：調査結果の持ち寄りとグループでの調整，プレゼン資料の作成
 第6回 プレゼンテーション①（報告と質疑対応）（各グループ30分）
 第7回 プレゼンテーション②（報告と質疑対応）（各グループ30分）
- 【日本における「男女共同参画」の現状と課題】についての調査研究と報告（PPT利用，資料配布）
- 第8回 グループ作業①：調査の進め方・役割分担の確認，テーマリサーチ
 第9回 グループ作業②：各自での調査結果の持ち寄りとグループでの調整
 第10回 グループ作業③：主張等の整理とプレゼン資料の作成
 第11回 プレゼンテーション①（報告と質疑対応）（グループ60分，パワーポイント使用） Group A/B
 第12回 プレゼンテーション②（報告と質疑対応）（グループ60分，パワーポイント使用） Group A/B
 第13回 グループディスカッション①
 第14回 グループディスカッション②
- 夏休みの課題
 第15回 まとめ，4年次の研究テーマについて考える

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
 課題①への取組み...40%
 課題②への取組み...40%
 授業への貢献...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
 また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

実際の指導は選抜時より始まります。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。
 国際法専門演習IIとセットで受講してください。
 4年次にゼミ論文作成のための研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようになるためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで〇〇の点に興味を持ったからだと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張って一緒に作って行きましょう。

到達目標は、

- 知識や情報を集めて自分の考えを客観化することができる、
- チームを組んで特定の課題に真摯に取り組むことができる、
- ディベートやディスカッション、プレゼンテーションを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をよりわかりやすく述べることができる、
- 問題の処理にあたって、理論に加えて、実社会とのつながりを深く意識することができる
- 責任感に基づいた行動ができる、とします。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 コースガイダンス，1学期の振り返り，2学期の取り組み，個別面談，役職決め

■課題『Briefing & Free Discussion - 要約力，討論力をつける』

- ①時事対策も意識し，要約力・討論力を涵養するために，ブリーフィングとフリーディスカッションを行います（40分/set）。
②担当者は，1）時事問題の概要をA4・1枚の「ポンチ絵」資料にまとめてくる。当該資料を全員に配布し，冒頭に7分のブリーフィングを行う。2）その後，30分のフリーディスカッションを実施するので，差配する。3）最後に，議論の様子を3分程度にまとめ，二宮に報告する。なおその他の参加者は，当日までに，下調べなど事前の準備をきっちり行ってこること。

第02回 グループ作業： グループ分け，時事問題の選定

第03回 プレゼンテーション：時事問題①，時事問題②

第04回 プレゼンテーション：時事問題③，時事問題④

第05回 プレゼンテーション：時事問題⑤，まとめ

■課題『Group Discussion - 集団力，協調力をつける』

- ①面接対策も意識し，討論力を涵養するために，グループディスカッションやグループワークを行います。
②担当者は，**/**までに，「テーマ」案を2-3用意し（原則，是非を問う形式とし，法学部/国際法演習としての適性にも留意する）とともに，それぞれ面接の実施組織とその概要を特定してきてください。また採用担当者として，当日の「運営」をお願いします。また最後に講評を行ってまいります。なお参加者は，当日までに，事前の準備をきっちり行ってきてください。

第06回 グループ作業： グループ分け，テーマ等(第1-3候補，Groupごと)の打合せ

第07回 Group Discussion のテーマ等協議・確定

第08回 Group Discussion① 「テーマA」（企業A）（担当：A1・A2）

第09回 Group Discussion② 「テーマB」（市役所B）（担当：B1・B2）

第10回 Group Discussion③ 「テーマC」（企業C）（担当：C1・C2）

第11回 Group Discussion④ 「テーマD」（県庁D）（担当：D1・D2）

第12回 Group Discussion⑤ 「テーマE」（省庁E）（担当：E1・E2）

■課題『卒業研究 - ゼミ論文のテーマ等を考える』

第13回 卒業研究としてのゼミ論文とは？

第14回 テーマ発表①（各15分×5名）

第15回 テーマ発表②（各15分×5名）

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には，出席状況，報告・課題などへの取り組み状況，授業態度，貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
- 課題①への取組み...40%
- 課題②への取組み...40%
- 授業への貢献...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い，事後学習を進め，授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習，復習やサブゼミなど，正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次にゼミ論文作成のための研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】

国際法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。
受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。
到達目標は、
□国際法の領域において、関心に基づき、問題の所在を明確化し、研究論文の対象となるテーマを設定することができる、
□関連文献を渉猟し、適切に、リストを作成することができる、
□先行研究論文を丁寧に読み込み、詳細なレジユメを作成し、文献報告を行うことができる、
□研究の中間成果として、「はじめに」を書きあげ、それに沿ったアウトラインを作成することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階

- ①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
- ②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階

- ①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
- ②先行研究の整理→文献報告
- ③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

予定

- 第1回 インTRODクシヨN【ゼミ論文作成の流れの理解】
- 第2回 問題意識の確認①【ゼミ論文のテーマに関する個別相談・指導】
- 第3回 問題意識の確認②【ゼミ論文のテーマの設定・報告会】
- 第4回 論文作成の可能性の探求【関連文献リストの作成・読み込みスケジュールの策定・報告会】
- 第5回 関連文献等の読み込みによる事実関係等の整理と問題の所在の明確化【個別相談・指導】
- 第6回 問題の所在の明確化【論文の意義の明確化・報告会】
- 第7回 先行研究の精読とレジюме作成，報告①【文献A】
- 第8回 先行研究の精読とレジюме作成，報告②【文献B】
- 第9回 先行研究の精読とレジюме作成，報告③【文献C】
- 第10回 先行研究の精読とレジюме作成，報告④【文献D】
- 第11回 先行研究の精読とレジюме作成，報告⑤【文献E】
- 第12回 関連文献の整理①【進捗状況の相談・指導：第1次】
- 第13回 関連文献の整理②【進捗状況の相談・指導：第2次】
- 第14回 ゼミ論文のアウトラインの構想【個別相談・指導】
- 第15回 ゼミ論文のアウトラインの報告会【章・節・項レベルの目次設定，「はじめに」の文章化】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。
受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。

国際法専門演習Ⅳとセットで受講してください。

なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】

国際法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

到達目標は、

- 「はじめに」において、論文の目的を確定し、論証にかなうアウトラインを適切に設定することができる、
- 中間報告を通じ、適切な情報を、適切に配置し、論証の精度を高めることができる、
- 期限までに、適切に注を配置した初稿を提出することができる、
- 指摘事項に適切に対応し、期限までに、完成稿を提出することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第Ⅳ段階

- ①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

第Ⅴ段階

- ①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階

ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

予定

- 第1回 インTRODクシヨン【ゼミ論文完成までの流れ】
- 第2回 アウトラインの確定【報告会】
- 第3回 中間報告に向けた進捗状況のチェック①【第1章，個別相談・指導】
- 第4回 中間報告に向けた進捗状況のチェック②【第2章，個別相談・指導】
- 第5回 中間報告に向けた進捗状況のチェック③【第3章，個別相談・指導】
- 第6回 中間報告と質疑応答①【担当A】
- 第7回 中間報告と質疑応答②【担当B】
- 第8回 中間報告と質疑応答③【担当C】
- 第9回 中間報告と質疑応答④【担当D】
- 第10回 中間報告と質疑応答⑤【担当E】
- 第11回 中間報告と質疑応答⑥【担当F】
- 第12回 初校の提出と相互チェック【添削指導】
- 第13回 二校の提出【添削指導】
- 第14回 最終校の提出
- 第15回 まとめ【論文集の作成】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習Ⅲとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】【ゼミ論文集】

民法専門演習I【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「のんびり・じっくり民事判例研究（判決理由精読）」。本演習では、民法（財産法分野）、なかでも、今年度から改正法が施行される債権法分野（特に契約法分野）に関わる重要判決の分析を通じて、最高裁判所（または大審院）がその判決理由の中で示した（定立した）と考えられる「規範（判例）」の抽出および当該（定立された）規範の「射程」等の精緻な検討・分析を行う。ゼミ生諸君は、この「専門演習I」を通じて、判決の読み方（判例（規範）の分析手法）の基礎・基本を徹底的に叩き込まれることになる。このような「法的思考（特に「法的三段論法」に依拠した判決の分析）の練磨」を通じて、判例評釈を執筆する基礎体力を涵養してもらう。

さらに、ゼミ生同士の議論や教員との議論（「規範」の抽出をめぐって、また、債権法上の種々の諸制度に関する知識・理解に関して）を通じて、自身の見解（法的思考のプロセスおよび判断）を、他者に対して分かりやすく、説得力あるかたちで精確に発信する力（議論は当然のこと、判例評釈を執筆するという形においても。）も養われるであろう。

なお、今年度演習では、平成29年6月公布・令和2年4月1日施行の改正民法（現行法）について、その内容を重点的に分析する。よって、改正前民法（旧法）下および改正民法（現行法）下において、「民事判例研究」において扱う判決の位置づけ等がどのように変容するかについても、議論・考究を深めていく。

これら種々の【力】を向上させるためにも、議論等への積極的参加は、本演習における絶対的義務であることを申し述べておく。

教科書 /Textbooks

- ①窪田 充見＝森田 宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年）；定価（2,300円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましいが、義務ではない。）
 - ③民法（債権法。契約法分野がフォローされているもの）の基本書・体系書（改正民法にも対応しているもの）で普段ゼミ生が使用しているもの。教科書選びも勉強のうちである。各自、遅くとも4月中には自分に合った改正民法（債権各論分野）の基本書・体系書を1冊用意・持参すること。
 - ④潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』（金融財政事情研究会、2017年）；定価（3,200円＋税）
- ※上記「4点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等、各ゼミ生の理解度・習熟度により修正される場合があるので、「めやす」である。

第1回：ガイダンス（自己紹介、第2回以降のゼミの進め方の説明・協議）

第2回：「法的思考（法的三段論法）」の再確認①-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（「三段論法」および「法的三段論法」の復習と本判決の事実概要の分析）-

第3回：「法的思考（法的三段論法）」の再確認②-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（「法的三段論法」の復習と本判決の争点の確認〔獲得されるべき小前提は何か？〕）-

※第3回終了時まで、報告ペア（個人報告を妨げるものではない。また、特定の報告者を設けずに、判例研究を進める方式を妨げるものでもない。この点は、ゼミ生と協議して決定する。）、報告順、および報告（または検討）する最高裁（大審院）判決を決定（※教科書①掲載の判決から選択すること。）してもらう。

第4回：「法的思考（法的三段論法）」の再確認③-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（「法的三段論法」の復習と本件の裁判経過および本件最高裁判決理由の解析）-

第5回：「法的思考（法的三段論法）」の再確認④（完）-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（「法的三段論法」の復習と本件最高裁判決理由の解析、特に最高裁によって定立された規範の射程距離の測定。改正民法〔現行法〕下での本判決の位置づけ）-

第6回：教員による「民事判例研究報告」その①（採り上げる判決は、最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁とする。報告および質疑応答〔事案の理解および最高裁の判決理由の検討【「法的三段論法」に依拠した解析】〕※改正前民法（旧法）下における本判決の位置づけについての議論）

第7回：教員による「民事判例研究報告」その②（完）（議論中心。特に、報告対象とした最高裁判決の「改正前民法（旧法）下における位置づけ」が改正民法（現行法）の下でどのように変容していくと考えられるかについて、議論を深める。）

第8回：ゼミ生・ペアA（2020年度はさしあたりゼミ生6名〔3ペア〕の予定。※2名1組ペア報告を「原則」とする。ただし、特定の報告者を設けず、3つの判決をゼミ生みんなで選定し、それらを研究していく方式を採る場合もあり得る。）による「民事判例研究」および質疑・応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第9回：ゼミ生・ペアAによる「民事判例研究」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法〔現行法〕下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補論）

第10回：ゼミ生・ペアBによる「民事判例研究」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第11回：ゼミ生・ペアBによる「民事判例研究」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法〔現行法〕下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補論）

第12回：ゼミ生・ペアCによる「民事判例研究」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第13回：ゼミ生・ペアCによる「民事判例研究」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正民法〔現行法〕下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補論）

第14回：「民事判例研究」で争点となった債権法上の諸制度の新・旧両法比較分析（契約総論分野）

第15回：「民事判例研究」で争点となった債権法上の諸制度の新・旧両法比較分析（契約各論分野）および「まとめ」

※実務家（弁護士）をお招きして、「特別ゼミ等」を別途実施する予定である（7月初旬）。

※8月初旬、「民事判例研究」で扱った判決についての「判例評釈（5,000～6,000字程度）」を期末レポートとして提出してもらう。執筆要綱等の詳細は追ってアナウンスする。

成績評価の方法 /Assessment Method

※発言内容、議論への積極的参加の度合い、（報告を行う場合は）報告内容など……70%

※期末レポート（判例評釈）の内容……30%

以上の合算で成績を評価する。

【注意】期末レポート（判例評釈）未提出者には単位を付与しないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回で扱う最高裁（または大審院）判決について、各種判例評釈・調査官解説などを熟読し、ゼミにおいて積極的に質問ができるよう入念に準備をしておくことが求められる。なお、この毎回の予習に必要な学習時間の目安は90分である。

【事後学習】「民事判例研究」で扱った最高裁判決（または大審院判決）が改正民法（現行法）下においてどのような新たな位置づけを与えられるかについて、ゼミでの議論を踏まえ、ミニ・レポート（800字程度）を作成することが求められる。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

「民事法の理論的展開【夜】」を並行して受講することで、改正民法（契約法）の基礎理論の理解が一層深まるものと思われる。また、民事訴訟法の基本書・体系書もできれば読んでおいてもらいたい。その他、「民事訴訟法総論・各論」も受講しておくこと。ゼミにおける議論に大いに役立ち、議論の内容の深みが増すものと想われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

令和2年度・福本民法ゼミは、これまでの正統な当ゼミの伝統を受け継ぎ、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと想っています。ゼミは、ゼミ生が主役です。議論の盛り上がりをお願いしています。

キーワード /Keywords

債権法（契約法）判決研究、法的三段論法、判例評釈、改正民法（現行法）下における従来の最高裁判決の位置づけを考える

民法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめぐっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習という観点からは、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、その中の前の4分の1について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆるゼミ募集で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。演習科目であるから、復習よりも、各自の担当箇所の予習が重要である。予定としては、毎回、2名が報告することを考えている。

教科書 /Textbooks

なし。上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、図書館で閲覧すれば足りる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 民法典の対象と編別について、法律行為
- 3回 意思表示（錯誤まで）
- 4回 意思表示（詐欺以降）
- 5回 代理、授權
- 6回 表見代理、無権代理
- 7回 無効、取消、条件、期限
- 8回 期間、時効等
- 9回 債権・通則、契約の成立
- 10回 契約の無効及び取消、契約の内容
- 11回 債権の基本的効力
- 12回 強制履行、損害賠償
- 13回 解除
- 14回 受領遅滞、期間制限、事情変更
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%

民法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法総則及び債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の科目と同様、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は、受講者の希望等を踏まえて変更することも可能である（下記の「授業計画・内容」は一例である）。
授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を、担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して、判例解説を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版）』（有斐閣Sシリーズ、平成29年） 本体1,900円＋税
水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』（有斐閣、平成29年） 本体1,600円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の基礎知識
- 第3回 留置権(1)【基礎知識の確認】
- 第4回 留置権(2)【判例研究】
- 第5回 抵当権の効力の及ぶ範囲(1)【基礎知識の確認】
- 第6回 抵当権の効力の及ぶ範囲(2)【判例研究】
- 第7回 抵当権に基づく質料への物上代位(1)【基礎知識の確認】
- 第8回 抵当権に基づく質料への物上代位(2)【判例研究】
- 第9回 抵当権に基づく物上代位と債権譲渡(1)【基礎知識の確認】
- 第10回 抵当権に基づく物上代位と債権譲渡(2)【判例研究】
- 第11回 動産売買先取特権に基づく物上代位(1)【基礎知識の確認】
- 第12回 動産売買先取特権に基づく物上代位(2)【判例研究】
- 第13回 抵当権に基づく妨害排除請求(1)【基礎知識の確認】
- 第14回 抵当権に基づく妨害排除請求(2)【判例研究】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

民法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書の指定された部分を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「改正契約法（文献）研究およびゼミ論文執筆」。本演習の目的・目標は、次の2点である。一つは、輪読形式による文献研究報告を通じて、ゼミ生みんなで、「契約法（特に、今学期は契約総論分野）の本格的体系書（平成29年民法（債権関係）改正対応のもの）を読破すること」である。この研究を通じて、ゼミ生諸君には、文献渉猟や問題点・課題の発見等といった専門分野のより高度なスキルを身につけてもらいたい。

もう一つは、「民法専門演習Ⅰ」で培った改正前債権法（旧法）に関する重要判決（判例）・学説についての知見および改正債権法（現行法）についての知見を駆使して、ゼミ生諸君の本演習における研究成果を「ゼミ論文（6,000字程度）」のかたちで結実させることである。さらに、他者（他のゼミ生および教員等）との議論を重ねることで、自身の見解（法的思考のプロセスおよび法的判断）を他者に対して解りやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。「専門演習Ⅱ」では、「書く力による発信＝ゼミ論文の執筆・添削指導」に重点を置く。

これら一連の営みを通じて、ゼミ生諸君には、4年次に履修することとなる必修科目「民法専門演習Ⅲ・Ⅳ（福本担当クラス）」で執筆予定の「卒業論文」や「総合判例研究」への「基礎固め」をしっかりと行ってもらいたい。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康『契約法』（有斐閣、2017年）；定価（4,800円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましいが、義務ではない。）
 - ③教科書①以外の民法（契約法）の体系書・基本書（改正民法にも対応しているもの。1学期で使用したものでよい。）
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書（図書館蔵書には ○） /References（Available in the library: ○）

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数や各ゼミ生の理解度・習熟度により修正される可能性もあるので、「めやす」である。

第1回：ガイダンス（各ゼミ生の「ゼミ論文」の研究テーマの確認・協議）

第2回：教科書①の輪読箇所の確認および報告順等の決定

第3回：文献輪読①（以下、レジユメを作成の上、報告・議論を行う。）（教科書①1～41頁【序章＜民法改正と契約法＞から第1章＜契約の意義＞第1節＜契約の基本原則＞（2）＜約款—希薄な意思による拘束＞まで】）およびゼミ論文指導（論文テーマの確定）

第4回：文献輪読②（教科書①41～90頁【第1章＜契約の意義＞第1節＜契約の基本原則＞（3）＜事情変更の原則—合意による拘束の限界＞から第2章＜契約の成立＞第2節＜契約の成立にいたる時間の流れ＞（2）＜申込み＞まで】）およびゼミ論文指導（仮目次作成）

第5回：文献輪読③（教科書①90～137頁【第2章＜契約の成立＞第2節＜契約の成立にいたる時間の流れ＞（3）＜承諾＞から同章第4節＜契約成立過程に関する規律＞まで】）およびゼミ論文指導（目次と導入部分執筆）

第6回：文献輪読④（教科書①137～180頁【第2章＜契約の成立＞第5節＜契約書の意義と機能＞から第3章＜契約の効力＞まで】）およびゼミ論文指導（導入部分の添削指導）

第7回：文献輪読⑤（教科書①181～216頁【第4章＜契約の終了＞第1節＜契約の終了の意義＞1＜契約の終了のプロセス＞から同章第2節＜契約の解除＞3＜債務不履行による解除の要件＞まで】）およびゼミ論文指導（本体部分の執筆と添削）

第8回：文献輪読⑥（教科書①217～246頁【第4章＜契約の終了＞第2節＜契約の解除＞の終わりまで】）およびゼミ論文指導（大まかな結論部分の添削指導）

第9回：文献輪読⑦・完（教科書①247～257頁【第5章＜契約の変更＞】）およびゼミ論文指導（中間報告レジユメの添削）

第10回：（2020年度3年ゼミ生は6名を予定。原則、各回2名ずつの指導を行う予定。）ゼミ生A・Bの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第11回：ゼミ生C・Dの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第12回：ゼミ生E・Fの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第13回：加筆・修正されたゼミ生A・Bのゼミ論文原稿についての検討（ゼミ生みんなで検討する。）

第14回：加筆・修正されたゼミ生C・Dのゼミ論文原稿についての検討（ゼミ生みんなで検討する。）

第15回：加筆・修正されたゼミ生E・Fのゼミ論文原稿についての検討（ゼミ生みんなで検討する。）および本演習の「まとめ」

※実務家（弁護士）をお迎えしての「特別ゼミ」を実施予定（12月中旬）。

※令和3年2月初旬、「ゼミ論文（6,000字程度）」を提出してもらう。なお、ゼミ論文指導は、ゼミの時間内だけでは充分とはいえない。よって、自主ゼミやオフィス・アワーなども積極的に活用すること。【事前学習】および【事後学習】が重要となる。

成績評価の方法 /Assessment Method

※ゼミ中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容（文献輪読）など……70%

※「ゼミ論文」の内容（論文執筆過程の評価も含む。）……30%

以上の合算で成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】文献輪読の際、次回において扱う部分について、解からない箇所を箇条書きにしたペーパーを作成し、ゼミ生間での情報（疑問点）・理解共有を図ることが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は60分である。また、ゼミ論文執筆に向けて、各自、文献の涉獵・吟味・熟読・分析が求められる。この予習に必要な学習時間の目安は90分である。

【事後学習】ゼミ論文の添削を受けて、その内容をしっかりと原稿の内容修正に活かすことが求められる。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

教科書①をゼミ開講前（夏休みなどを利用すること。）、できる限り早く読み進めておくことが肝要である。また、文献輪読報告の準備を入念に行うことは当然である。なお、「ゼミ論文」については、添付ファイルで原稿（途中経過）をゼミの前々日中までに教員に送信することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「2020年度福本ゼミ」は、常にアットホームな雰囲気になりたいと考えています。「厳しくも温かみのあるゼミ」でありたいと想っています。ゼミの主役はゼミ生。キラリと光る内容の「ゼミ論文」を大いに期待しています。

キーワード /Keywords

契約法文献研究、改正民法（契約法）、「ゼミ論文」執筆

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめぐっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第二の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。

この授業は、法律学科所定のいわゆる「ゼミ募集」で選抜された者のみが受講資格を有する。

この授業に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

演習科目であるから、復習よりも、担当箇所等についての予習が重要である。

予定としては、毎回、2名が報告することを考えている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 債権者代位権
- 3 詐害行為取消権
- 4 弁済・総則
- 5 弁済による代位、供託
- 6 相殺
- 7 更改、一人計算
- 8 免除、混同、債権時効の対象及び時効期間
- 9 債権時効障害
- 10 債権時効期間満了の効果
- 11 債権譲渡
- 12 債務引受、契約上の地位の移転
- 13 有価証券
- 14 多数の債権者
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート 100%

民法専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の法律科目と同様に、六法は、持参することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習II 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、担保物権法の判例研究を行う。
取り扱う判例は、受講者の希望等を踏まえて変更することも可能である（下記の「授業計画・内容」は一例である）。
授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。
1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を、担保物権法の講義で使用した教科書を用いて全員で確認する。
そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して、判例解説を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版）』（有斐閣Sシリーズ、平成29年） 本体1,900円＋税
水津太郎ほか『民法2物権 判例30!』（有斐閣、平成29年） 本体1,600円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 抵当権に基づく動産の原状回復請求(1)【基礎知識の確認】
- 第4回 抵当権に基づく動産の原状回復請求(2)【判例研究】
- 第5回 法定地上権(1)【基礎知識の確認】
- 第6回 法定地上権(2)【判例研究】
- 第7回 譲渡担保の法的構成(1)【基礎知識の確認】
- 第8回 譲渡担保の法的構成(2)【判例研究】
- 第9回 譲渡担保の実行(1)【基礎知識の確認】
- 第10回 譲渡担保の実行(2)【判例研究】
- 第11回 集合動産譲渡担保(1)【基礎知識の確認】
- 第12回 集合動産譲渡担保(2)【判例研究】
- 第13回 所有権留保(1)【基礎知識の確認】
- 第14回 所有権留保(2)【判例研究】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

民法専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように，教科書の指定された部分を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で，授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ；「判例評釈か？卒業記念論文か？法学検定（スタンダード）合格か？」
本演習では、今年度もゼミ生の希望・選択に応じて、下記3コース制を採用します。
Aコース：債権法（主に契約法）分野に関わる最高裁判決（または大審院判決）を題材とした判例評釈の執筆：3年次より質・量とも高度なものを9,000字程度で執筆します。2学期「民法専門演習Ⅳ」終了まで1年かけて執筆します。
Bコース：債権法（主に契約法）分野に関わる学術論文（卒業記念論文；16,000字程度）を、2学期「民法専門演習Ⅳ」終了まで1年かけて執筆します。
Cコース；債権法（主に契約法）分野に関わる文献輪読・報告を積極的に行ううえで、例年12月初旬実施の「法学検定（スタンダード）」に合格してもらいます。なお、民法科目以外は、各自勉強して下さい。
本演習では、2学期開講の「民法専門演習Ⅳ（必修）」において、各ゼミ生の研究成果を「判例評釈」、「卒業記念論文」、および「法学検定（スタンダード）合格」という可視的なカタチで示すため、その準備作業を行ってもらいます。併せて、3コース共通の取組み・研究作業として、後掲指定教科書①の文献研究（輪読報告）を行います。この輪読作業を通じて、ゼミ生諸君には、判例評釈・卒業記念論文執筆、または法学検定（スタンダード）合格に必要なとされる契約法の古典的通説（改正前民法〔旧法〕下の通説）・判例の考え方の基礎理論の体得に努めていただきます。また、文献輪読報告を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上も目指します。

教科書 /Textbooks

- ①我妻 榮『債権各論 上巻（民法講義Ⅴ1）』（岩波書店、1954年【オンデマンド版・2019年】）；定価（3,400円＋税）※オンデマンド版でなくても構いません。
- ②最新版（年度）の六法（判例付きのものが望ましいですが、義務ではありません。）
- ③受講ゼミ生が普段使用している債権法（契約法）の体系書・基本書・法学検定試験（スタンダード）問題集（改正民法〔現行法〕にも対応のものが望ましい。）1～2冊（任意）
※上記「3点セット」を毎回必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※ゼミ中に適宜、情報提供します。

民法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・スケジュールは、受講ゼミ生の理解度・習熟度に応じて適宜修正される場合があります。

第1回：ガイダンス ※3コースの説明・選択。 ※文献輪読報告グループ決め。

第2回：各コースゼミ生から、1学期の研究計画を発表してもらう（計画をしっかりと立てて下さい。時間外学習時間の確保・予習・復習が肝要です。）。

第3回：日本民法学説史における「我妻民法学」の位置づけについて解説。

第4回：教科書①の文献輪読と質疑応答①【第1章<債権法各論序説>から第2章<契約総論>第1節<序説>第3款<契約と信義誠実の原則>まで】

※文献輪読は、3名で1グループ×6組＝18名全員で行います。

※各コースゼミ生とも、自主ゼミ・補習などを通じて、別途、判例評釈・卒論・検定試験対策について、それぞれ個別（ないしグループ）指導を受けるようにして下さい。

第5回：文献輪読と質疑応答②【第2章<契約総論>第1節<序説>第4款<契約の法律的意義と契約法の法源>から同章第2節<契約の成立>まで】

第6回：文献輪読と質疑応答③【第2章<契約総論>第3節<契約の効力>第1款<序説>から同章同節第2款<双務契約の特殊の効力>まで】

第7回：文献輪読と質疑応答④【第2章<契約総論>第3節<契約の効力>第3款<第三者のためにする契約>から同章第4節<契約の解除>第1款<序説>まで】

第8回：文献輪読と質疑応答⑤【第2章<契約総論>第4節<契約の解除>第2款<法定解除>第1項<法定解除権の発生>から同章同節同款第2項<法定解除権の行使>まで】

第9回：文献輪読と質疑応答⑥（完）【第2章<契約総論>第4節<契約の解除>第2款<法定解除>第3項<法定解除の効果>から同章同節第4款<解除契約（合意解除）※本書の最後>まで】

第10回：Aコース選択ゼミ生による判例評釈中間報告&質疑応答（選択人数が多い場合は第11回でも行う。）

第11回：Bコース選択ゼミ生による卒業記念論文中間報告&質疑応答

第12回：Cコース選択ゼミ生による法学検定試験対策中間報告&質疑・応答に替えた「口頭試問」（予定）

第13回：2学期「民法専門演習Ⅳ」における各ゼミ生の研究計画（原案）発表（1）※報告メイン

第14回：2学期「民法専門演習Ⅳ」における各ゼミ生の研究計画（原案）発表（2）※修正的指導メイン

第15回：まとめ（2学期に向けたガイダンスを兼ねて）

※8月初旬に、3コース共通の「期末レポート」として、教科書①（文献輪読で用いた我妻民法講義）に関する内容要約&考察レポート（2,500字以上～3,000字以内）を提出していただきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

※研究姿勢、文献輪読報告の内容（レジユメの出来、報告のレベル、質疑・応答の内容）、および中間報告の内容、議論への参加の度合い……60%

※期末レポートの内容……40%

以上の合算で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各コースゼミ生とも、教科書①を事前に熟読し、改正前民法（旧法）における契約総則上の諸制度について理解を深めておくことが求められます。事前の文献の熟読で一番理解できなかった内容をペーパーに書いて提出して下さい（加点的要素とします。）。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分です。

【事後学習】文献輪読各回終了後、担当教員が出題する「復習課題（800字程度のミニ・レポート）」を作成・提出してもらいます（加点的要素とします。）。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分です。

また、各コースそれぞれ、時間外学習として、「個別ないしグループ指導」を積極的に受けるようにして下さい（加点的要素とします。）。

履修上の注意 /Remarks

就活等が忙しいことを理由にゼミを頻繁に欠席する場合、単位を認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、4年間の研究成果の「土台」を創り上げていきましょう！

キーワード /Keywords

卒業記念論文執筆、判例評釈執筆、法学検定（スタンダード）合格、我妻民法学に触れる

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。2017年5月に民法改正法が成立したが、しかし、学習という観点からは『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第三の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。この科目の履修は、法律学科所定のゼミ募集において、担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 多数の債務者
- 3 一般の保証
- 4 連帯保証、根保証
- 5 売買の意義と成立
- 6 売主の義務
- 7 売買の場合の各種担保責任
- 8 買主の義務
- 9 特殊の売買、交換、贈与の意義と成立
- 10 贈与の効力
- 11 特殊の贈与
- 12 賃貸借の意義と成立、第三者との関係
- 13 賃貸人の義務、賃借人の義務
- 14 賃貸借の終了、使用貸借
- 15 まとめ、レポートの提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の報告をしていることを前提に、レポート 100%

民法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論及び各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが期待される。
他の民法科目と同様に、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講者が各自関心を持っている担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の方法，報告の割り当て
- 第3回～第14回 判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は，割り当てられた授業日に確実に報告ができるように，責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は，次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「続！&完！判例評釈か？卒業記念論文か？法学検定（スタンダード）合格か？」。

1学期「民法専門演習Ⅲ」における研究内容を承（う）けて、引き続き3コース制の下、各ゼミ生の「最終目標」達成に向けて、研究活動を進めていただきます。コース毎の研究内容の概要は下記の通りです。

Aコース：債権法（主に契約法）分野に関わる最高裁判決（または大審院判決）を題材とした判例評釈を完成させます（3年次よりも質・量とも高度なもの。9,000字程度）。それに向けた判旨の精緻な分析・各種判例評釈・調査官解説の解析にかかる個別（ないしグループ）指導などが主な研究内容となります。

Bコース：債権法（主に契約法）分野に関わる学術論文（卒業記念論文；16,000字程度）の執筆・完成を目指します。それに向けた種々の学術論文の分析および論文指導（個別ないしグループ指導）・添削受講が主な研究内容となります。

Cコース：12月初旬実施の「法学検定（スタンダード）」合格を目指します。それに向けた民法科目の試験勉強・個別（ないしグループ）指導受講が主な研究内容となります。なお、このコースを選択した場合、試験の可否で単位取得の可否・成績内容の大勢が決まります。

以上、どのコースを選択しても、生半可な気持ちでは「最終目標」には到達できません。しっかりと自己管理をして、時間外学習に留意しつつ、研究を進めてください。なお、本演習では、法的問題点の抽出、文献収集・渉猟の力を高め、また、論文課題・分析基軸・検定合格目標の設定を通じた課題発見・分析力等の向上、プレゼンテーション能力の一層の向上・完成をも目指すものとし、法律学科卒業・学位取得（法学士）に相応しい力をつけて卒業して下さい。

教科書 /Textbooks

※使用しません。各コースにおける研究に必要な文献・資料・問題集等については、各自購入するなり、図書館から借りる等して下さい。また、教員も必要に応じて、適宜、文献等のコピーを指示・用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※ゼミ生および教員が適宜渉猟します。

民法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※以下の授業計画・内容は、各コース受講生の研究進捗状況等により適宜軌道修正される場合があります。
- 第1回：ガイダンス：卒業記念論文（以下、卒論と略記。）・判例評釈題目・目次の確認。試験対策計画の確認。
- ※夏休みにコース変更を考えていた方は、必ず開講前に相談してください。以降、コース変更は認めません。
- 第2回：Aコース：関連判例資料の渉猟。
Bコース：細目次の決定。
Cコース：使用する過去問集を決定。
- ※第2回以降、原則として各コース30分ずつ指導します。いずれかのコース選択者が多い場合は、他のコース選択者の指導を次回にメインで行うなど、臨機応変に指導します。
- 第3回：Aコース：関連判例資料の分析。
Bコース：はじめに（序論）の執筆・添削指導。
Cコース：過去問集（民法）のなかで得意な分野・苦手な分野をそれぞれ絞り込む。
- 第4回：Aコース：関連判例とメインで扱う最高裁判決（ないし大審院判決）との関係の整理・分析。
Bコース：はじめに（序論部分）の完成。
Cコース：得意分野に関する文献（基本書）の輪読。
- 第5回：Aコース：主たる検討対象となる最高裁判決（ないし大審院判決）の判決理由の再検討。
Bコース：本体部分（分析基軸を設定したうえで）の執筆・指導。
Cコース：不得意分野に関する文献（基本書）についての質疑・応答。
- 第6回：Aコース：各種判例評釈の分析・整理。
Bコース：本体部分の執筆に対する指導内容を反映させた原稿の提出・再指導。
Cコース：過去問集の進捗状況確認・個別（ないしグループ）指導。
- 第7回：Aコース：主たる対象判決に関する調査官解説の再分析。
Bコース：本体部分の執筆・指導（改正民法〔現行法〕に関する叙述の拡充）。
Cコース：得意分野に関する判例分析ミニ・レポート作成。
- 第8回：Aコース：主たる対象判決が定立した規範に対する学説の応接に関する研究。
Bコース：本体部分の執筆・指導（関連裁判例の分析）。
Cコース：得意分野に関する得点状況について報告。個別指導。
- 第9回：（予定）Aコース：「判例評釈」中間報告会。
Bコース：「卒論」中間報告会。
Cコース：「検定試験直前」対策指導。
- 第10回：Aコース：関連判例（大審院時代のもの）の拡充。
Bコース：本体部分執筆・指導（改正前民法〔旧法〕と改正民法〔現行法〕の比較・検討を加えます。）。
Cコース：検定試験直前（予定）対策指導。
- 第11回：Aコース：結論部分（私見「判旨に賛成か反対か」）の執筆・指導。
Bコース：本体部分の完成・指導。
Cコース：文献・判例報告（扱う文献・判例などはゼミ生の任意とします。）
- 第12回：（予定）Aコース：「判例評釈」完成前報告会。
Bコース：結論部分の執筆・指導。
Cコース：改正前民法（旧法）に関する論説報告（扱う論説はゼミ生の任意とします。）
- 第13回：Aコース：荒原稿提出・指導（添削）。
Bコース：荒原稿提出・指導（添削）。
Cコース：改正民法（現行法）に関する論説報告（扱う論説等はゼミ生の任意とします。）
- 第14回：Aコース：完成原稿を基にした最終報告。
Bコース：完成原稿を基にした最終報告。
Cコース：外国法を対象とした文献・論文報告（扱う題材は演習担当者が指示します。）
- 第15回：まとめ（各論考講習会および検定試験合格祝勝会？をもって、「まとめ」とします。）
- ※令和3年2月初旬：判例評釈および卒論提出。

成績評価の方法 /Assessment Method

- Aコース：研究姿勢40% + 3回の報告会の内容30% + 判例評釈の内容30% = 100%で成績を評価します。
- Bコース：研究姿勢50% + 2回の報告会の内容20% + 卒業記念論文の内容30% = 100%で成績を評価します。
- Cコース：4回程度の文献・論文報告の内容40% + 法学検定試験（スタンダード）の合否（合格60点。不合格0点。）60% = 100%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】各コース指導の際、教員が次回指導時まで調べておくこと等を指示した文献・資料等については、必ず渉猟・咀嚼して、研究（勉強）内容に活かすことが求められます。この予習に必要な学習時間の目安は90分です。
- 【事後学習】指導を受けた後、書き直した原稿の内容を逐次メール等（添付ファイルで原稿送信）で教員に報告することが求められます。また、Cコース選択ゼミ生については、試験勉強の進捗状況をこまめにメール等で報告して、不得意分野について個別（ないしグループ）指導を受けることが求められます。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分です。

履修上の注意 /Remarks

就活や公務員試験勉強が忙しいことなどを理由に、ゼミを頻繁に欠席したり、指導を積極的に受けられない方については、指導・注意の上、それでも改善されない場合はゼミの単位を認定しません。

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2016(平成28)年度から、4年ゼミが必修科目となったことで、演習における「研究成果」の可視化は、従前以上に重要になりました。判例評釈執筆、卒論執筆、および法学検定試験(スタンダード)合格、それぞれの「目標」を達成しようと頑張るゼミ生には、教員も最大限のサポートを致します。是非とも一生の宝物になるようなゼミ活動をしましょう! 諸君の奮励努力を切に望みます。

キーワード /Keywords

判例評釈、卒業記念論文、法学検定試験(スタンダード)合格、論説・文献の分析、自己管理・時間外学習の重視

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめぐっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、最後の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。そして、受講生が関心を持ったテーマについての小論文執筆も予定している。いわゆる卒論については、もし小論文を卒論にまで高めたいという希望者がいれば、一定の指導を行う。無理に卒論を書く必要はない。この科目の履修は、法律学科所定のゼミ募集で担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 消費貸借
- 3 ファイナンス・リース
- 4 役務提供
- 5 請負
- 6 委任
- 7 寄託
- 8 雇用
- 9 組合
- 10 終身定期金、和解
- 11 第三者のためにする契約
- 12 継続的契約等、法律に基づく債権
- 13 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表の準備（資料収集と問題点の指摘）
- 14 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表と検討（議論）
- 15 まとめ、レポート（小論文）の提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に所定の報告をやっていることを前提に、レポート（小論文）..... 100%

民法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、受講者が各自関心を持っている担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の成果の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、報告の割り当て
第2回～第14回 判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容、質疑応答への参加状況などを総合的に評価）...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は、割り当てられた授業日に確実に報告ができるように、責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は、次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権法 判例研究

民事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つの問題、または判例について、報告担当者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

初回の授業時に使用テキストを受講生と話し合いの上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回～14回 順次、個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自で報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析し、私見をまとめる。
報告者はレジュメを作成する。
授業終了後、各自が当該テーマについて、レポートを作成し提出する。
報告者以外の必要な学習時間の目安は90分。

履修上の注意 /Remarks

各授業時間開始までに、報告課題について、教科書やその他の文献で事前学習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的に発言してください。また、報告前には、報告者は報告内容について、調査、分析の上、十分な準備をしてください。

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。

原則として、個人で報告してもらいます。

毎回、一つの問題、または判例について、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Iで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次報告
- 3回～14回 順次報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各自で報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析し、私見をまとめる。

報告者はレジメを作成する。

授業終了後、報告テーマについて、各自がレポートを作成し、提出する。

報告者以外の必要な学習時間の目安は90分。

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次報告
- 3回～14回 順次報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、報告
- 3回～14回 順次、報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生が報告テーマについて、判例、学説を収集し、分析する。
私見をまとめる。
レジュメを作成する。(必要な学習時間の目安は、90分。)

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業者間の商取引、企業と消費者との商取引に関わる法的問題を取り扱った文献や重要判例の分析・検討を行う。この作業を通して、商取引法・金融取引法についての理解を深めます。

本演習の目標は、ゼミ参加者がみずから選択した文献あるいは判例について、ゼミ内で報告討論することによって、企業法上の問点や課題を発見したり、それらに取り組む楽しさを味わうこと、そして、企業法上のテーマに関する情報を収集・分析・整理するスキルを磨き、プレゼンテーションやディスカッションの能力を高めることにあります。

以上の目標達成のため、まず、各自で、研究テーマを設定する作業を行います。

そして、毎回、順番に従って、報告者が報告した内容について、質疑応答後、自由にディスカッションを行います。前回の報告者が、次の回の報告者のために、司会者を務めます。

最終的には、期末に報告したテーマをレポートとしてまとめることを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、適宜指示します。

企業法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、判例研究・事例研究の意義を学ぶ。
- 第2回 研究テーマを決め、効果的な報告を行うための技術を再確認する
- 1, 選択を希望する判例・事例等について、問題意識を確認・明確化する。
 - 2, 担当候補判例を暫定的に決定する。
 - 3, 報告要旨(レジュメ)作成の方法について学ぶ。報告順番を決定する。
- 第3回 受講者各自で、暫定候補テーマについてさらに詳しくリサーチする
- 1, 関連する裁判例や判例解説の有無や件数を図書館等で検索してみる。
 - 2, 候補テーマがゼミでの報告対象にしやすい判例かどうか、見極める。
- 第4回～第15回 各担当者による報告と参加者全員による討論
- 1, 報告担当者は次の役割を担います。
 - ①前週までにテーマ関連情報(事件・裁判例・献名等)を受講者全員に予告すること
 - ②発表日に向け、必要に応じて、司会者と協議しておくこと
 - ③事(件)案の概要、判決要旨については簡潔に文書化しておくこと。
 - ④争点に関する学説・判例の状況も簡単にまとめておくこと。
 - ⑤理由を明示しながらテーマについての自己の見解を表明すること
 - ⑥質問等に答えながら、自己の見解を展開していくこと
 - 2, 他の参加者は次の役割を担います。
 - ①翌週報告予定のテーマについてあらかじめ頭に入れておくこと。
 - ②報告後の質疑応答に参加すること
- ※文献紹介の場合には、担当者が、文献概要について報告します。
さらに、論旨展開のあり方についての評価・批評なども行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
- 3, 講義担当教員は、以上の内容が効果的に行われ、かつ、テーマについての理解や関心がより深まるように、司会者と協力して適時に適切なアドバイスや情報提供を行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席、ならびに、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1, 報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成し、そのコピーを参加者人数分用意すること
- 2, 報告者以外のゼミ参加者は、次回報告予定のテーマに関する議論状況等を予習した上で、ゼミに参加すること
- 3, 報告者は、ゼミでの議論を振り返り、事後的に再度、論点に関する自説をまとめ直し、必要な資料の補充に努めること

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後の希望進路を意識しながら研究テーマを設定することなどを通して、ゼミ学習と業界研究を効率的に行うことができるよう工夫することが重要です。
必要に応じて、4年生ゼミとの合同で、研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動報告会、キャリア資格取得情報交換会なども開催する予定です。

キーワード /Keywords

商取引 企業取引 金融取引 銀行取引 保険取引 証券取引

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、次の①～④に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討を行います。

- ① 企業間の取引、
- ② 企業と国 / 地方公共団体との取引、
- ③ 公法人が行う収益事業、
- ④ 企業と一般消費者との取引など

本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択した文献・判例について、報告・討論する能力を高めると共に、期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション 判例研究・事例研究の意義を再確認する。

第2回 研究テーマを選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。

第3回～第14回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

(1) 報告担当者は次の役割を担います。

- ① 前週までにテーマ関連情報（事件・裁判例・献名等）を受講者全員に予告すること
- ② 発表日に向け、必要に応じて、司会者と協議しておくこと
- ③ 事（件）案の概要、判決要旨については簡潔に文書化しておくこと。
- ④ 争点に関する学説・判例の状況も簡単にまとめておくこと。
- ⑤ 理由を明示しながらテーマについての自己の見解を表明すること
- ⑥ 質問等に答えながら、自己の見解を展開していくこと

(2) 他の参加者は次の役割を担います。

- ① 翌週報告予定のテーマについてあらかじめ頭に入れておくこと。
- ② 報告後の質疑応答に参加すること

※文献紹介の場合には、担当者が、文献概要について報告します。

さらに、論旨展開のあり方についての評価・批評なども行います。
それを受けて参加者全員で議論します。

(3) 講義担当教員は、以上の内容が効果的に行われ、かつ、
テーマについての理解や関心がより深まるように、

司会者と協力して適時に適切なアドバイスや情報提供を行います。

第15回 今年度の総括と来年度の課題（研究テーマ）設定ないしは絞り込み

企業法専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、ディスカッションへの参加度40%、レポート作成10%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1. 報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、教員研究室前のテーブルの上に提出しておくこと
2. 報告者以外のゼミ参加者は、上記コピーを事前に受領して目を通したり、自らも関連資料に目を通したりして、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加すること
3. 議論を振りかえって、論点に関する自説を事後的に再度まとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・ 授業中に指示された範囲の予習・復習をはじめ、授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 必要に応じて、4年生と合同の研究報告会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例などの分析検討を通じて、企業取引法・金融取引法に関する理解をさらに深めることを目的とします。

また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。

なお、この授業は受講者それぞれに対して個別に実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものとから成り立っています。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際のスケジュールの詳細については、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 (1)運営方針についてのガイダンス
(2)各自が興味を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
- 第2回～第3回 自分の問題関心に沿った卒業レポート作成の難易度を査定する作業を各自が行う
図書・データベース等の情報検索を通して関連文献リストを、各自作成する。
- 第4回～第14回 個別報告とディスカッション
- 第15回 卒業レポート提出へ向けたアウトライン中間報告会
(目次設定・これまでの参考文献一覧、夏休みに読む参考文献目録の提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミ放棄と見做します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の授業外学習に積極的・主体的に取り組むこと
報告時の議論を振り返り、再度、関連する追加資料にあたっうえで、レポートの作成に努めること

企業法専門演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましい。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 必要に応じて、3年ゼミ生と合同で研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解をさらに深めることをねらいとしています。

また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的に、進路希望先の機関・企業・団体等に特徴的な法的問題について議論する機会も、適宜、設ける予定です。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対して個別指導の形で実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものにより成り立っています。スケジュールの詳細は、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 1学期および夏休み期間中の研究活動の総括と今後の流れの確認
各自が関心を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
- 第2回～第14回 各受講者による中間報告会と各受講者に対する個別論文指導
- 第15回 総まとめ（卒業レポート提出へ向けた最終校正作業の確認）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
無断欠席、3分の1以上の欠席は、ゼミを放棄したものとみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は事前にレジュメを作成して受講者に配布すること
受講期間を通して、卒業レポート作成へ向けた課外学習に積極的に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましいです。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 必要に応じて、3年ゼミ生と合同で、研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する最近の論点の検討を通じて、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

会社法ⅠⅡを履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM301M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

法社会学は、法（ルール）が現実の社会のなかで、どのような働きをしているのかについて観察・分析していく学問分野です。したがって（法典を解釈するのではなく）、社会現象として法をとらえる、という視座をとります。演習では、法解釈ではなく、広い意味での法を社会の側から眺めやることで、法を多面的 / 批判的に見ていくことができるようなスキルの体得を目指したいと思います。そうはいつても、法社会学には体系がありません。。総論 / 各論もありません。。。いっけん取っ付きにくそうですが、逆にいえば「入り口」（問い立て）はたくさんあります。演習では、各参加者が自分に適した「入り口」を発見できるようにするために、さしあたり、法社会学の「基本書」といわれるテキストの紹介 / 輪読から始めて、みんなで法社会学フィールドを探索していきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2回 法社会学の特徴説明
- 第3回 合議によるテキスト選定、報告順の決定
- 第4回～第8回 担当者による報告 / 全員による議論
- 第9回 中間地点での振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第10回～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①報告の準備と内容（30%）
- ②各回の議論への貢献度（50%）
- ③学期末レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：
報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

法社会学専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 分野の性質上、法解釈学的思考になることはほとんどありません。社会哲学・社会学・社会思想といった類の知見を もとに、自分で問い / 考えることが求められます。
- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡してください。
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法社会学には「模範解答」はありません。でも、ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ / グルグルと悩み続けることは無意味ではないと思います。ぜひ、自分で「問い」を立ててみてください。

キーワード /Keywords

法社会学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM302M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習 II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

法社会学演習IIに続いて、法現象を観察・分析する視座の体得を目指します（この点につき、法社会学演習Iのシラバスも併せてご参照ください）。演習の後半では各参加者の「入り口」（問い立て / テーマ設定）とおおまかな道筋（アプローチ）をご披露していただき、参加者全員でそれを「盛る」（ブラッシュアップする）作業をしたいと思っています。最終的には、4年次に完成させるゼミ論の構想を各自が報告できることを達成目標に置きます。

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの思い出し）
- 第2回 法社会学演習Iの振り返り
- 第3回 合議によるテキスト選定、報告順の決定
- 第4回～第10回 報告担当者による報告 / 全員による議論
- 第11回 参加者全員のテーマ報告
- 第12回～14回 テーマに関する報告
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備と内容（30%）
- ② 各回の議論への貢献度（50%）
- ③ 学期末レポート（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：
報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。
- 【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

法社会学専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法社会学には「模範解答」はありません。でも、ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ／グルグルと悩み続けることは無意味ではないと思います。自分で立てた「問い」を追い込んで考えてみませんか？

キーワード /Keywords

法社会学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM401M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、法社会学演習I・IIの履修を終えた学生の受講がおおむね想定されていますので、基本的には、演習I・IIの延長線上に位置づけられます。具体的には、演習IIで各自が提出したゼミ論構想に基づいて、ゼミでは、より詳細なストーリー構成や悩んでいる点などにつき報告してもらい、議論を経て、ブラッシュアップしていくという過程を予定しています。ゼミ外においても、資料の収集や読み込みが必須です。ゼミ生には各自のテーマはもちろんのこと、他のゼミ生のテーマや報告に関しても議論に参加し、発言を求めます。

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人員等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス(演習の目的、概要、進行方法などの説明)
- 第2回 法社会学の特徴説明
- 第3回 合議によるテキスト選定、報告順の決定
- 第4回～第8回 担当者による報告/全員による議論
- 第9回 中間地点での振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第10回～14回 担当ゼミ生による報告/全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備と内容 (30%)
- ② 各回の議論への貢献度 (50%)
- ③ 学期末レポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：
報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジюмеを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。
- 【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

法社会学専門演習Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法社会学には「模範解答」はありません。でも、ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ／グルグルと悩み続けることは無意味ではないと思います。ぜひ、自分で「問い」を立ててみてください。

キーワード /Keywords

法社会学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM402M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

法社会学演習Ⅲに続いて、各自のテーマをゼミ論にしていくなかで作業が中心です（この点につき、法社会学演習Ⅲのシラバスも併せてご参照ください）。最終的には当人が責任を負いますが、ゼミ生全員で「知恵」を出し合い、より面白いゼミ論の完成を目指します。

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの思い出し）
- 第2回 法社会学演習Ⅲの振り返り
- 第3回 参加者全員のテーマ報告
- 第4回～14回 テーマに関する報告・議論・助言
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備と内容（30%）
- ② 各回の議論への貢献度（40%）
- ③ 小論文（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：
報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。
- 【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して小論文に備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法社会学には「模範解答」はありません。でも、ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ／グルグルと悩み続けることは無意味ではないと思います。自分で立てた「問い」を追い込んで考えてみませんか？

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史

LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうでそれを相対化することもまた、可能となるであろう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。ただし、下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で頻繁に言及する予定なので、参考書として用意しておくことが望ましい。また、講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）
○深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史 [第2版]』（有斐閣、1997年）
○三島淑臣『法思想史 [新版]』（青林書院、1993年）
長谷部恭男『法とは何か 法思想史入門』（河出ブックス、2015年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
○F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史① ~ J・ロックの自然権論
第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史② ~ 近代的自然法論
第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史③ ~ 古典的自然法論（トマス・アクィナスなど）
第5回 法思想史とは（中間考察） ~ 「法典論争」（サヴィニーなど）
第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史④ ~ ケルゼンの純粋法学
第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史⑤ ~ ハートの法の概念：J・オースティンとハート
第8回 「法と正義」をめぐる法思想史① ~ J・ロールズの功利主義批判：ベンサムやミルとの関連から
第9回 「法と正義」をめぐる法思想史② ~ J・ロールズの正義論
第10回 「法と正義」をめぐる法思想史③ ~ R・ノージックのリバタリアニズム：J・ロールズとの関連から
第11回 「法と正義」をめぐる法思想史④ ~ R・ノージックのリバタリアニズム：J・ロックとの関連から
第12回 「法と正義」をめぐる法思想史⑤ ~ R・ドゥオーキンの権利論
第13回 「法と正義」をめぐる法思想史⑥ ~ R・ドゥオーキン（裁判と法解釈）
第14回 「法と正義」をめぐる法思想史⑦ ~ 共同体主義：アリストテレスとの関連から
第15回 法思想史のまとめ

法思想史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論 権利論

外国法【昼】

担当者名 /Instructor 前裕 大志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 外国法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 外国法における課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える外国法に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国法

LAW212M

授業の概要 /Course Description

「外国法」は、日本法を省察する際の比較対照の素材として有用である（いわば「外なる外国法」）だけでなく、法継受や学術交流などにより日本法それ自体の形成・発展に大きな影響を残しているもの（いわば「内なる外国法」）でもあります。本科目では、まず、歴史・社会・統治機構・法源の観点から、外国法を学ぶ意義について概観します。その後、主にドイツ法を素材として、その憲法構造や統治機構・権利保障のあり方などについて、日本法との異同も踏まえながら概説します。これらを通じて、外国法（ドイツ法）の基礎的知識を習得するとともに、日本法を学習・考察する際の新たな視座を獲得することが本科目の目標です。

教科書 /Textbooks

なし。各回につきレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上淳一＝守矢健一 / ハンス・ペーター・マルチウケ『ドイツ法入門〔改訂第9版〕』（有斐閣、2018年）
○初宿正典訳『ドイツ連邦共和国基本法—全訳と第62回改正までの全経過』（信山社、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション・本講義の基本情報
- 第2回 外国法とは何か
- 第3回 外国法を学ぶ意義（1）【歴史の観点】
- 第4回 外国法を学ぶ意義（2）【社会の観点】
- 第5回 外国法を学ぶ意義（3）【統治機構の観点】
- 第6回 外国法を学ぶ意義（4）【法源の観点】
- 第7回 ドイツ法（1）【日本法との関係】
- 第8回 ドイツ法（2）【憲法構造の基本原則】
- 第9回 ドイツ法（3）【連邦の立法機関・選挙制度】
- 第10回 ドイツ法（4）【連邦の行政機関】
- 第11回 ドイツ法（5）【連邦の裁判機関】
- 第12回 ドイツ法（6）【基本権保障】
- 第13回 ドイツ法（7）【憲法改正】
- 第14回 ドイツ法（8）【法学教育・法律家養成】
- 第15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に先立ってレジュメを学習支援システムMoodleにアップロードしますので、毎回、事前学習として通覧するようにしてください。事後学習として、上記の参考書なども参照しながら、毎回の講義内容をよく復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国法、ドイツ法、比較法

日本法制史【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本法制史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本法制史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、それらを検討する中で、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、歴史的な日本法の考え方や制度を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本法制史

LAW312M

授業の概要 /Course Description

日本法制史は日本の法と制度の歴史を勉強するものです。但し、ここで「法」というのは制定法だけでなく、慣習法、法意識、適用法の実態も含まれます。法が現代の形になるには当然その歴史があったのあり、それを知ることにより現代の法への理解が深まるでしょう。さらに、変化してゆく法の歴史を学ぶことは、法を歴史的存在として、捉えることであり、法を相対化し、法に対する批判力を養うこととなります。本講義では古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜史料等を配布し、解説します。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井良助著	日本法制史概説	創文社	○
浅古・伊藤・植田・神保編	日本法制史	青林書院	○
網野善彦著	日本社会の歴史 上・中・下	岩波書店	○
小林・大津・新田・大藤編	法社会史	山川出版社	

日本法制史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 法制史とは何か
2. 時代区分論
3. 律令継受以前の国制①〔クニの成立〕〔氏姓制度〕
4. 律令継受以前の国制②〔国法時代の法〕
5. 律令と律令国家の実態①〔律令の継受〕
6. 律令と律令国家の実態②〔律令体制とその実態〕
7. 律令と律令国家の実態③〔税制〕〔身分〕〔親族・相続〕〔刑法〕〔裁判制度〕
8. 律令制の解体と荘園公領制①〔律令制の解体〕
9. 律令制の解体と荘園公領制②〔律令法変質期の法源〕
10. 律令制の解体と荘園公領制③〔荘園公領制の展開〕
11. 武士団①〔中世武士の相続と武士団〕
12. 武士団②〔武士団の発生と国衛〕
13. 武士団③〔武士という身分〕
14. 中世国家と封建制①〔封建制の諸概念〕
15. 中世国家と封建制②〔中世国家論〕
16. 中世国家と封建制③〔幕府論〕
17. 中世国家と封建制④〔鎌倉幕府の成立をめぐって〕
18. 中世の主従制①〔主従制をめぐる学説〕
19. 中世の主従制②〔その実態〕
20. 鎌倉期の法源①〔公家法〕〔本所法〕〔国衛法〕
21. 鎌倉期の法源②〔式目と追加法にみえる幕府法の特性〕〔在地領主法〕
22. 鎌倉幕府訴訟制度①〔訴訟制度の変遷〕
23. 鎌倉幕府訴訟制度②〔その実態〕
24. 鎌倉幕府訴訟制度③〔得宗専制と職権主義〕
25. 鎌倉幕府訴訟制度④〔手続に見る訴訟制度の特質〕
26. 建武政権と南北朝
27. 室町幕府と室町期の法源①〔幕府論〕
28. 室町幕府と室町期の法源②〔幕府法〕
29. 室町幕府と室町期の法源③〔在地領主法〕
30. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書を使用しませんので、予習については当該時代についての通史的な知識を持つことが肝要です。
復習についてはノートを読み直し整理したうえで理解が不十分と思われる点をリストアップし参考書等で調べる。或いは次回の講義の際に質問項目を作る等して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学

LAW211M

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広い意味での法現象を観察・分析し、言語化する学問です。

みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から観察していく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こうした経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた／ありえる視点）を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ることで、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシブに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになりそうです。

もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で〇×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え／追いつき考えてみる。そんな知的／時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授／暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

さしあたり、「役に立つ／立たない」、「よい／わるい」、「自明（フツー）／ヘン」といった背髄反射的に立ち現れる枠組みを横に置いて、社会の規範現象を分析できるようになることを到達目標とします。

教科書 /Textbooks

使用しません。テーマごとにレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『境界線上の法 / 主体 - - 屈託のある正義に向けて』、ナカニシヤ出版、2018年。
そのほかは講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 社会秩序の根拠は何か(1)法学における【秩序問題】
- 6回 社会秩序の根拠は何か(2)社会学における【秩序問題】
- 7回 現代社会における法の機能(1)【法機能】の多元化
- 8回 現代社会における法の機能(2)【現代法化論】の両義性
- 9回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題】の「かたち」
- 10回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題】への対処例と悩みどころ
- 11回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 12回 現代法化社会を考える(1)法と【権力】
- 13回 現代法化社会を考える(2)法と【リスク】
- 14回 現代法化社会を考える(3)法と【主体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の定期試験(70%)と毎講義ごとのレスポンスペーパー(30%)により評価します(より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習:授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる(ハズの)問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いつけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください(この場合の自己決定には自己責任が伴います)。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそぐいません(蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます)。(唯一の)正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思います。そんな授業です。

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学

LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。ただし、下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で頻繁に言及する予定なので、参考書として用意しておくことが望ましい。また、講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）
- 深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
- 竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
- 三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
- 田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

法哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ~ 概要説明
- 第2回 法と道德① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道德② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道德③ 悪法論 ~ ドイツの戦後処理をめぐって
- 第5回 法と道德④ ハート・デブリン論争 ~ 法による道德の強制
- 第6回 法と道德⑤ 理論史1 ~ カント
- 第7回 法と道德⑥ 理論史2 ~ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ~ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ~ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ~ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ~ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ~ ハーバーマスと法化
- 第13回 法と生命 ~ 安楽死・尊厳死
- 第14回 法と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道德 法と強制 ケルゼン ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較法文化論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法文化を比較する上での課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、法文化間の比較をすることにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較法文化論

LAW313M

授業の概要 /Course Description

本講義は、現行日本の民法が古代ローマ法の強い影響を受けていることについて歴史的事実を確認したうえで、古代ローマ法と現行法における具体的法制度の検討を通じて、法文化を認識することを目的とします。

日本は明治以来、西欧の法制度、法システムを継受してきました。私法の一般法と位置付けられる民法は、これまで様々な改正を経てはいえ、現在も明治31年（1898年）施行の民法典（いわゆる「明治民法」）を基礎にしています。明治民法は編纂の経緯からいって諸外国民法の比較法の産物ということもできますが、なかでも、明治23年（1890年）公布の旧民法（ボワソナード民法）を介してフランス民法の影響や、当時最先端と位置付けられた19世紀ドイツのパンデクテン法学の成果ともいえるドイツ民法草案の影響を強く受けています。この両者は中世以来の、主に古代ローマ法を素材として作り上げられたとされるヨーロッパ学識的法文化の成果といってもよいものです。

本講義では古代ローマの法制度がどのように形を変えて現在に受け継がれているかを確認していきます。

教科書 /Textbooks

ウルリッヒ・マンテ『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房・2008年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『ローマ法（改訂版）』（有斐閣・1955年）○
ゲオルク・クリンゲンベルク『ローマ債権法講義』（大学教育出版・2001年）○
ゲオルク・クリンゲンベルク『ローマ物権法講義』（大学教育出版・2007年）○
勝田有恒 / 森征一 / 山内進（編著）『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房・2004年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本民法典の成立
- 第3回 ローマ法史概説
- 第4回 十二表法までの先史および原史時代【最古の所有権訴訟】
- 第5回 十二表法までの先史および原史時代【握取行為による儀式的な所有権移転】
- 第6回 十二表法までの先史および原史時代【問答契約と拘束行為による債務の設定】
- 第7回 十二表法の新たな法【握取行為の改革一言明と使用取得】
- 第8回 十二表法の新たな法【不法行為の法律効果】
- 第9回 十二表法から共和制末まで【法律訴訟】【アクイリウス法の損害賠償法】
- 第10回 十二表法から共和制末まで【方式書訴訟】
- 第11回 ローマ法の古典期【古典期法学】【訴権による訴訟手続き】
- 第12回 ローマ法の古典期【契約法のさらなる発展】
- 第13回 ローマ法の古典期【引渡しは有因か無因か】
- 第14回 ローマ法の継受
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%ですが遅刻欠席等は評価に影響（減点）します。

比較法文化論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として指定された範囲のテキストを熟読し、関連のある現行民法の法制度を確認すること。また復習として講義内容について参考図書などで理解を深めること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

ある程度の民法の素養があることが望ましいのですが、講義中に解説するので必須ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ローマ法、民法、握取行為、問答契約、訴権

紛争処理論 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争処理論に関する理論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 紛争処理上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える紛争処理上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

紛争処理論

LAW311M

授業の概要 /Course Description

紛争処理論は法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、広義の法現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会的に考察していきます。

いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない = 疑ってはいけない？ のかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っているハズの個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもっているのではないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心に基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が実はとても困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。

以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに効率よく処理していく技法（スキル） - - ましてやそれがリーガルマインドだなんて！ - - の体得に向けられるのではなく、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それがいかにして向き合っていくのかについて考えることとなります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ひいては「正しい方法」 - - そういうものが実際にアレバの話ですが - - などを求める期待には全く応えられません）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなすうのか、といった「問い」と併走する講義です。

以上を踏まえ、専門知を批判的に再構築し、実践的に活用していく必要性に気づくことを到達目標とします。

教科書 /Textbooks

使用しません。テーマに沿ったレジュメと補助資料を配布して進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『境界線上の法 / 主体』、ナカニシヤ出版、2018年。
そのほかの参考文献については講義中に指示します。

紛争処理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
- 2回 紛争概念の再構成（1）：【紛争の多主体性】…紛争主体は「甲と乙と丙」だけか？
- 3回 紛争概念の再構成（2）：【紛争の主観性】…命はカネにかえられる？
- 4回 紛争概念の再構成（3）：【紛争の連続性】…「判決+執行」で本当に紛争は終わるか？
- 5回 紛争概念の再構成（4）：【紛争解決の困難性】…法的解決 / 生活実態との乖離
- 6回 法=権利とは何か？（1）：西欧継受の法=権利…権利による【近代化】
- 7回 法=権利とは何か？（2）：権利観念の氾濫と拡散…【法の三類型モデル】
- 8回 法=権利とは何か？（3）：当事者同士の【共同体】…【権利の言説】
- 9回 法専門職の臨界（1）：弁護士偏在の理由と変化…需要の掘り起こしと【公設事務所】
- 10回 法専門職の臨界（2）：弁護士像（モデル）の変遷…社会正義とビジネスを超えて？
- 11回 法専門職の臨界（3）：弁護士と当事者のかかわり…【関係】と【協働】
- 12回 当事者主体の紛争処理に向けて（1）：【ADR】の多層性
- 13回 当事者主体の紛争処理に向けて（2）：【専門知】のあやうさ
- 14回 当事者主体の紛争処理に向けて（3）【メデイエーション論】の可能性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験（70%）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30%）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
 事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる（ハズの）問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

紛争処理という名称から、ごくたまに、国際紛争や武力衝突をテーマにした科目と勘違いする学生さんがいますので、どうか間違わないでください。本科目が扱うのは、民事の司法的紛争処理です。
 皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということに常に念頭においておくこと。
 事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。
 本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください（「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱っていますので、法社会学を受講している方が、よりスムーズに本講義に入るとゆけると思われます）。なお、同一プリントの再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」 - 少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は—法社会学と同様—（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます）。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする（=正解を覚えること自体に懐いたる疑問を抱く）方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれない。憶えるのではなく考え / 批判すること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ① 統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ② 国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③ 人権保障の基本構造、
- ④ いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 野中俊彦ほか著『憲法〔第5版〕』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 –イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 –国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

日本国憲法原論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

憲法人権論【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論といわれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が「憲法上の権利」として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 毛利透ほか『リーガルクエスト 憲法II 人権 第2版』（有斐閣、2017年）
- 浦部法穂『憲法学教室 第3版』（日本評論社、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①-生存権
- 第14回 社会権②-その他の社会権
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。

憲法人権論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を予め履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論

LAW221M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が規定する、国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。国民主権、民主主義、権力分立といった基本概念を把握した上で、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構の全体構造や相互関係を理解することを旨とする。また、現実の政治過程などへの関心も喚起するような内容としたい。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 毛利透ほか『リーガルクエスト 憲法I 総論・統治 第2版』（有斐閣、2018年）
- 安念潤司 編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業計画を参考に、次回の予定内容を教科書・参考書等で予習しておくこと。また、国会や内閣等の動向、注目の裁判などの報道に関心を持ち、講義内容と関連づけて考察すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を受講していることが望ましい。

憲法機構論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論

LAW320M

授業の概要 /Course Description

憲法も、他の法律と同様に、訴訟（その結果として形成される判例）を通じて、その内容が形成されていく。したがって、その実態を知るには、判例を見ていかなければならない。しかし、本学の公法学の講義の構成上、人権2単位、統治2単位で、判例に触れる機会が少ない。したがって、より多くの判例に触れることを目的とする。

また日本には、固有の憲法訴訟法が存在しない。基本的に、憲法訴訟は、他人の禱で相撲を取るしかない。憲法をより深く知るには、刑事訴訟や民事訴訟、行政訴訟において、憲法上の規定がどのように用いられているかを注意深く観察する必要がある。その点にも留意しながら、講義を進める。

最終的には、すべての公務員試験およびその他の試験（司法書士、行政書士等）に対応できる判例理解が獲得される。

教科書 /Textbooks

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選I・II（第7版）』（有斐閣、2019年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

資格試験研究会編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ5 憲法』（実務教育出版、2017年）

憲法訴訟論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 幸福追求権に関する判例報告
- 第3回 平等権に関する判例報告
- 第4回 選挙権に関する判例報告
- 第5回 思想・良心の自由に関する判例報告
- 第6回 信教の自由に関する判例報告
- 第7回 表現の自由に関する判例報告
- 第8回 結社の自由に関する判例報告
- 第9回 学問の自由に関する判例報告
- 第10回 職業の自由に関する判例報告
- 第11回 財産権に関する判例報告
- 第12回 生存権に関する判例報告
- 第13回 労働基本権に関する判例報告
- 第14回 教育権に関する判例報告
- 第15回 まとめ

【講義の進め方】

本講義の進め方と評価の方法はきわめて特殊である。この点を十分に理解・承諾したうえで受講すること。

本講義では、受講生がA 4一枚のフォーマットに、指定された判例をまとめて10分で報告する。一回の授業で8人が報告する。教員が適宜コメントする。誰が何の報告をするかは、初回の講義・イントロダクションで決定する（1人が何回報告することになるかは受講者数次第である。場合によっては、報告しないこともありうる）。作成した報告資料は、講義2日前までに教員にメールで送ること。

これにより最大112件の判例を知ることができ、公務員試験に必要なすべての憲法判例を知ることができるのと同時に、最大112件の判例がコンパクトにまとまった資料が手に入る。判例は公務員試験の演習書等を参照して、重要なものを担当教員がセレクトする。

自分の報告回以外では、他の学生の報告を聞くことが主となり、試験は行わないため、出席することが基本となる。なお、出席はカードリーダーにより管理する。

※受講者が20名に満たない場合には、別の構成にする。

成績評価の方法 /Assessment Method

①報告をした者

→原則A評価となる。Sが欲しい場合には、レポートも提出すること。

②報告をしなかった者

→レポートで評価を決定する。

※欠席は3回までは考慮する。4回目以降は、評価を一段階ずつ低下させる（カードリーダーによる管理を行う）。

※報告予定者が、欠席した場合、即D評価とする。報告が難しくなった場合には、代替報告者を見つけるか、一週間前までに担当教員にメールすること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：次回の該当判例を事前に読むこと。

事後：作成された資料を見直し、修正すること。

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

事前にMoodleに次回判例・資料をアップするので、各自印刷して持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

良い資料を作ることが自分のためにもみんなのためにもなるので、全力で取り組むこと。1回10分程度の報告をして、基本的に出席すれば、Aがくると考えると、さほど負担は大きくないと思われる。

キーワード /Keywords

憲法判例

行政法総論【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、行政活動を法的に秩序付けることを目的とする法の体系です。この秩序付ける、というのは、違法にならないように是正することだけでなく、法の趣旨を実効的たらしめることをも含みます。
こうした行政活動は無数の法律によって行われておりますので、行政法総論ではこれらに共通する原理や"物差し"が教科書には書いてあります。まずはこういった概念を説明し、行政法の基本的な知識を身につけていただきます。
他方で、重要なのは、そうした物差しが実際の行政活動のなかでどのように使われているかを具体的にイメージできるようになることが必要です。
このため、本授業では概念の説明を行うたびに、個別法の例示を行い、実際に皆さんに読んでもらいます。
そうすることにより、行政法の専門知識を習得するだけでなく、自身が直面する未知の個別法に対しても恐れずに解決を探る技能や判断力を身につけてもらいます。

教科書 /Textbooks

- ① 曾和俊文『行政法総論を学ぶ』(有斐閣, 2014)
- ② 中原茂樹『基本行政法[第三版]』(日本評論社, 2018)
- ③ 山本隆司ほか『行政判例百選I』(有斐閣, 2017)
- ※①または②のいずれかの教科書と、③の判例集を購入してください

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中原茂樹『基本行政法[第三版]』(日本評論社, 2018)○

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス——行政法とのイメージ
- 第2回 行政法の基本原理——法律による行政の原理
- 第3回 行政過程の具体的なイメージ1——廃棄物処理行政
- 第4回 行政過程の具体的なイメージ2——まちづくり行政
- 第5回 行政組織法——国と地方の行政組織
- 第6回 行政組織法——地方公共団体の権限
- 第7回 行政による基準定立1——法規命令
- 第8回 行政による基準定立2——行政規則
- 第9回 行政行為1——行政行為の概念
- 第10回 行政行為2——行政行為の違法をいかにして争うか
- 第11回 行政行為3——行政行為の取消と撤回
- 第12回 進度調整
- 第13回 行政行為4——行政裁量の概念と根拠
- 第14回 行政行為5——行政裁量の争い方
- 第15回 行政行為6——行政裁量の争い方
- 第16回 法規命令の審査
- 第17回 行政契約——調達
- 第18回 行政契約——契約による公益実現，小テスト
- 第19回 行政指導
- 第20回 行政調査
- 第21回 行政計画
- 第22回 条例と法律
- 第23回 行政上の強制
- 第24回 その他の義務履行確保手段，即時強制
- 第25回 行政手続——申請に対する処分
- 第26回 行政手続——不利益処分，そのほか
- 第27回 情報公開制度
- 第28回 個人情報保護制度
- 第29回 公法と私法
- 第30回 グローバル行政法の動向，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%，本試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にレジュメをアップロードするので，個別法や判例に目を通して授業に参加してください。
授業で扱った概念を使って個別法を読み直す復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

挙げたものでなくてもいいので教科書そして六法の最新版を購入してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「行政法を使う」ということを目標にします。

キーワード /Keywords

法律による行政の原理，違法事由，裁量審査，考慮可能要素，考慮義務要素，考慮禁止要素

行政争訟法 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

行政争訟とは、違法（・不当）な行政活動の是正を求める制度です。本講義では、行政機関に是正を求める行政上の不服申立てと裁判所に是正を求める行政訴訟について概説します。そのうえで受講者が、行政争訟の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政争訟法とは
- 第2回 行政上の不服申立て(1)【種類、要件】
- 第3回 行政上の不服申立て(2)【審理、裁決】
- 第4回 行政訴訟の全体像
- 第5回 取消訴訟の訴訟要件(1)【処分性①：総論】
- 第6回 取消訴訟の訴訟要件(2)【処分性②：各論】
- 第7回 取消訴訟の訴訟要件(3)【原告適格①：従来の動向】
- 第8回 取消訴訟の訴訟要件(4)【原告適格②：近時の動向】
- 第9回 取消訴訟の訴訟要件(5)【訴えの利益】
- 第10回 取消訴訟の審理・判決
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟、差止訴訟
- 第13回 仮の救済
- 第14回 抗告訴訟以外の行政訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」を履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法

LAW321M

授業の概要 /Course Description

国家補償とは、行政活動によって私人に損害（損失）が生じた場合に、国または地方公共団体がこれを補填する制度です。本講義では、違法な行政活動によって生じた損害を賠償する国家賠償と適法な行政活動によって生じた損失を補償する損失補償について概説します。そのうえで受講者が、国家補償の基本的知識を修得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、国家補償法とは
- 第2回 不法行為法と国家賠償、国家賠償制度の沿革
- 第3回 公権力責任(1)【要件①：公権力の行使、職務関連性】
- 第4回 公権力責任(2)【要件②：故意・過失、違法性】
- 第5回 公権力責任(3)【立法・司法活動の違法性】
- 第6回 公権力責任(4)【不作為の違法】
- 第7回 営造物責任(1)【要件：公の営造物、設置・管理の瑕疵】
- 第8回 営造物責任(2)【営造物責任の限界、供用関連瑕疵】
- 第9回 営造物責任(3)【水害訴訟】、公務員の個人責任
- 第10回 国家賠償法のその他の諸問題
- 第11回 損失補償(1)【損失補償の概念、根拠】
- 第12回 損失補償(2)【損失補償の要否】
- 第13回 損失補償(3)【損失補償の内容】
- 第14回 国家補償の谷間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」「行政争訟法」を履修していることが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国家補償法 【昼】

キーワード /Keywords

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法

LAW223M

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『地方自治法概説【第7版】』（有斐閣、2017年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回	地方自治の基礎理論 (1) わが国における地方制度の沿革	第16回	住民の権利義務 (3) 参加権		
第 2回	地方自治の基礎理論 (2) 地方自治の意義、地方自治に関する法源	第17回	住民の権利義務 (4) 公の施設利用権		
第 3回	地方自治の基礎理論 (3) 自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み	第18回	国と地方公共団体との関係 (1) 相互関係の在り方、関与の在り方		
第 4回	地方公共団体の種類 (1) 普通地方公共団体、特別地方公共団体	第19回	国と地方公共団体との関係 (2) 係争処理の仕組み		
第 5回	地方公共団体の種類 (2) 基礎的的地方公共団体、広域の地方公共団体 大都市制度、市町村合併、道州制	第20回	国と地方公共団体との関係 (3) 事務配分と財源配分		
第 6回	地方公共団体の事務 (1) 地方公共団体の事務の区分 自治事務・法定受託事務	第21回	国と地方公共団体との関係 (4) 地方公共団体の財政、税源、 補助金		
第 7回	地方公共団体の事務 (2) 事務配分のあり方	第22回	情報公開制度 (1) 情報公開制度の概要		
第 8回	地方公共団体の権能 (1) 自治のための権能	第23回	情報公開制度 (2) 情報公開制度の諸問題		
第 9回	地方公共団体の権能 (2) 自治行政権とその統制原理	第24回	個人情報保護制度 (1) 個人情報保護制度の概要		
第10回	地方公共団体の権能 (3) 自治立法権の意義と限界	第25回	個人情報保護制度 (2) 個人情報保護制度の諸問題		
第11回	地方公共団体の機関 (1)	第26回	住民監査請求 (1) 住民監査請求の制度	地方議会	
	第12回	地方公共団体の機関 (2) 執行機関、補助機関	第27回	住民監査請求 (2) 住民監査請求と住民訴訟	
	第13回	地方公共団体の機関 (3) 長と議会との関係	第28回	住民訴訟 (1) 住民訴訟の意義と要件	
	第14回	住民の権利義務 (1) 住民の参政権	第29回	住民訴訟 (2) 住民訴訟における諸問題	
	第15回	住民の権利義務 (2) 直接請求権	第30回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論)および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。

授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第8版]』（有斐閣、2018年）

同 『個人情報保護法の逐条解説[第6版]』（有斐閣、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）

園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）

行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

情報公開・個人情報保護法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

情報公開とは何か

- 第1回 情報公開の意義
- 第2回 情報公開制度の憲法上の基礎
知る権利、国民主権、説明責任
- 第3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)
情報・行政文書の意義
- 第4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)
個人情報の不開示とプライバシー保護
- 第5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)
法人等情報及び意思形成過程情報の不開示
- 第6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)
事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示
- 第7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)
部分開示、応答拒否、裁量的開示
- 第8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)
開示手続、不服申立て、審査会による審査等
- 第9回 個人情報保護の意義
個人情報保護とは何か
- 第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎
個人の尊厳とプライバシー
- 第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(1)
個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
- 第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(2)
個人情報の収集、管理、利用
- 第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(3)
開示請求、非開示情報、訂正等請求
- 第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(4)
不服申立て、審査会による審査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)

この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する領域です。この意味で、刑事法(犯罪と刑罰に関する法)の起点となる科目です。これに対して、「刑法各論」(刑法各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する領域です。

刑法の基本原則や基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、具体的な事例をもとに講義を展開して論理的思考力を習得することを目的としています。刑法における基本的な思考方法を理解して、刑法の基本的な事項や問題点についての考え方を学んでください。

この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法(2020年版・令和2年版)

『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携してください(種類・出版社を問わない)。

②刑法総論のテキスト(基本書)

講義の予習・復習、および自習のため、テキスト(基本書)を必携してください。

只木誠『コンパクト刑法総論』(新世社・2018.06)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』6版(有斐閣・2017.03)。

○井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』2版(有斐閣・2018.11)。

○井田良『講義刑法学・総論』2版(有斐閣・2018.10)。

○高橋則夫『刑法総論』4版(成文堂・2018.10)。

○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)。

○大塚裕史/十河太郎/塩谷毅/豊田兼彦『基本刑法I総論』3版(日本評論社・2019.03)。

○十河太郎/豊田兼彦/松尾誠紀/森永真綱『刑法総論判例50!(START UP)』(有斐閣・2016.12)。

○山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論』7版(有斐閣・2014.07)。

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) 解説講義とケース・スタディを組み合わせる講義を進めます。
 (2) ケース・スタディでは、解説講義の範囲から重要な論点を取り上げて、この論点を争点とする事例問題に検討を加えます。事例を検討していくなかで、前回の講義で学んだ知識を事案の解決にどのように活用していくのかを学んで、理解を実践的に発展・深化させていきましょう。

※諸事情により進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
- 2回 刑法の基本原則
- 3回 罪刑法定主義
- 4回 行為論と構成要件該当性
- 5回 ケース・スタディ(1)【設例01/02】
- 6回 不作為犯論
- 7回 因果関係(条件関係と法的因果関係)
- 8回 ケース・スタディ(2)【設例03/04】
- 9回 故意論
- 10回 過失論
- 11回 ケース・スタディ(3)【設例05/06】
- 12回 錯誤論(構成要件の錯誤)
- 13回 正当化事由・正当行為・被害者の同意
- 14回 ケース・スタディ(4)【設例07/08】
- 15回 正当防衛
- 16回 緊急避難
- 17回 ケース・スタディ(5)【設例09/10】
- 18回 責任論の基礎・原因において自由な行為
- 19回 違法性の意識と違法性の錯誤(正当化事情の錯誤)
- 20回 ケース・スタディ(6)【設例11/12】
- 21回 未遂罪(実行の着手)と予備罪
- 22回 不能犯・中止犯
- 23回 ケース・スタディ(7)【設例13/14】
- 24回 共犯論の基礎(正犯と共犯の区別)・間接正犯
- 25回 共同正犯の基礎(異なる犯罪の共同正犯、共犯と過剰)
- 26回 ケース・スタディ(8)【設例15/16】
- 27回 共同正犯の諸問題(共謀共同正犯・承継的共同正犯・共犯と錯誤)
- 28回 共犯の従属性と処罰根拠、教唆犯と幫助犯
- 29回 ケース・スタディ(9)【設例17/18】
- 30回 罪数論・科刑論(犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
 この他に課題レポートや随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もあります。
 ※詳細については、初回の講義で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
 講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう。
 ケース・スタディでは、提示された事例問題について1,000字から1,500字程度の解答をあらかじめ作成して講義に参加することを勧めます。講義では、自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。講義後に、解説を元にもう一度解答を作成しなおすと一層効果的です。 ※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講した後に、「刑法各論I」および「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
 また、「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法、刑法、刑法総論、刑法各論、犯罪論、刑罰論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。「刑法犯罪論」で学んだ刑典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑典「第二編各則」の各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。つまり、犯罪の一般的な成立要件との関係でいえば、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法犯罪各論Iでは、個人的法益に対する罪のうちの人身に対する罪（財産犯を除く）と国家的法益に対する罪を取り上げます。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねます。

参考までに、大塚裕史＝十河太郎＝塩谷毅＝豊田兼彦『基本刑法II各論（第2版）』（日本評論社、2018年）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 判例を学習するための判例集
○十河太郎＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱『刑法各論判例50!』（有斐閣、2017年）
- 学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣、2016年）
○山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年3月）
- 事例の解法を学習するための参考書
○島伸一編『たのしい刑法II 各論（第2版）』（弘文堂、2017年）
- 国際刑法を学習するための参考書
○村瀬信也＝洪恵子編『国際刑事裁判所（第2版）』（東信堂、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法各論の体系、刑法における生命の保護
 - 第2回 生命に対する罪（1）【殺人罪、墮胎罪】
 - 第3回 生命に対する罪（2）【自殺関与罪、同意殺人罪】
 - 第4回 生命に対する罪（3）【遺棄罪（遺棄概念と遺棄罪の類型）】
 - 第5回 身体に対する罪（1）【暴行罪と傷害罪（暴行行為の性質、傷害概念）、傷害致死罪】
 - 第6回 身体に対する罪（2）【同時傷害の特例、過失致死傷罪、危険運転致死傷罪】
 - 第7回 自由に対する罪（1）【脅迫罪・強要罪、逮捕監禁罪、略取・誘拐罪】
 - 第8回 自由に対する罪（2）【強制わいせつ罪、強制性交等罪】
 - 第9回 私生活の平穩に対する罪【住居侵入罪、秘密侵害罪】
 - 第10回 名誉・信用に対する罪（1）【名誉毀損罪、侮辱罪】
 - 第11回 名誉・信用に対する罪（2）【信用毀損罪、業務妨害罪】
 - 第12回 国家の作用に対する罪（1）【賄賂罪】
 - 第13回 国家の作用に対する罪（2）【公務執行妨害罪、犯人蔵匿罪、証憑隠滅罪、逃走罪】
 - 第14回 国家の作用に対する罪（3）【偽証罪、虚偽告訴罪、職権濫用罪】
 - 第15回 補説・国際刑法上の中核犯罪
- ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

刑法犯罪各論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査(10%)、期末試験(90%)。
各試験の形式については、講義の際に別途説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、配布用の資料をMoodleにアップします。導入事例を確認した上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみて下さい。
授業後は、各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際には、事例に含まれた争点についても、教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、それは刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが求められます。授業内外での質問も大歓迎です。
なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法犯罪論」の復習にも並行して取り組むことが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ぜひここでしっかり体得して下さい。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 国際刑法

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。刑法総論で学んだ刑典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑典「第二編各則」の各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。つまり、犯罪の一般的な成立要件との関係でいうと、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法犯罪各論IIでは、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうちの財産犯と社会的法益に対する罪を取り上げます。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねます。

参考までに、大塚裕史＝十河太郎＝塩谷毅＝豊田兼彦『基本刑法II各論（第2版）』（日本評論社、2018年）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 判例を学習するための判例集
○十河太郎＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱『刑法各論判例50!』（有斐閣、2017年）
- 学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論』（有斐閣、2016年）
○山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年3月）
- 事例の解法を学習するための参考書
○島伸一編『たのしい刑法II 各論（第2版）』（弘文堂、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 財産犯の体系、
 - 第2回 窃盗罪（1）【窃盗罪の基本構造、占有の概念】
 - 第3回 窃盗罪（2）【財産犯の保護法益】
 - 第4回 窃盗罪（3）【不法領得の意思、不動産侵奪罪、親族相盗例】
 - 第5回 強盗罪（1）【強盗罪の基本構造】
 - 第6回 強盗罪（2）【事後強盗罪、強盗致傷罪】
 - 第7回 恐喝罪・詐欺罪（1）【詐欺罪の基本構造、財産的損害の有無】
 - 第8回 詐欺罪（2）【訴訟詐欺、クレジットカード詐欺、電子計算機使用詐欺】
 - 第9回 横領罪・背任罪
 - 第10回 盗品等関与罪・毀棄隠匿罪
 - 第11回 公共危険罪（1）【放火罪と失火罪（「公共の危険」と焼損の概念）】
 - 第12回 公共危険罪（2）【放火罪と失火罪（現住建造物と非現住建造物）】
 - 第13回 公共の信用に対する罪（1）【文書偽造罪（文書概念、偽造の概念）】
 - 第14回 公共の信用に対する罪（2）【通貨偽造罪、有価証券偽造罪】
 - 第15回 風俗に対する罪【わいせつ罪、重婚罪、賭博罪、死体損壊遺棄罪】
- ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

刑法犯罪各論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査(10%)、期末試験(90%)。
各試験の形式については、講義の際に別途説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、配布用の資料をMoodleにアップします。導入事例を確認した上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみて下さい。授業後は、各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際には、事例に含まれた争点についても、教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、それは刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが求められます。授業内外での質問も大歓迎です。
なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法犯罪論」の復習にも並行して取り組むことが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ぜひここでしっかり体得して下さい。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 財産犯

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法総論

LAW231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）この教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
- 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
- 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
- 第4回 捜査総説
- 第5回 令状主義と強制処分法定主義
- 第6回 捜査の端緒
- 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
- 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
- 第9回 逮捕
- 第10回 無令状捜索・差押
- 第11回 勾留
- 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
- 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
- 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
- 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

刑事訴訟法総論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法各論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法各論

LAW331M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）この教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場面があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識（捜査の終了まで）が前提となります。復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

犯罪学【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学

LAW232M

授業の概要 /Course Description

犯罪学とは、「なぜ人は犯罪を犯すのか」という犯罪原因を究明し、対策を立てる学問である。広義の犯罪学は、上述の犯罪原因論と犯罪対策論の両方を意味するが、本講義では、狭義の犯罪学である犯罪原因論を取り上げることとする。犯罪学の歴史は長く、近代犯罪学の始まりは19世紀前半といわれている。いつの時代も人間の異常行動をいかに理論付けて説明するかが問題であり、今現在も人間行動を完全に説明できる理論は存在していない。したがって、本講義では、「なぜ人は犯罪を犯すのか」ということを研究してきた古典的な理論から、「なぜその人は犯罪を止めたのか」というような視点に変化した最新の理論を取り上げつつ、犯罪を多角的な視点から分析することによって、論理的思考を身に付け、自己の見解を論じられるようにすることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 守山正=小林寿一共著『ピギナーズ犯罪学』成文堂(2016年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。

犯罪学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方及び犯罪学の学び方について)
- 第2回 犯罪学とは何か
- 第3回 犯罪学の歴史①(古典的犯罪学)
- 第4回 犯罪学の歴史②(近代の犯罪学)
- 第5回 社会解体理論
- 第6回 文化伝播理論
- 第7回 異質的接触理論
- 第8回 異質的同一化理論
- 第9回 文化葛藤理論
- 第10回 下層階級文化理論
- 第11回 アノミー理論
- 第12回 非行副次文化理論
- 第13回 異質的機会理論
- 第14回 非行漂流理論・非行中和技術理論・潜在的価値理論
- 第15回 自己観念論・牽制理論
- 第16回 ラベリング理論
- 第17回 新犯罪学理論
- 第18回 批判的犯罪学理論
- 第19回 急進的犯罪学理論
- 第20回 社会的紐帯理論
- 第21回 合理的選択理論
- 第22回 修復的司法
- 第23回 被害者学理論
- 第24回 環境犯罪学
- 第25回 状況的犯罪予防論
- 第26回 防犯環境設計論
- 第27回 日常活動理論
- 第28回 ライフコース理論
- 第29回 デジスタンス理論
- 第30回 まとめ

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
- 【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪心理学とは異なり、理論を中心に扱うため、少々、難しい印象を受けますと思いますが、なぜ犯罪を犯すのかを自分なりに考えてみましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学

刑事司法政策I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策 I

LAW332M

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。本講義では、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明し、刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

教科書 /Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ヒギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業の進め方と刑事政策の学び方について）
- 第2回 刑事政策とは何か
- 第3回 犯罪統計と暗数
- 第4回 刑罰制度の概要
- 第5回 死刑
- 第6回 自由刑
- 第7回 財産刑
- 第8回 猶予制度
- 第9回 保安処分
- 第10回 保護処分
- 第11回 犯罪者処遇の概要
- 第12回 施設内処遇①受刑者の矯正処遇
- 第13回 施設内処遇②受刑者の法的地位
- 第14回 施設内処遇③受刑者処遇の近年の動向
- 第15回 中間処遇制度

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。

刑事司法政策I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】 各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】 レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪者がどのような刑を受け、どのようにして社会復帰を果たすのかについて学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策II

LAW333M

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探究し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。刑事司法政策Iでは、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明するが、本講義である刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ヒギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和元年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（2019年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和元年版 警察白書』日経印刷株式会社（2019年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会内処遇①社会内処遇制度の概要
- 第3回 社会内処遇②更生保護制度
- 第4回 社会内処遇③保護観察
- 第5回 少年非行
- 第6回 高齢者犯罪
- 第7回 女性犯罪
- 第8回 精神障害者の犯罪
- 第9回 暴力団犯罪
- 第10回 来日外国人犯罪
- 第11回 薬物犯罪
- 第12回 交通犯罪
- 第13回 常習犯罪
- 第14回 ファミリー・バイオレンス
- 第15回 犯罪被害者に対する施策

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。

刑事司法政策II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】 各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】 レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑事司法政策IとIIは、内容が繋がっているため、併せて受講することが望ましいです。
また、理解を深めるためには、刑法と刑事訴訟法を受講しておくことをお勧めします。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

社会法総論【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。
講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。適宜、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

- 第1回 インTRODクシヨン～社会法とは何か
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の締結過程と成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 賃金・労働時間の規制
- 第6回 休憩・休日と年次有給休暇の規制
- 第7回 休業等の規制
- 第8回 解雇に関する規制
- 第9回 労災保険制度①(概論、業務災害)
- 第10回 労災保険制度②(業務上疾病)
- 第11回 労災保険制度③(通勤災害)
- 第12回 労災民訴
- 第13回 雇用保険
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。
事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

社会法総論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジユメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インタロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係（保険者・被保険者）
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

- 第1回 インTRODクシヨN～「所得保障法」とは？
- 第2回 公的年金保険の構造
- 第3回 公的年金保険の保険関係
- 第4回 公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）
- 第5回 公的年金保険の保険給付②（遺族給付）
- 第6回 公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）
- 第7回 公的年金保険の財政及び不服申立
- 第8回 公的年金制度と私的年金制度
- 第9回 我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）
- 第10回 生活保護制度の基本原則②（生保4条）
- 第11回 生活保護実施に関する4つの原則
- 第12回 保護の種類と方法
- 第13回 保護の実施機関とプロセス
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100%）。

所得保障法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	生涯学習力	●	
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

- 第1回 インTRODクシヨン（労働法の役割）
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の締結過程と成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 就業規則と労働契約
- 第6回 賃金
- 第7回 労働時間、休憩・休日と年次有給休暇
- 第8回 人事異動・配転・出向
- 第9回 労働契約の変更
- 第10回 休業・休職
- 第11回 安全衛生と労災補償
- 第12回 懲戒
- 第13回 労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）
- 第14回 雇用平等、労働者の自由と人権
- 第15回 非典型雇用（パート有期労働、派遣労働）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

雇用関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集团的労働関係法を中心的に学びます。
本講義の目的は、集团的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 労働基本権の保障
- 第3回 労働組合法上の主体
- 第4回 労働組合の組織・内部運営（ユニオン・ショップ協定等）
- 第5回 団体交渉
- 第6回 労働協約
- 第7回 組合活動
- 第8回 争議行為①（概論、正当性）
- 第9回 争議行為②（争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任、ロックアウト）
- 第10回 不当労働行為①（概論、不利益取扱い）
- 第11回 不当労働行為②（支配介入、複数組合並存下の問題）
- 第12回 不当労働行為③（救済）
- 第13回 紛争解決制度
- 第14回 集团的労働関係法の将来
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。
事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

労使関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対する措置の内容を学びます。まず、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不公正な取引方法」などについて、具体的事例に接しながら理解してもらいます。

教科書 /Textbooks

土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（有斐閣、2019年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税
 泉水文雄『経済法入門』（有斐閣、2018年）3700円＋税
 鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ独占禁止法』（有斐閣、2017年）4600円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止（1） 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止（2） 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止（3） 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止（4） 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止（5） 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最新の独占禁止法の条文を必ず手元に用意してください。(独占禁止法7条の2が第1項から第3項までとなっており、続けて7条の3から7条の9までの条文があること、また48条の2から48条の9等の条文があること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 小川 明子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

知的財産に係る権利について学ぶ。まず、知的財産法全体を概観し、その後特許法と著作権法を中心に講義する。適宜重要判例についても解説する。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『たのしい著作権法2019』小川明子 ISBN 978-4-9903935-5-7
『標準特許法第6版』高林龍 ISBN 978-4641243064

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション、知的財産とは
- 2 知的財産の特色
- 3 発明とは
- 4 特許要件
- 5 権利主体
- 6 特許取得
- 7 特許権と著作権
- 8 著作権の客体
- 9 著作者の権利
- 10 著作者の権利
- 11 著作人人格権
- 12 著作権の主体
- 13 保護期間
- 14 著作隣接権
- 15 テスト、解答解説

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での小レポート 30%
筆記テスト 50%
平常の学習状況 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産に係るニュースに興味を持つこと

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知的財産が如何に日々の生活に係ることかを認識し、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 森田 崇雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

わが国の環境法は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、地盤沈下といった公害問題に対処するための公害規制法として誕生した経緯を持ち、その後、廃棄物問題、化学物質問題、地球温暖化問題等の新たな環境問題に対処すべく、様々な法律が制定されてきた。本講義では、これら様々な環境問題に対してわが国の環境法がどのように整備されているのか、環境法の全体像について知識を深めることを目的とする。また、環境法に関連する裁判例についても適宜検討を加え、環境紛争の現状と問題点についても基礎的な知識を習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

黒川哲志＝奥田進一編『環境法のフロンティア』（成文堂、2015年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北村喜宣『環境法（第4版）』（弘文堂、2017年）○
大塚直『環境法BASIC（第2版）』（有斐閣、2016年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 環境法とは
- 第2回 わが国の環境法の生成史
- 第3回 環境法の基本原則
- 第4回 環境法の手法 / 小テスト①
- 第5回 環境基本法
- 第6回 環境影響評価法
- 第7回 水質汚濁防止法制
- 第8回 大気汚染防止法制 / 小テスト②
- 第9回 土壌汚染対策法制
- 第10回 廃棄物処理法制（1）廃棄物の定義
- 第11回 廃棄物処理法制（2）業・施設許可制と適正処理の確保
- 第12回 地球温暖化対策法制 / 小テスト③
- 第13回 環境民事訴訟
- 第14回 環境行政訴訟
- 第15回 総括 / 小テスト④

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回（1回あたり25%）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業計画を参照し、各講義テーマについて教科書の該当部分を一読し、予習すること。
- ・ 教科書と講義レジュメ（講義中に配布）を参照し、授業内容を復習すること。

環境法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 集中講義である以上、各講義日の最後に実施する小テストは、当日の全ての講義に出席していることを受験の条件とする。ただし、やむをえない事情がある場合はこの限りではない。
- ・ 講義は各回に配布するレジユメに沿って進める。教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時はしっかりと話を聞き、適宜レジユメにメモをすること。なお、予習として教科書を一読しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 各講義日の最後に小テストを実施しますので、それを前提に集中して講義を聞くようにして下さい。
- ・ 一部の講義にやむをえない事情があって出席できない場合は、その旨を申し出て下さい。

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開

LAW343M

授業の概要 /Course Description

【学習目標】

労働法や社会保障法などの社会法は、福祉国家がその目的を達成するためには欠かせない法分野であるが、現代社会法は転換の時代にある。この講義では、労働力の流動化、過重労働、格差と貧困の拡大など、経済社会的背景が変貌する中で、新たな課題に直面している現代社会法について、その本質的規律内容と目的についての知識を習得し、社会の一員として社会法の将来について、他面的な法的観点に立って理論的に考察する能力を修得することを目標とする。

【授業内容】

第1部では、社会法の歴史と現代社会法の概要について学習し、社会法の法的特性について理解する。
第2部では、社会法の理念、現実的な目的と体系、目的実現の方法上の諸原則など、社会法の基本法理について学習する。現代に展開している各種の社会法思想を参照して、人間本性の自由と社会法の理念との関係、市民法ないし資本主義の利益秩序と社会法の目的との関係、社会統合ないし国家統治と社会法の方法との関係といった、多面的な観点から社会法の法理についての理解を深める。
第3部では、経済社会的背景の変貌に伴って大きな転換期にある社会法について、近年の改革動向の背景に存在する社会法思想の特徴について客観的に把握し、社会生活における社会法の役割を学習するとともに、現代社会の抱える諸課題に 대응する社会法の確立に対する主体的関心を深める。

教科書 /Textbooks

柴田滋著「社会法総論-社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版 .ISBN978-4-86429-346-4. 2800円
および、パワーポイント資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、フリードリヒ・ハイエク著「隷属への道」、我妻栄「新憲法と基本的人権」『民法研究VIII憲法と私法』、中村睦男「社会権法理の形成」、橋本文雄「社会法と市民法」、吾妻光俊「労働法の基本問題」、その他は講義において案内する。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1部 社会法の歴史と現代社会法の役割
 - 第1回 現代社会における社会法の役割と課題
 - 第2回 戦前の社会法の形成と発展
 - 第3回 戦後日本社会法の歴史
 - 第4回 現代労働法の概要
 - 第5回 現代社会保障法の概要
- 第2部 社会法の基本法理と社会法思想の現代的展開
 - 第6回 社会法の原理論的定義—法の原理の三要素と社会法
 - 第7回 社会法の理念—人間本性の自由と実定法の正義
 - 第8回 社会法の現実的前提—資本主義と市民法
 - 第9回 社会法の法理上の課題—市民法理の問題に関する諸見解
 - 第10回 社会法の現実的な目的と方法
 - 第11回 社会法思想の現代的展開
- 第3部 社会法改革の現代的展開
 - 第12回 市場原理主義の浸透と構造改革
 - 第13回 近年の労働法改革の動向と展望
 - 第14回 社会保障法の改革動向と展望
 - 第15回 社会保障財政の現況と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習（比重30%）、および定期試験（比重70%）によって評価する。
定期試験は記述式試験（すべて持込み可）で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの内容を補足し、解説するパワーポイント資料を配布するので、テキストおよびパワーポイント資料その他の配布資料を活用し、講義内容の全体的関連を理解するように心がけて、予習・復習に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

社会法に関する自分なりのテーマを設定して、正規の授業時間以外の学習にも主体的に取り組むことを心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

雇用不安と過重労働や格差と貧困の拡大を抑止することは、現代社会法の喫緊の課題となっています。日ごろ身近に経験する生活上の諸問題に注目しながら、この講義のテーマについて学習を進めてほしいと思います。また、講義中には、講義内容と重要な関連を有する過去の法上の著作等を紹介するので、こうした著作にも親しみながら学習を進めてほしいと思います。

キーワード /Keywords

残余的福祉モデル、制度的再配分モデル、A.センの「潜在能力の欠如」、絶対的貧困と相対的貧困、資本主義と価値法則、人間本性の自由、人格権の不可譲、J.ロックの「労働所有論」、人格的所有論、「民法典の欠缺、法学者の沈黙」、契約外労働関係規範、労務賃貸借（locatio conductio operarum）、労働契約の債権契約説と身分契約説、A.メンガーの「全労働収益権、生存権、労働権」、労働三法、労働基準規定の直律的効力、福祉六法体制、社会保険の社会性原理、公的扶助の補足性原理、社会サービスと個人の尊厳、人間像原理論的社会法論、自由至上主義的社会法論、自立支援的社会法論、範型論的社会法論、二つの自由、アメリカ発の市場原理主義的グローバリゼーション、3つの雇用形態、労働力の流動化、市場原理主義的社会政策、国民負担50%以下、1995年社会保障制度審議会勧告、1999年2月26日経済戦略会議答申、社会保障と税の一体改革

国際法Ⅰ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されているのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

第2回 条約の締結

第3回 条約への留保

第4回 条約の国内的効力と国内適用

第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

第6回 条約と第三国

第7回 慣習国際法の成立

第8回 慣習国際法の法典化

第9回 条約の無効

第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

第11回 国際責任

第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止

第13回 自衛権

第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査、および学期末試験で評価します。

予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認

第3回 国家の基本的権利

第4回 国家の基本的義務

第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査および学期末試験で評価します。

予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

この講義を履修することによって、たとえば以下のような問題を解決できるようになることが期待される。

1. 日本人が外国人と婚姻をすると日本人の苗字はどうなるか。
2. 日本人同士がハワイで法律上有効な婚姻をした場合、あらためて日本法上の婚姻届を提出することが必要か。
3. 外国企業に雇用された日本人がその解雇をめぐる日本の裁判所で争うことができるか。
4. 日本人同士が外国で言い争って負傷した場合、その損害賠償額の算定基準はどうなるか。
5. 裁判による離婚しか認められない国出身の外国人と離婚する場合に、日本で協議離婚は可能か。

現在では国境を越えることは比較的容易であるから、私法上の問題（契約や婚姻など）も国境を越えて生じることがある。国際私法はこのような問題を解決する法（準拠法）を決定するための国内法である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しません（授業時の口頭や板書等）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野村美明ほか編『新・ケースで学ぶ国際私法(第2版)』（法律文化社、2020年刊行予定）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法上のその他の問題【氏、相続など】
- 7回 契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法上のその他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、参考文献やレジユメを中心にして事後の学修をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

国際私法では、他の分野ではあまり聴くことのない独特の概念が多発する（たとえば実体法はよく聞くけど、実質法ってなに？）。重要なポイントについては繰り返し言及するので、ノートをとること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生殖補助医療（代理出産）や親による子の奪い合いなど、国際私法に関連する時事的な話題にも言及したいと思っています。

キーワード /Keywords

国際私法、国際契約、国際家族法（国際結婚）

現代国際関係法【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法

LAW351M

授業の概要 /Course Description

この授業は、夏休みの集中講義期間に行われます。

難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら、問題となる国際法上の論点を取り上げ、その学習を通じ、国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は、

- 国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する、
- 難民問題に関する課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける、
- 現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認することができる、とします。

This class will be offered in summer school session.

In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:

- To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
- To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
- To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

教科書 /Textbooks

ありません。

必要な資料は、適宜、配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に、紹介します。

References will be introduced in the first class.

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

『イントロダクション』

Day 1

第01回 コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』

Day 1

第02回 UNHCRのデータから、現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう

第03回 担当した、上位の出身国、受入国の現状を調べてみよう

Day 2

第04回 プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』

Day 2

第05回 日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう

第06回 担当した、諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう

Day 3

第07回 プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』

Day 3

第08回 UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう

第09回 担当した、人道援助の実施上の課題について調べてみよう

Day 4

第10回 プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』

Day 4

第11回 恒久的解決の3つの手法とともに、自発的帰還の現状について学ぼう

第12回 担当した、自発的帰還の実施上の課題について調べよう

Day 5

第13回 プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』

Day 5

第14回 難民として日本で暮らす_人権と多文化共生社会

第15回 まとめ

INTRODUCTION

Day 1

Class 01 Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES

Day 1

Class 02 Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD

Class 03 Examine top 10 countries, origin and host

Day 2

Class 04 Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan

Day 2

Class 05 Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan

Class 06 Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries

Day 3

Class 07 Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing

Day 3

Class 08 Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF

Class 09 Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance

Day 4

Class 10 Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees

Day 4

現代国際関係法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 11 Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation
 Class 12 Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation
 Day 5
 Class 13 Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention
 CONCLUSION
 Day 5
 Class 14 Living in Japan as a refugee _ Human Rights and Realization of Multicultural Society
 Class 15 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組...50% (貢献...10% , プレゼン...20% , ディスカッション...20%)
 レポート...50%
 Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)
 Essay...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について、事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として、授業内容の整理も含め、ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

履修上の注意 /Remarks

授業は主に日本語で実施しますが、英語の資料を積極的に紹介し、受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては、この点に注意してください。

Classes will be done mainly in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので、夏休み中の暑い時期で大変ですが、頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

キーワード /Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humanitarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

現代国際関係法 (英語) 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年 (英語)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法

LAW351M

授業の概要 /Course Description

この授業は、夏休みの集中講義期間に行われます。

難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら、問題となる国際法上の論点を取り上げ、その学習を通じ、国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は、

- 国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する、
- 難民問題に関する課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける、
- 現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認することができる、とします。

This class will be offered in summer school session.

In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:

- To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
- To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
- To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

教科書 /Textbooks

ありません。

必要な資料は、適宜、配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に、紹介します。

References will be introduced in the first class.

現代国際関係法 (英語) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

『イントロダクション』

Day 1

第01回 コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』

Day 1

第02回 UNHCRのデータから、現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう

第03回 担当した、上位の出身国、受入国の現状を調べてみよう

Day 2

第04回 プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』

Day 2

第05回 日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう

第06回 担当した、諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう

Day 3

第07回 プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』

Day 3

第08回 UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう

第09回 担当した、人道援助の実施上の課題について調べてみよう

Day 4

第10回 プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』

Day 4

第11回 恒久的解決の3つの手法とともに、自発的帰還の現状について学ぼう

第12回 担当した、自発的帰還の実施上の課題について調べよう

Day 5

第13回 プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』

Day 5

第14回 難民として日本で暮らす_人権と多文化共生社会

第15回 まとめ

INTRODUCTION

Day 1

Class 01 Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES

Day 1

Class 02 Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD

Class 03 Examine top 10 countries, origin and host

Day 2

Class 04 Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan

Day 2

Class 05 Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan

Class 06 Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries

Day 3

Class 07 Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing

Day 3

Class 08 Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF

Class 09 Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance

Day 4

Class 10 Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees

Day 4

現代国際関係法 (英語) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 11 Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation
 Class 12 Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation
 Day 5
 Class 13 Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention
 CONCLUSION
 Day 5
 Class 14 Living in Japan as a refugee _ Human Rights and Realization of Multicultural Society
 Class 15 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組...50% (貢献...10% , プレゼン...20% , ディスカッション...20%)
 レポート...50%
 Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)
 Essay...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について、事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として、授業内容の整理も含め、ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

履修上の注意 /Remarks

授業は主に日本語で実施しますが、英語の資料を積極的に紹介し、受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては、この点に注意してください。

Classes will be done mainly in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので、夏休み中の暑い時期で大変ですが、頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

キーワード /Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humanitarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

民法総則【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW160M

授業の概要 /Course Description

民法は最も生活に密着した法律であり、「民法総則」は、法学部における基本中の基本科目である。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれる。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明する。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができるであろう。毎回、次回に扱うであろう箇所を指示するので、その箇所について教科書などで予習をすることが望まれ、加えて、授業終了後に、授業で講じた内容を再確認するための復習をすることも望まれる。

教科書 /Textbooks

『有斐閣Sシリーズ 民法I 総則 第4版』(有斐閣、2018年1月発行)を用いる。理由は、このSシリーズは、多くの法学部において使用されている、学部学生用の一般的なテキストだからである。なお、開講時までにこの書籍の改定・補訂版等が発行された場合には、その新しい方を用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法を学習する意味、民法の内容、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】等の成年後見制度、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ、他の民法科目への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込みは一切不可の予定) 100 %

民法総則【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、毎回、次の回に扱うであろう項目を指示するので、それについての条文を読んだり、教科書の該当頁を読むことが良いであろう。条文を読むだけでも意義がある。
むしろ、事後学習の方が重要であり、教科書の該当箇所を再読することが良いであろう。あとは、授業で扱った実際の判決を図書館で読むことで、さらに理解が深まることと思われる。

履修上の注意 /Remarks

六法（最新版）は必ず持参すること。有斐閣の『ポケット六法』がお勧めである。近時、民法の大改正があったので、2019年版以降のものを用意すること。
俗に言う「レジユメ」等は、配布しない。本当に学びたいのであれば、担当者が講じたことを、自分の手でノートに筆記することが望まれる。授業中の写真撮影や録音は禁止とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則、民法改正、債権法改正

物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 物権法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関する諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II－物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

民法総則の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業終了前に質問時間を設けるので、分からないことは放置せず、積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 物権

担保物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 担保物権法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 担保物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、担保物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

担保物権法

LAW261M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）に規定されている担保物権（典型担保）及び民法典に規定がない担保物権（非典型担保）について講義を行う。全15回の講義を通して、担保物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近江幸治『民法講義III 担保物権（第2版補訂）』（成文堂，平成19年） 本体3,300円＋税 ○
道垣内弘人『担保物権法 第4版』（有斐閣，平成29年） 本体3,200円＋税 ○
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，担保物権とは何か？
- 第2回 留置権
- 第3回 先取特権
- 第4回 質権
- 第5回 抵当権(1)【抵当権の意義，設定，被担保債権・目的物の範囲】
- 第6回 抵当権(2)【物上代位】
- 第7回 抵当権(3)【抵当権の実行】
- 第8回 抵当権(4)【第三取得者の保護，抵当権の侵害】
- 第9回 抵当権(5)【抵当権の処分，消滅，共同抵当】
- 第10回 抵当権(6)【法定地上権】
- 第11回 抵当権(7)【根抵当権】
- 第12回 非典型担保とは何か？，譲渡担保(1)【譲渡担保の意義】
- 第13回 譲渡担保(2)【譲渡担保権の設定，効力】
- 第14回 譲渡担保(3)【譲渡担保権の実行，消滅】，所有権留保
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

担保物権法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

物権法の講義科目を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業終了前に質問時間を設けるので、分からないことは放置せず、積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 担保物権

債権総論【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論

LAW263M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第一章 総則(第399条~第520条の20)において、すべての債権に共通する規範に関わる規定群を設けている。具体的には、「債権の目的」、「債権の効力」、「多数当事者の債権及び債務」、「債権の譲渡」、「債務の引受け」、「債権の消滅」、および「有価証券」に関わる諸規定が置かれている。要するに、発生した債権がどのような内容のものであるか、どのような効力があるか、どのように消滅していくか、また、当事者(債務者や債権者)が複数である場合や、発生した債権を譲り渡したり、他人の債務を引き受けたりする場合はどうなるのかといった局面等について規律しているのである。

本講義のねらいは、上記各局面に関する法制度の基本構造およびこれら法制度を規律する重要条文に関わる解釈(論)につき、関連する学説・判例の要点を解説し、「債権の共通規範」であるこれらの法制度が現代社会においてどのような機能を実際に果たしているか(後述の通り、令和2(2020)年4月1日から改正民法が施行されたので、厳密に言えば、改正債権法上の諸制度に関しては、これら諸制度がどのような機能を今後の市民社会において果たしていくのかとすべきであろう。)ということについて、理解を深めることにある。

ところで、ご存知の通り、令和2(2020)年4月1日から改正民法(平成29年公布・債権関係改正法)が施行された。本講義が対象とする「債権総論(債権総則)」部分について言えば、そのほとんど(100箇条以上)が今次改正によってその内容を一新した。しかも、従来の判例法理を明文化した改正だけでなく、従来の判例・通説の考え方を正面から否定した改正等も含まれており、改正前民法(旧法)との比較・検討が必須となる法制度も数多く存在する。

よって、本講義では、改正民法(=現行法)の解説を本線としつつ、改正前民法(=旧法)との比較・検討についても、可能な限り触れることとする。

抽象度の高い条文が数多く、その理解が難解とされる債権総論ではあるが、できる限り具体的なケースを交えながら解説を行い、受講生諸君の理解度向上に努めたい。本講義を通じて、受講生諸君は、改正債権総論(債権法)に関する豊かな知識を獲得し、その知識を事案の解決に活用できる法的思考・判断・表現力を身に着けることができるようになるものと思料する。

教科書 /Textbooks

- ①山本敬三(監修)=栗田昌裕ほか(著)『民法4 債権総論(有斐閣ストウディア)』(有斐閣、2018年);定価(2,100円+税)
 - ②窪田充見=森田宏樹(編)『民法判例百選II 債権[第8版](別冊ジュリスト238号)』(有斐閣、2018年);定価(2,300円+税)
 - ③最新版(年度)の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

- 野村豊弘ほか(著)『民法III—債権総論(第4版)有斐閣Sシリーズ』(有斐閣、2018年);定価(1,900円+税)
 - 潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(金融財政事情研究会、2017年);定価(3,200円+税)
- 以上2冊をさしあたり挙げておく。その他の参考書については、配布レジュメ末尾記載【文献案内】欄で適宜紹介する予定である。

債権総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※原則、2回に1回のペースでレジュメを配布するが、教科書等での予習・復習は必須である。レジュメはあくまで「補助教材」でしかないことに注意すること！
- 第1回：ガイダンス+本論導入（債権とは？、債権総論とは？）
- 第2回：序論（債権総論で学ぶこと、債権総論と債権各論の関係、債権と物権の差異、平成29年民法（債権関係）改正法（現行法）と債権総論）
- 第3回：債権の内容と種類・その①（債権の目的（民法399条）、特定物債権と種類債権（不特定物債権）、制限種類債権）
- 第4回：債権の内容と種類・その②（金銭債権とその特殊性、利息債権、利息制限法制略説、選択債権）
- 第5回：債権の効力・その①（序論（債務と責任）、強制履行（履行の強制）、強制履行手段相互の関係性、債務不履行の類型および要件（旧法下および現行法下の解釈論；改正債務不履行法における「過失責任主義」の放逐？—新旧415条の比較検討—））
- 第6回：債権の効力・その②（債務不履行に基づく損害賠償（新旧415条の比較検討のつづき）、416条の基本構造、相当因果関係説（理論））
- 第7回：債権の効力・その③（損害賠償・補論（「富喜丸事件」の検討）、ハドレイ事件略説）
- 第8回：債権の効力・その④（過失相殺、損益相殺、中間利息の控除（417条の2の新設）、受領遅滞）
- 第9回：責任財産の保全・その①（序論；「責任財産」の意味、債権者代位権の基本構造（要件・効果略説））
- 第10回：責任財産の保全・その②（債権者代位権の要件論（無資力要件）、債権者代位権の転用および拡張、債権者代位権の客体（被代位権利）・行使・効果（判例法理の明文化としての改正規定群））
- 第11回：責任財産の保全・その③（詐害行為取消権の意義および法的性質、詐害行為取消権の要件・行使（新旧両法の規律の比較・検討））
- 第12回：責任財産の保全・その④（詐害行為取消権の効果（いわゆる「相対的取消し」の考え方の放棄を中心に—新旧425条の比較・検討））
- 第13回：債権関係の移転・その①（債権譲渡入門（意義および機能）、債権譲渡制限特約）
- 第14回：債権関係の移転・その②（債権譲渡の成立要件・対抗要件、対抗要件の優劣決定基準、「動産債権譲渡特例法」による対抗要件）
- 第15回：債権関係の移転・その③（債権譲渡の対抗要件（優劣決定基準・詳論）、債権譲渡と供託（466条の2・同条の3の新設））
- 第16回：債権関係の移転・その④（将来債権の譲渡（466条の6による判例法理の明文化）、「債務者の異議をとどめない承諾による抗弁の喪失」（改正前468条1項）の廃止、債権譲渡と相殺の抗弁（469条の新設））
- 第17回：債権関係の移転・その⑤（有価証券（520条の2～同条の20）略説）
- 第18回：債権関係の移転・その⑥（債務の引受け（併存的債務引受、免責的債務引受、および履行引受）、契約上の地位の移転（539条の2・略説））
- 第19回：債権の消滅・その①（債権消滅原因鳥瞰、弁済入門（意義および法的性質））
- 第20回：債権の消滅・その②（弁済の提供、弁済の充当）
- 第21回：債権の消滅・その③（第三者による弁済（新旧474条の比較・検討））
- 第22回：債権の消滅・その④（弁済による代位（意義および制度趣旨）、弁済による代位の成立要件および種類（任意代位・法定代位）、弁済による代位の効果、法定代位者相互の関係略説）
- 第23回：債権の消滅・その⑤（受領権者としての外観を有する者に対する弁済・詳論（新旧478条の比較・検討）、「債権の準占有者」概念の放逐、預貯金口座に対する払込みによる弁済（新設477条の解釈））
- 第24回：債権の消滅・その⑥（代物弁済、代物弁済の予約、供託、相殺・序論；意義および法的性質）
- 第25回：債権の消滅・その⑦（相殺の担保的機能、相殺の要件（相殺適状を中心に））
- 第26回：債権の消滅・その⑧（相殺の方法および効果、相殺の禁止、509条の新旧両法比較検討、「差押えと相殺（511条論）序論）
- 第27回：債権の消滅・その⑨（「差押えと相殺」詳論（判例法理の推移、「無制限説」の明文化）、更改、免除、混同）
- 第28回：多数当事者の債権関係・その①（分割債権・分割債務、不可分債権・不可分債務、連帯債権に関する規定群新設（432条～435条の2）・連帯債務（新旧両法の比較・検討））
- 第29回：多数当事者の債権関係・その②（不真正連帯債務、保証債務、保証人の求償権、連帯保証、共同保証、保証連帯）
- 第30回：多数当事者の債権関係・その③（個人根保証契約など（465条の2～同条の10略説））および「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末定期試験（80分間。持込条件は「字句の書込みのない、判例なし六法」のみの予定。）の成績……85%
 - ・ 抜打ち小テスト（30分間。持込条件は「すべて可」の予定。※4月中は実施しない。）の成績……15%
- ※上記の合算で成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】教科書①の指定頁をレジュメ等で指示するので、次回講義までに必ず熟読し、疑問点等をノートに箇条書きでまとめておくことが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は60分である。
- 【事後学習】配布レジュメ末尾に【復習問題】と題して、簡単な正誤問題を掲載予定である。受講生各位は、講義終了後、内容の復習と併せて、この正誤問題を必ず解いておくこと（* 期末定期試験に一部出題される可能性が高い。）。次回講義冒頭において、講義担当者が正答を示し、簡単な解説を行う。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」および「民法総論」を履修していない場合、本講義の理解は困難なものとなろう。よって、自学習でよいから、最低限「民法総論」の内容はフォローしておいてもらいたい。また、「物権法」と併せて履修すると、本講義の理解が深まるものと思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

抽象度の高い条文が数多く、しかも、大改正を受けたことにより、一層難解となった債権総論だが、講義には頑張って喰らいついてきてもらいたい。期末定期試験等で好成绩を獲得するためには、やはり日々の予・復習（時間外学習）が必須である。オフィス・アワー等も活用して、積極的に「債権総論」を学んでもらいたい。

キーワード /Keywords

債権法、平成29年民法（債権関係）改正法における債権総論、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権・債務、債権譲渡、債務引受け、債権の消滅、有価証券、改正債務不履行法における「過失責任主義」の放逐？

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

松川正毅著『民法 親族・相続[第6版]』有斐閣 2019年 2,400円+税
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続[第2版]』有斐閣 2018年 2,200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円
- 窪田充見『家族法第4版』有斐閣 2019年 4,300円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的効果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】【普通養子】【特別養子】
- 11回 親子制度③【親権】【身上監護】
- 12回 親子制度④【親権】【財産管理】【親権濫用】【後見】
- 13回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 14回 法定相続制度【相続人】【相続分】【相続財産】【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 定期試験... 60%

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」を履修し、「民法総則」と併せて履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「親族法」を基礎に家族の財産関係を規律する法である「相続法」も履修するよう心掛けてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相続法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 相続法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関する諸問題に対して、相続法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相続法

LAW265M

授業の概要 /Course Description

民法第五編相続が講義の内容です。家族法（親族・相続法）の後半部分にあたります。現行の法定相続制度や遺言相続制度の歴史的位置づけを明らかにするとともに、判例理論や学説の紹介を織り込みながら、現行相続法上の問題点をできるだけ平易に解説します。

教科書 /Textbooks

松川正毅著『民法 親族・相続[第6版]』有斐閣 2019年 2,400円+税
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続[第2版]』有斐閣 2018年 2,200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円
- 窪田充見『家族法第4版』有斐閣 2019年 4,300円+税
- 潮見佳男『詳解相続法』弘文堂 2018年 4,000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相続制度の意義、相続の形態【法定相続】【遺言相続】【相続の機能・根拠】
- 2回 相続人①【法定相続人】【相続欠格】
- 3回 相続人②【廃除】【代襲相続】【相続人不存在】【特別縁故者】
- 4回 相続分①【指定相続分】【法定相続分】
- 5回 相続分②【特別受益者】【寄与分】【相続分の譲渡】
- 6回 相続の承認と放棄①【相続の仕方】【熟慮期間】【単純承認】
- 7回 相続の承認と放棄②【限定承認】【相続放棄】
- 8回 相続回復請求・相続財産①【相続回復請求権】【遺産承継の原則】【遺産の範囲】
- 9回 相続財産②【遺産の範囲】【遺産承継の例外】
- 10回 相続財産③【遺産の共有】【遺産管理】
- 11回 遺産分割①【遺産分割の前提問題】【遺産分割の方法】
- 12回 遺産分割②・財産分離【遺産分割禁止】【遺産分割の効力】【第一種財産分離】【第二種財産分離】
- 13回 遺言【遺言の方式】【遺言の効力】
- 14回 遺言の執行【遺言書の検認】【遺言執行者】
- 15回 遺留分【遺留分の算定】【遺留分減殺請求権】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...40% 定期試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前に教科書の該当部分と参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください

相続法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「民法入門」、「民法総則」、「親族法」、「物権法」、「債権総論」を履修していると理解が一層深まります。また、「担保物権法」、「債権各論I」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「親族法」も受講することによって、家族法の全体像を理解し、現在の家族、これからの家族関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

キーワード /Keywords

相続人、相続欠格、相続人の廃除、代襲相続、特別縁故者、指定相続分、法定相続分、特別受益、寄与分、単純承認、限定承認、放棄、相続回復請求、遺産共有、遺産管理、遺産分割、財産分離、遺言、遺贈、遺言執行、遺留分

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法総論

LAW286M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する基本的な知識について解説する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法の基本的構造を理解するために必要な専門的知識を修得できる。
- ② 民事訴訟法についての原則、重要単語を理解することができるようになる。
- ③ 民事裁判についての手続構造を理解することができるようになる。
- ④ 修得した知識により、簡易裁判所で民事裁判を自ら提起できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献等を利用しての授業の予習、配布プリントを利用しての復習をかかさないようにすること。
民法の知識を修得していることが望ましい。
民事訴訟法IIを履修する前に、民事訴訟法Iを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的かつ自主的な学習を期待します。

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法各論

LAW267M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する重要な問題（重要な判例があるもの、学説が対立しているもの）について学習します。
民事訴訟法に比べると、内容は高度です。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法についての法的な問題点を見出すことができるようになる。
- ② 問題解決に必要な判例・学説を分析、整理できるようになる。
- ③ 具体的な解決方法について、自ら考えることができるようになる。
- ④ 学習した知識を将来の社会生活で実践できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 当事者 【当事者】
- 3回 代理人 【法定代理人】、【任意代理人】
- 4回 裁判所I 【管轄】
- 5回 裁判所II 【民事裁判権】
- 6回 訴えの提起I 【訴えの種類】
- 7回 訴えの提起II 【二重起訴】
- 8回 口頭弁論I 【処分権主義】
- 9回 口頭弁論II 【弁論主義】
- 10回 証拠I 【自白】
- 11回 証拠II 【違法収集証拠】
- 12回 判決I 【既判力の時的限界】、【口頭弁論終結後の承継人】
- 13回 判決II 【既判力の客観的範囲】、【訴訟の終了】
- 14回 上訴 【上訴の利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、教科書を読んで理解できない点を確認しておくこと。

事後に、図書館の参考文献等を利用して、授業で理解できなかった点について、理解できるよう努めること。

(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習30分です。)

民事訴訟法各論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「民事訴訟法I」が基礎的な科目なので、先ず「民事訴訟法I」を履修しておくこと。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要である。
- ・ 授業の進行状況等により、授業項目（【当事者】等の授業での主要テーマ）が、変更、前後することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倒産処理法制度の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える倒産処理法制度上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倒産処理法

LAW382M

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人間の利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- 1 倒産処理の基本的な法的手続構造を理解できるようになる。
- 2 倒産処理についての専門用語が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第9版]』 (法学書院) 2014年 2808円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使I 【否認権】
- 9回 否認権の行使II
- 10回 取戻権の行使 【取戻権】
- 11回 双務契約の処理 【売買契約】
- 12回 貸借契約、雇用契約等の処理 【貸借契約】、【雇用契約】
- 13回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 14回 民事再生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

倒産処理法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自主的にテキストを使った予習、講義ノートを使った復習をしてください。
進行状況等により、講義スケジュールが前後することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【昼】

担当者名 春日川 路子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事執行法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事執行法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事執行法

LAW363M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民事執行法の体系的理解に必要な専門知識を学習します。強制執行手続と担保権実行手続を中心に取り扱います。これら民事執行手続につき課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力の習得を図ります。その過程で、現代社会が抱える民事執行法上の諸問題への関心が高まり、法と社会のつながりを再認識することにもなるでしょう。

教科書 /Textbooks

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦著『民事執行・保全法』（第5版、有斐閣アルマ、2017）¥2000+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上原敏夫・長谷部由紀子・山本和彦編『別冊ジュリスト 民事執行・保全判例百選』（第2版、有斐閣、2012）
その他、適宜授業中にも紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進捗状況等により、計画を変更する場合がある。

第1回 ガイダンス、民事執行手続の世界
第2回 執行手続の主体 執行当事者、執行機関
第3回 強制執行手続の開始と進行（1） 強制執行の要件
第4回 強制執行手続の開始と進行（2） 債務名義、執行文
第5回 強制執行手続の開始と進行（3） 執行の対象
第6回 強制執行手続の開始と進行（4）執行関係訴訟、手続の進行
第7回 金銭執行（1） 不動産に対する強制執行その1
第8回 金銭執行（2） 不動産に対する強制執行その2
第9回 金銭執行（3） 船舶・動産に対する強制執行
第10回 金銭執行（4） 債権及びその他財産権に対する強制執行その1
第11回 金銭執行（5） 債権及びその他財産権に対する強制執行その2
第12回 金銭執行のまとめ、非金銭執行
第13回 担保権実行手続および換価のための競売（1）
第14回 担保権実行手続および換価のための競売（2）
第15回 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80%、小テスト...10%、ミニレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習
授業で使用した教科書を再度読み返すなど、民事訴訟法の内容を復習しておくこと。
教科書やその他参考書など、民事執行法について説明している書籍に授業開始前に目を通しておくこと。

事後学習
教科書やテキストを読み返すなど、授業内容の復習を行うこと。

民事執行法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する前に、民法などの民事実体法、民事訴訟法の授業を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで、『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても、適宜、取り上げていきます。

本講義の最終目標は、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日の法律問題や課題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることにあります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【営利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

企業活動と法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、随時、以下の事項が記載されていきます。

- ①予習すべき教科書の箇所、
- ②授業後に取り組むべき復習問題、
- ③レポート提出用の課題など

事前に配布される「レジユメ」や「判例資料」をよく読んで、指示された範囲の予習・復習を心がけ、課題に積極的に取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

1, 本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

2, 配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

3, 欠席した場合には、教員研究室前に置かれている残余分レジユメを受領してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

会社法Ⅰ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅰ

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅰでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論（1）【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論（2）【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論（3）【株式会社の基本構造】
- 5回 株式と株主の権利
- 6回 株式会社の機関（1）【機関の概要】
- 7回 株式会社の機関（2）【株主総会】
- 8回 株式会社の機関（3）【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関（4）【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関（5）【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関（6）【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関（7）【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関（8）【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関（9）【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。）

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法Ⅱも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分（民法総則、債権法等）、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく（又は同時受講する）と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法II

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

会社法II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅰ

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

初回講義時に指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の関心・理解の度合い等により、進度や順番が変わる可能性があることにつき、ご了承ください。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約成立までの法的問題(1)告知義務制度の背景 告知者とその相手方
- 第6回 保険契約成立までの法的問題(2)告知義務の内容 【告知事項】
- 第7回 保険契約成立までの法的問題(3)告知義務違反の効果 【因果関係の不存在】
- 第8回 保険契約成立までの法的問題(4)告知義務のまとめ
- 第9回 保険契約成立までの法的問題 被保険利益をめぐる問題
- 第10回 保険契約成立後の事情変更・失効に関わる諸問題(リスクの著しい増加や減少など)
- 第11回 保険事故が発生した場合の法的問題 通知義務、保険会社の免責事項(損保の場合)
- 第12回 保険事故が発生した場合の法的問題 約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

企業取引法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に配布されるレジユメには、①予習すべき教科書の箇所、②復習問題、③レポート提出用の課題などが、随時記載されていきます。よく読んで、指定された範囲の予習や講義後の復習を心がけて下さい。

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために「事前に」配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジユメについても持参の上、講義を受けるようにしてください（講義当日配布される予習用のレジユメでは当日の講義には役に立たない場合が多いです）。
- 2, 欠席した場合、配付済レジユメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください（残余部数には限りがあります）。
- 3, 配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないまま受講すると授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅱ

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいだけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍見他「商法III - 手形・小切手〔第5版〕」（有斐閣Sシリーズ・2018年）2,400円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第4版〕」（新世社・2018年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

企業取引法II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前にMoodleに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。予習時間60分。

講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習すること。復習時間60分。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法

LAW370M

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。近年でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件であった。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

徳本穰編著「スタンダード商法IV 金融商品取引法」（法律文化社・2020年3月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第4版〕」（商事法務研究会・2015年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法〔第5版〕」（商事法務研究会・2018年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(2)【説明義務】【指導助言義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

証券市場と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前に教科書・講義レジюмеを予習した上で講義に出席すること。講義前にMoodleに講義レジюме、資料等をアップするので、これに目を通し、予習して講義に出席すること。予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。予習時間60分。

講義後は、講義中に採った講義ノートを整理し、適宜、復習しておくこと。復習時間60分。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュライゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 証券市場 適合性原則 説明義務 指導助言義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。
より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けること、③政治制度の観点から政治過程論・行政学・国際関係論といった隣接する科目のトピックの一端に触れることでより専門的な内容への関心を高めることを目指していきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しませんが、各回にレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史(2008)『比較政治制度論』有斐閣アルマ
レイプハルト, アーレント(粕谷裕子、菊池啓一訳)2014.『民主主義対民主主義(原著第2版)』勁草書房
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(2011)『政治学(補訂版)』有斐閣
永井史男・水島治郎・品田裕 編(2019)『政治学入門』ミネルヴァ書房
川出良枝・谷口将紀 編(2012)『政治学』東京大学出版会
砂原庸介・稗田健志・多湖淳(2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【集合行為】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度：トップリーダーに何が出来るか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第8回 投票行動とアカウンタビリティ：有権者と政治制度
【政策投票（争点投票）】【回顧的投票（業績投票）】【責任の明確性】
- 第9回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第10回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジユメは専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して授業内ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。授業終了後の復習時に、レジユメの内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義から政治学の学習を始めるという方が多くいらっしゃると思いますが、スポーツから様々なゲームに至るまで、何かを深く理解する出発点はまずその基本的な仕組みやルールをよく知ることです。政治におけるそうした基本的ルールである「政治制度」の学習を通じて、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習を行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通じた環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成29年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) : : 簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは? 水俣学とは? 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から	【フードバンク】
第8回	食と農～健康の源＝自らの食を見直そう	【食農】
第9回	上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第10回	下水処理をめぐって～下水処理の原理	【水質汚濁】
第11回	大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは?	【大気汚染】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう!	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境首都としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論

PLS110M

授業の概要 /Course Description

現代の民主主義諸国の多くに共通する低投票率などの現象を以て、現代には「政治不信」が蔓延している、などといわれることがあります。我々はもはや民主政治という統治の手法に対して信頼がおけなくなっているのでしょうか。日常的な「文化」という言葉の語感とはやや異なるかもしれませんが、このような我々市民が政治というものに対して持つ見方や態度のことを「政治文化 (political culture)」と呼びます。本講義では、様々な角度からこの「政治文化」というものについて考察していきます。

より具体的には、まず前半では「政治文化」に対する古典的な理解を紹介したのち、より広い観点から、有権者が政治に対してどのように態度を形成するのか、また、特定の政治的態度や知識をもつ有権者がどのように行動し、その結果政府はどのように反応するのか、といったことを検討する政治行動論と呼ばれる分野の概説を行います。後半では、有権者の政治への見方に関連するさまざまなトピックを扱っていきます。有権者がもはや政治に信頼を置けなくなったとするならば、それはなぜなのでしょう。政治という営みに根本的に困難があるのか、選挙というものがうまく機能していないのか、あるいは我々有権者と政治エリートの間に分断がもはや甚だしくなりすぎたのか。様々な角度から、我々有権者からみた政治、というものに接近していきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しませんが、各回にレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

前半部については

飯田健・松林哲也・大村華子 2015. 『政治行動論-有権者は政治を変えられるのか』有斐閣ストウディア

後半については多岐にわたるため各回で適宜指示します。

日本政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨン
【政治文化】【比較政治文化研究】【政治文化論アプローチへの批判】

第I部 政治行動論

第2回 民意と政治的知識

【民意】【政治知識量】【ヒューリスティックス】

第3回 党派性とイデオロギー

【政党帰属意識】【右派と左派】【無党派】

第4回 政治的価値観と社会化

【脱物質主義的価値観】【政治的社会化】

第5回 投票参加と集合行為

【calculus of voting】【投票しないパラドックス】【集合行為】

第6回 投票行動と有権者の合理性

【政策投票】【ヴァレンス】【業績投票】【shark attack】

第7回 民意と応答性

【政治的景気循環】【中位投票者】【応答性】

第II部 各論的トピック

第8回 集団的意思決定

【中位投票者定理】【カオス定理】【社会選択論】【一般可能性定理】

第9回 アカウンタビリティ

【選挙の規律効果】【選挙の選択効果】【迎合 (pandering)】

第10回 政治腐敗

【政治腐敗 (汚職) の要因論】【履行ギャップ】

第11回 民主主義の質と政府の質

【フリーダムハウスとV-dem】【QoGプロジェクト】

第12回 ポピュリズム

【ポピュリズム】【ポピュリズムと党派性】【ポピュリズムの合理的説明】

第13回 ソーシャル・キャピタル

【ソーシャル・キャピタル論】【橋渡し型】【結束型】

第14回 代議制民主主義のオルタナティブ

【直接民主主義】【熟議民主主義】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。後半においては次回の参考文献をあらかじめ提示するようにします。

・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

履修上の注意 /Remarks

「政治過程論」を合わせて履修することでより理解が深まりますので、同時に履修することを強く推奨します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の方の中には「政治なんてどうでもいいよ!」という方もおられると思います。(ではなぜこんな学部に来てこんな講義をとっているのだという疑問も成り立たないではありませんが、私自身がさしたる理由も関心もなく法学部、そして政治学の流れ着いた学生でした)。もちろん、(いろんな考え方がありますが)民主政治というのは全ての人が全身全霊を込めて政治に対して愛を以て取り組まなければ機能しないというものでもありませんから、それはそれで一つの見識というものです。しかしせっかくご縁があったのですから、さて、ではなんで政治なんてどうでもいい、というような考えに行きついたのが、一緒に少し考えてみませんか。

キーワード /Keywords

政治文化 政治行動論 政治信頼

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

講義の時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	● 市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 地域NPO(1)【多機関連携】
- 15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論

PLC110M

授業の概要 /Course Description

政策の作成と実施によって、社会の諸問題に適切に対処する際には、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」が構想されます。このような価値観の理論を、政策規範理論と呼びます。そもそも政策にできること・できないことを了解した上で、政策を支える価値観の理論を理解することが、最終的な授業の目的です。

授業では、まず、政策に期待できることの可能性と限界を学びます。その上で、現代の政策の規範理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策の提案が可能かを考えていきます。

なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値観の理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策規範論へのイントロダクション
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策
- 第4回 デモクラシーと政策
- 第5回 功利主義と政策
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 コミュニタリアニズムの基礎理論 【負荷なき自己と共同体】
- 第13回 日本の格差：正規・非正規雇用
- 第14回 格差問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。（質問は授業後などに受け付けています。）

政策構想論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論

PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う、といったように政治が機能する過程を理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身につけ、民主政治における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』 有斐閣アルマ
建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』 有斐閣アルマ
山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』 東京大学出版会
谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』 東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【理論と実証】【因果関係】【方法的個人主義】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【業績投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制と汚染効果】【戦略投票】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【ロビーイング】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【3段階図式】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程の理論
【アジェンダ設定】【アリソンの3モデル】【ゴミ缶モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【ロジックモデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書及び参考書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に多くの事項を追加・補足します。ですので講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。
- ・ 本講義の中には「政治学」で学んだ政治制度についてより考察を深めるような内容が多く含まれているため、「政治学」を履修済であることが望ましいです。また「政党政治論」を履修済である、あるいは後に履修することでより理解が深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身に付けていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

キーワード /Keywords

政治過程 方法論的個人主義 入力過程と出力過程

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論	PLC112M
-------	---------

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第13回「生活保護」 原理・原則
- 第14回「生活保護」 扶助の種類
- 第15回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活

福祉国家論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

第3回～第13回の授業において出席をとる予定です。

欠席1回目は減点しません。欠席2回目から、欠席1回につき、期末試験得点から2点減点します。

* インフルエンザ等、忌引き、実習、課外活動については、欠席届の提出により公欠(減点なし)とします。

* 病気・けがなどについては、診断書提示などにより考慮します。

☆休講(つまり狭間が欠席)1回につき、全員の欠席1回を無効(減点しない)にします。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 西 貴倫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの政治的経験を概観する。具体的には、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していく。

教科書 /Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年9月刊（1,480円＋税）。
○R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
○篠原一『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに—政治学と政治史
- 第2回 分析視角—社会的亀裂、異議申立、参加、政治変動
- 第3回 議会制の成立①—イギリスの場合
- 第4回 議会制の成立②—アメリカの場合
- 第5回 議会制の成立③—フランスの場合
- 第6回 議会制の成立④—ドイツの場合
- 第7回 政治参加の拡大①—イギリスの場合
- 第8回 政治参加の拡大②—アメリカの場合
- 第9回 政治参加の拡大③—フランスの場合
- 第10回 政治参加の拡大④—ドイツの場合
- 第11回 福祉国家の盛衰①—イギリスの場合
- 第12回 福祉国家の盛衰②—アメリカの場合
- 第13回 福祉国家の盛衰③—フランスの場合
- 第14回 福祉国家の盛衰④—ドイツの場合
- 第15回 おわりに—現代西洋政治の歴史的展望

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の受講にあたっては教科書の該当部分を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意されたい。

西洋政治史 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
- 佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
- 山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
- 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを提出しない者はいずれも単位認定の対象外です。

都市経済論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本年度の講義は大学の指定によりオンライン＝オンデマンド方式で行います。進め方の詳細はmoodleに掲示しますのでよく確認してください。
- ・ データファイル形式、ファイル名の付け方をはじめオンライン方式に伴うルールは必ず指示通りにしてください。
- ・ 著作権上の問題により講義の録音、保存は一切厳禁です。
- ・ レポートの提出期限は厳守してください。
- ・ 受講レポート、期末レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。近年、打ち出されている「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分は何のような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）
ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。
阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと若者政策
- 15回 まとめ

公共政策論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講

PLS213M

授業の概要 /Course Description

政策は、社会問題に対する解決策として定義されます。政策に関する知識、政策についての研究の進め方、政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは、社会が直面する問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かすことができません。そこで、本講義は、政策が必要とされる要因、政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます。そのうえで、政策について研究するのは如何なる活動なのかに焦点を当てます。最後に、現代社会において議論が有する重要性を描出し、政策に関する議論のあり方に論及します。本講義の到達目標は、政策に関する基礎的な概念等を理解することと、社会問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介・説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01. イントロダクション—政策とは？政策分析とは？
02. 政策について考える①—問題解決策としての政策
03. 政策について考える②—政策を取り巻く環境
04. 政策について考える③—政策をめぐる新たな展開
05. 政策について考える④—政策と市民
06. 政策研究について考える①—政策研究の科学性
07. 政策研究について考える②—政策研究のプロセス
08. 政策研究について考える③—政策研究における計量分析と事例研究
09. 政策研究について考える④—政策研究における演繹的・数理的考察
10. 政策研究について考える⑤—政策研究における規範的・哲学的考察
11. 政策研究について考える⑥—政策研究と政策決定
12. 政策研究について考える⑦—政策研究と知識活用
13. 政策議論について考える①—現代社会における議論
14. 政策議論について考える②—議論の構造
15. 総括

※ 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (A) 授業内小テスト(4回程度予定).....40%
- (B) 授業内ディスカッションへの積極的参加.....60%

※ 「授業内小テスト」では、本講義で提供された知識や社会科学的思考を活用して、具体的な社会問題について考察したり、政策研究のあり方について論究することが求められます。授業内小テストが15回の授業のなかでいつ実施されるかについては公表いたしませんので、毎回出席することを強く推奨いたします。もしやむを得ない事情で小テスト実施の授業を欠席してしまった場合は、公的証明書(に準ずる書類)を提出してください。

※ 「ディスカッションへの積極的参加」では、単に授業に出席するだけでなく、授業内に行われるディスカッションに対して積極的に貢献(発言等)をすることが求められます。

※ 詳細については授業中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(1) 集中講義開始前

これまで受講してきた法学部の講義のなかで、特に研究のあり方や研究の目的に関わる内容を復習しておいてください。

(2) 集中講義期間中

各回の授業で解説された内容をきちんと振り返ったうえで、次の授業に臨んでください。なお、授業内小テストは、毎回の授業内容を理解していることを前提として実施されます。

(3) 集中講義期間終了後

集中講義15回の授業で解説された内容について、復習してください。その内容を今後の大学生活や社会人生活のなかで活用していただけると嬉しいです。

履修上の注意 /Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に、常に目を向けることを心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「せっかくの夏休みなのに授業に出るなんてあり得ない！」って感じるかもしれません。しかし、せっかくの夏休みだからこそ、ちょっと頭脳を理論的思考に触れさせて、悶々と考え悩むアクティビティを楽しんでみませんか？

社会のあり方や研究の進め方等について受講生と教員の皆で考え込んだり、その考え込んだ頭で一人で小テスト解答に苦悶したりする経験は、今後の法学部生としての生活でも卒業後の社会生活でも有用となる指針を皆さんに提供してくれると確信しています。

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定 Garbage Can Model、無意思決定 Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning & Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構) とその構造 (補助金・ Rent-Seeking のような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚 [Downs・ Niskanen の官僚利益追求論・ 政府間関係]) について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

『政策過程論』 (早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)

『公共政策学の基礎 新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30% 期末試験 40%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想

PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語る時、それは常に、政治と社会はいかにあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代政治理論 (新版)』 (川崎修・杉田敦 編、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治とは何か
- 第2回 権力とは何か (1) 【権力の種類】
- 第3回 権力とは何か (2) 【意図と権力】 【構造と権力】
- 第4回 リベラリズムの基礎 (1) 【自然権】 【功利主義】 【人格発展】
- 第5回 リベラリズムの基礎 (2) 【適者生存】 【ニュー・リベラリズム】
- 第6回 リベラリズムの発展と批判 【福祉国家】
- 第7回 自由とは何か (1) 【二つの自由】 【自律】
- 第8回 自由とは何か (2) 【共同体】 【共和主義】
- 第9回 自由とは何か (3) 【権力と自由】
- 第10回 平等と正義 (1) 【ロールズの正義論】
- 第11回 平等と正義 (2) 【リベタリアニズム】
- 第12回 平等と正義 (3) 【コミュニタリアニズム】
- 第13回 平等と正義 (4) 【資源の平等】
- 第14回 平等と正義 (5) 【潜在能力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。(質問は授業後などに受け付けています。)

履修上の注意 /Remarks

現代政治思想 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代日本政治の基礎にある価値観とは「どのようなものであるか」、また、「どのようなものであるべきなのか」、本授業においてともに考えていくことができれば幸いです。

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
- 8回 自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
- 9回 自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
- 10回 地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
- 11回 地方分権改革②【地方議会と首長】
- 12回 市町村合併①【平成の大合併】
- 13回 市町村合併②【合併の効果】
- 14回 現代の地方自治の動き①【地方分権一括法の動向】
- 15回 現代の地方自治の動き②【地方創生など】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

都市経営論【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が深刻化する中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップ、地域課題へのビジネス手法の活用など、今後の都市経営の方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習支援フォルダ等にて学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田 民雄(2003)『都市政府のマネジメント』中央経済社
- 宮脇 淳(2012)『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- 秋吉 貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉 貴雄 (2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市マネジメント
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 都市経営を支える諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. ガバナンスとパートナーシップ
11. 公共施設・空間のマネジメント
12. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13. 企業と社会の関わり - 企業の社会的責任と協働
14. 地域資源の活用による地域創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを提出しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は事後学習を行ってください。

都市経営論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本年度の講義は大学の指定によりオンライン＝オンデマンド方式で行います。進め方の詳細はmoodleに掲示しますのでよく確認してください。
- ・ データファイル形式、ファイル名の付け方をはじめオンライン方式に伴うルールは必ず指示通りにしてください。
- ・ 著作権上の問題により講義の録音、保存は一切厳禁です。
- ・ レポートの提出期限は厳守してください。
- ・ 受講レポート、期末レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。前期科目の都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、2013年、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで） | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源分配】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴していただきます。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。時には、お金を貯めて、世界に飛び立とう。自らの世界観の狭さやちっぽけさに気付こう。

キーワード /Keywords

開発途上国 (インド・ バングラデシュなど)、アマルティ・ セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 橋原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論 PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、第一に、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。（前半7回、橋原担当）

第二に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価とその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。（後半8回、横山担当）

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）
- 龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）
- 安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）
- 古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで -』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入-「評価」とは何か？
- 第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 政策過程の中の評価-評価はいつ行うのか-
- 第4回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第5回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第6回 プロセス評価
- 第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考（NPOとの関連も含めて）
- 第8回 「行政評価」とは何か？
- 第9回 先進事例の検討-三重県を中心に
- 第10回 事務事業評価の考察-公開されている評価結果の比較・検討
- 第11回 「評価結果」の評価
- 第12回 評価者に必要なものとは何か？
- 第13回 評価システムを支える外部評価制度？（1）-地方自治体での外部評価の実際
- 第14回 評価システムを支える外部評価制度？（2）-第三者による評価がもたらすもの
- 第15回 小テスト・後半のまとめ-行政評価総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート35%、小テスト35%、授業貢献度...30%。 授業に出席しない学生には単位は与えない（単位修得は不可能です）のでそのつもりで履修して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

政策評価論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトプット、アウトカム、行政評価、業績測定 (パフォーマンス・メジャーメント)

政党政治論 【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論

PLS211M

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し、適宜事例を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りません）、現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。

受講者はこの授業を通じて、1. 政党システム論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが、その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか、自ら批判的に検討できるようになる；2. 一市民あるいは一専門家として、議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき、選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；3. 政党組織論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で、議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来、一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできる）ことが求められます。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子(2011)『現代の政党と選挙(新版)』有斐閣
- 待鳥聡史(2018)『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
- 待鳥聡史(2015)『政党システムと政党組織』東京大学出版会
- 砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社

政党政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと政党の定義について。本講義全体の位置づけやゴールを説明し、本講義の主題であるところの政党の定義や多義的な側面について理解する。
2. 政党と民主主義の関係について。そもそも政党の存在は民主政治との関係においていかなる機能を果たしているのか、歴史的な否定論に言及しつつも、プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マティソンの【多元主義】的民主主義観や、政党の機能論、民主的統制との関連が重視される。
3. 政党システムの基礎的理解。議会で競争する存在としての政党ならびに、その全体的な競争状況を表すものとしての【政党システム(政党制)】概念について理解する。古典的かつ質的なサルトルーリ分類論を理解したのち、より近代的かつ量的な指標としての【有効政党数】を紹介し、その計算方法を習得する。
5. 政党システムの規定要因の基礎的理解。なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのか、古典的な【凍結仮説】と、選挙制度の効果とくに【M+1】ルールについて理解する。さらに具体的に日本や地方自治体の選挙結果をもとに、制度の効果についての実証的知見を身につける。
5. 政党システムに対する制度要因の追求。様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく、その国の執政制度も影響を与える事をしり、さらに同じ比例代表でも算出方法【ドント式】【サン＝ラゲ式】【ヘア方式】によって異なる議席数となることを、実際の算出方法の習得と併せて実感する。
6. 政党システムから政権形成について理解する。議会の政党間競争が重要なのは、それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする【連立形成理論】とくに【最少勝利連合】の概念について理解し、仮想的な状況で形成される多数派を自ら予想できるようになる(このことは現実とのギャップを見出した時に、「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる)。
7. 政党政策位置の理解。政党間競争や連立形成は議席・得票数のみならず各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離にも影響を受ける。政党政策位置をはかる複数の方法とプロジェクト(代表例としての【比較マニフェストプロジェクト(CMP)】)を知り、民主政治への含意を理解する。
8. 二大政党制と複数政党制の政党政治。政党システムの差異を一つの基軸として、リベラルデモクラシー下での民主政の多様性を論じた、A. Lijphartの【多数決型民主主義】【コンセンサス型民主主義】の議論と分析を理解する。具体的にどのような要素が接続されているか、どのようなガバナンス指標に影響を与えているのか、現実の統計分析結果をもとに読み取れるようになる。
9. 講義内容理解の定着：政党システム論を中心とした第2-7回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回(に相当する回)を用いて調整する。
10. 政党組織の基礎問題。政党を一枚岩の組織としてみる前提を解体し、政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち【政党の一体性party cohesion】や【政党規律party discipline】の問題である。特に党首選出を題材に、ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。
 11. 制度と議員行動の相互関係。個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か、個々の議員の資質ではなく、制度(特に選挙制度)との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく【中選挙区制】の効果理解が必要であり、また同じ比例代表制でも【拘束名簿】と【非拘束名簿】で、議員のいざくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。
 12. 政党の支持基盤と集票。政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく、組織として固定的支持基盤を形成したり、過去の業績に基づいて支持を集める【業績投票】。このうち【利益団体】とは何で、政党に対してどのように働きかけるのか、また政党が利益団体の意向を重視したり軽視したりするのはどのようなメカニズムによるのか理解する(【逆説明責任】)
 13. 政党内政治と議会政治。政党が組織として議場行動をとるとき、各議員によって異なる異論や議論はどのように処理されるのか理解する。この際、大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり、またそれは【委員会制】と【本会議制】によっても大きく異なってくる。関連して、党の中の【政務調査会】や【総務会】がどのような機能を果たしているのかも理解する。
 14. 独裁体制の政党政治。本講義の前提である民主主義国家での政党政治の理解を超えて、いわゆる独裁国家における政党政治について理解を深める。現在の独裁制は多くが外形的に選挙や政党政治を展開しているが(いわゆる【選挙権威主義体制】)、これが単なる表面的な儀式ではなく、選挙・政党が独裁維持に資している事を理解する。また、事例をもちいて独裁国家の党内政治がどのようになされているか見識を広げる。
 15. 講義内容理解の定着：政党組織論を中心とした第10-14回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回(に相当する回)を用いて調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：100% (テークホームイグザムになる可能性あり)

この他、自主レポートの提出者に対してや、時節の政治的状況を用いた授業積極参加措置(昨年は参議院議席予測コンテストを行いました) に対し、プラスの加点措置を取る可能性があります。詳細は第1回授業でアナウンスします。

政党政治論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中井の講義形式授業は毎回試験終了後に試験解題と採点基準についてmoodleで公開しています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。また、事前事後学習とは座学だけではなく、本講義を通じて習得した知見をもとにして、様々な書籍や新聞を読解したり、マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見、(規範的にはともかく)実証的な見地からして「適当な」コメンテーターなのか「適切な」コメンテーターなのかを区別する等の試みもきわめて実践的な事前事後学習と言えるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 図表をスライドに投影しつつ、レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします [スライドは授業後の場合もあります]
- ・ 政治学 / 政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。一部、科目担当者がうけもつ「民主主義とは何か」と内容の重複がありますが、そちらよりはより専門的な内容となっています。
- ・ 授業各回の最後に、次回内容の予習箇所を指示します。復習用として授業内資料を配布するので各自で入手してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 政党政治論は、政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つです。そのため、授業中は頻繁に数字(時には数式)が出てきますが、高度な数学的知識は必要ありませんので、驚かずに学んでください。むしろ、その「現代政治を明確に分析できる」強さや面白さを楽しんでください。

キーワード /Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学

都市政策論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の状況と、政策展開の実際を学んでいく。
都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ 講義の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法
5. 政策形成の実際
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. 都市文化政策と文化創造
13. インバウンドと観光まちづくり
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席レポート30%、期末試験70%
- ・ 一回も出席しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジユメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
- ・ 授業終了後は事後学習を行ってください。

都市政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁とします。
- ・ 出席レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。後期科目である都市マネジメント論と併せての受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%

第3回～第14回の授業において出席をとる予定です。

欠席1回目は減点しません。欠席2回目から、欠席1回につき、期末試験得点から3点減点します。

* インフルエンザ等、忌引き、実習、課外活動については、欠席届の提出により公欠（減点なし）とします。

* 病気・けがなどについては、診断書提示などにより考慮します。

☆休講（つまり狭間が欠席）1回につき、全員の欠席1回を無効（減点しない）にします。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

福祉政策論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業や本の紹介など (自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2 回 公害、環境 (問題) とその構造 (被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造 (環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3 回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴 1 (日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国)
- 4 回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5 回 環境権、環境政策の特徴 2 (日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国)
- 6 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7 回 環境政策の手段 (間の比較分析) 2: 有料化、road pricing等
- 8 回 ポスター発表会
- 9 回 自治体の環境政策 (環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10 回 廃棄物はどこにいくのか (アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12 回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13 回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15 回 まとめ (試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない (原発なくても) と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーなしで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策 (政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力。

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位 / 2学期 / Semester
 授業形態 /Class Format 講義 / 2年 / Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			アジア地域社会論 PLC222M

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバル化の中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。また、韓国は日本と社会構造がよく似ており、お互いが協力して問題を解決する必要があります。ゆえに、本授業では、最初にアジア地域全体の社会を概観・分類し、次に、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、マスコミの情報に振り回されることなく、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布
 ○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第3版】』明石書店、2017年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円
- * 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
- * クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円
- * 金栄勲『韓国人の作法』集英社新書、2010年、700円
- * 岩瀬秀樹『韓国のグローバル人材協力』講談社現代新書、2013年、780円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
- 第2回 アジア地域の社会の概観～統計数値、料理写真を通しての社会の特徴の分類～グループ討論 【統計数値】
- 第3回 韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く
【スタディツアー】
- 第4回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一曲「クラシック」を通して（1） 【映画部分鑑賞】
- 第5回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一曲「クラシック」を通して（2） 【映画部分鑑賞】
- 第6回 韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る 【バングラデシュ人労働者】
- 第7回 韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁 【多文化家族】
- 第8回 韓国の現代史、韓国社会の国際化（留学事情、学歴社会） 【現代史】
- 第9回 韓国の宗教と文化 【価値教育】
- 第10回 イスラームとは？ 【イスラーム】
- 第11回 バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童） 【雑業層】
- 第12回 バングラデシュの農村社会～農業の特徴 【農業】
- 第13回 バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論 【コミュニティ】
- 第14回 それでも、バングラデシュ！ 小ネタ集～教員の仰天体験を通して？ 【参与観察】
- 第15回 まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...30% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は教科書や参考文献で授業箇所を読んでおくことと日ごろから途上国の話題を探ること、事後学習は授業で習ったことの復習と小課題への適用です。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きません）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。
1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解、社会問題の解決

地域統合論 【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

近年の欧州政治の状況が示すように、ある地域統合の枠組みを巡って重要になるのは、統合を目指す利害と統合に反発する利害のせめぎあいである。本講義では、地域の対象としては欧州を中心として、その政治経済上のダイナミズムや政治的アクターの利害対立を学ぶことを通じ、地域統合が抱える成果や問題点を考察する。その際、ナショナリズムに関する諸理論の媒介・補助をうけて現実を見通す。国家より大きな地域（≒欧州）への統合のなかで反発する既存国家枠組や、国家より小さな地域の独自運動と既存国家の角逐など、政策決定のアリーナが多層化・多次元化する現代にあつて、ナショナリズムの問題は過去のトピックではなくますますその重要性を増している。

本講義の受講者は、1) 国内政治と国際政治の相互関係、とくにナショナリズム・自由貿易理論・2レベルゲームに関する基礎的理解を理解・説明できるようになり、2) 国境より小さな単位の地域主義と国内統合の問題に関する、諸事例の知識やその制度的介入についての基礎を持ち、3) 国境より大きな単位への地域統合と国内政治の具体例である欧州統合およびその拡大について、種々の国々の基礎的な歴史・事例・具体例について基礎的な知識をもち説明できるようになる、ことが求められる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網谷龍介 他 編『ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版、2014
- 中村民雄『EUとは何か』信山社、2016
- 久保慶一他『比較政治学の考え方』ミネルヴァ書房、2016
- 森井裕一『ヨーロッパの政治・経済入門』有斐閣、2014

地域統合論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションとして科目の位置づけや授業予定について解説する。欧州を事例として地域の中にある価値感や文化の多様性に関する理解を深め、それらを政治的・公的意思決定プロセスにおいて統合することが必然的に含む課題について問題意識を共有する
2. ナショナリズムの一般理論について解説する。文化的単位と政治的単位の一貫を目指す原則としてのナショナリズムについて、ゲルナーやアンダーソンによる基礎的な理論とその背景を学び、政治的単位より小さな地域に多様性を有する場合であっても、政治的単位より大きな地域との政策的統合を目指す場合であっても、常にナショナリズムが政治的ダイナミズムの一片をなすことを理解する。
3. 国内政治と国際政治の相互関係に関わる理論を解説する。特に、2レベルゲームの基礎的考え方を理解することと、とくに争点になる経済統合の問題として、自由貿易に関する基礎理論とそれが国内政治との間に抱える緊張関係について理解する。
4. 国内地域主義と国家統合の相互関係について理解を深める。基礎的な国家成立要件を手掛かりに、国内において主権や統合が確立されているというのはいかなる状況なのか理解する。対外的主権と対内的主権の境界にズレが生じているケースともいえる未承認国家の問題や事例を通じて、先述の問題をより深く理解する。
5. 国内の地域的多様性統合の失敗ともいえる内戦を論ずる。政治的境界内部での、多様性や地域主義の統合が失敗した究極のケースが内戦である。内戦とは何かを理解し、その原因に関する基礎的からややアドバンストな先行研究までを理解する。単に文化やアイデンティティの際によって統合が失敗するのではなく、具体的な利害こそが内戦（地域統合の失敗）のステークであることを理解する。
6. 国内の地域主義等を制度的に統合する連邦制の理解を深める。国内の地域的多様性を平和裏に解決する手法としてしばしば連邦制があげられることがある。連邦制とは何か、地域分権とは違うのか、基礎的なところからスタートし、連邦制の諸バリエーションを理解する。そのうえで、連邦制がもつ一定の課題を理解し、万能の制度的介入ではないことを理解する。
7. ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。第1回から第6回までの内容について振り返り、知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー、休講/補講による補填の調整、他クラスとの合同授業企画などの場合、この時間（に相当する枠）を充てることで、授業進行を調整する。
8. 欧州統合発足を例に国家を超える地域統合のメカニズムを理解する。政治的境界より大きな地域への統合の事例として、欧州統合を取り扱う。特に最初の欧州統合（ECSC・EEC）の発足について説明し、単にアイデンティティや欧州という共通文化が統合の推進材料だったのではなく、具体的な利害の考慮があったことを理解する。
9. 英国を例に、地域統合拡大メカニズムと国内地域主義暴発の事例を知る。イギリスや周辺北欧諸国の欧州統合参加過程について理解する。参加有無の判断が分かれた背景の一つに、国内産業の差異・多様性・統合との利益均衡の問題があったことを理解する。あわせて多文化国家イギリスの国内地域主義運動（特に北アイルランド問題）を学習し、それにどのような対応がとられたかを知る。
10. 欧州統合の南欧・中欧への拡大を事例に経済格差と統合の軋轢を理解する。経済的後進に統合を広げることは、既存加盟国の一部世論との間に軋轢を生む。それがどのような構造の問題であるか、構造基金・結束基金という介入はどのような意味を持つのか理解する。スイス・オーストリアの欧州統合参加の判断の別れの原因を、国内背景の差異から理解する。スイス国内の地域主義問題を知る。
11. 欧州統合の東欧への拡大を事例にきわめて異質な社会を統合する困難を理解する。2004-7年のEU拡大が新興民主国・旧共産圏への地域統合拡大という意味で質量ともに重大な拡大であった事を学ぶ。加盟国・被加盟国の政治経済的な利害構造を学び、対応措置を知り、今日の欧州政治にたいしても持つ含意を理解する。旧共産圏ではないものの、このタイミングで参加したキプロスの内戦・地域主義・分断状況を事例に、国内地域主義の問題を理解する。
12. 地域統合とナショナリズムの変質について理解する①。欧州地域統合は各国のナショナリズムを時代遅れにしたのではなく、それをむしろ変質・多様化させただけだった。そのことを過去に予言したCsergo&Goldgeier 2004を元に、欧州における伝統的ナショナリズムと地域主義型ナショナリズムについて理解する。
13. 欧州統合とナショナリズムの変質について理解する②。前回に引き続き、地域統合の文脈で多様化し変質した欧州のナショナリズムのうち、主権横断型ナショナリズムと保護主義型ナショナリズムを理解し、それぞれのナショナリズムのタイプ間の相互関係を理解する。
14. 21世紀の欧州におけるナショナリズムの源泉を理解する。前回までに論じた展開として、保護主義型ナショナリズムの高揚ともいえる欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機ではなく、よりソシオトピックな懸念によるものが大きいことを示す。
15. ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。第8回から第14回までの内容について振り返り、知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー、休講/補講による補填の調整、他クラスとの合同授業企画などの場合、この時間（に相当する枠）を充てることで、授業進行を調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末筆記試験100%（テークホークイグザムになる可能性あり）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので、それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。本科目の特質上、固有の政治的事実や固有名詞が頻りに登場し、また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから、特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

履修上の注意 /Remarks

地域統合論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか？-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か？
- 10回 北九州市の局地的高齢化
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 ふるさと納税
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない！！

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

自治体政策研究【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何も始まりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PA0212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%

第3回～第13回の授業において出席をとる予定です。

欠席1回目は減点しません。欠席2回目から、欠席1回につき、期末試験得点から3点減点します。

* インフルエンザ等、忌引き、実習、課外活動については、欠席届の提出により公欠（減点なし）とします。

* 病気・けがなどについては、診断書提示などにより考慮いたします。

☆休講（つまり狭間が欠席）1回につき、全員の欠席1回を無効（減点しない）にします。

遅刻は授業開始後20分まで認められます。ただし減点対象となることがあります。

授業開始後20分以降は入室禁止とします。指示に従わず着席した場合は、単位を認定しないことがあります。

公共経営論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 私語厳禁。授業態度の悪い受講生は、欠席扱いとする場合がある。
- ・ 授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。
- ・ 第1回目の講義において、その他の注意事項を説明するので、必ず遵守すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論

PLS215M

授業の概要 /Course Description

近年、世界各国で民主主義の機能不全が言われていますが、そもそも民主主義的な政治はどのような経緯で生まれてきたのでしょうか。この授業では、民主主義を作り出した欧米諸国の人々の「政治や社会に関するものの見方・考え方（政治思想）」に着目し、民主主義を可能にした西洋の政治思想とはどのようなものかを歴史を通じて学んでいきます。また、日本において西洋の民主主義的な政治思想を導入しようとした幕末以来の試みを学び、西洋と日本の状況の違いを考えます。これらを通じて、今後の世界、特に日本社会において、よりよい民主主義的政治に必要なことは何かを、受講者が自ら考えられるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（1）【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（2）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホッブズの社会契約論
- 第8回 ロックの社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソーの社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開と保守主義
- 第12回 江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

該当回のパワーポイントを事前に通読し、予習しておくこと。また授業内容をノートにまとめ、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習してください。（質問は授業後などに受け付けています。）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義社会が真つ当に成立する歴史的条件を考え、今後の社会のあり方を構想できる力を身につけてほしいと思います。

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政をめぐる、現代的な課題をテーマごとに学ぶ。地域活性化のために必要な行財政のあり方の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方財政の仕組み【収入源】
- 3回 地方財政の改革①【法定外税】
- 4回 地方財政の改革②【ふるさと納税】
- 5回 地方財政の改革③【住民参加型地方債】
- 6回 地方財政の改革④【原発】
- 7回 市民参加の改革①【自治基本条例】
- 8回 市民参加の改革②【町内会自治会の活性化】
- 9回 市民参加の改革③【地域自治組織】
- 10回 市民参加の改革④【パブリックコメントなど】
- 11回 地域の戦い①【定住人口対策】
- 12回 地域の戦い②【交流人口対策】
- 13回 地域の戦い③【災害対策】
- 14回 地域の戦い④【公務員のやる気】【PSM】
- 15回 地域の戦い⑤【公務員のやる気】【境界連結者としての公務員】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 冬休みの特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います（もちろん、2年生でも受講は可能です）。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 湯川 勇人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講

PAD214M

授業の概要 /Course Description

近現代の日本外交について、基礎的な知識を得るとともに、外交文書や外交官の個人文書を読み、その政策決定過程について学びます。また、現在の日本外交についても皆さんで議論し、その課題を把握し、自身の意見を持てるようになることを目標に授業を進めます。

以上によって、日本外交に関する専門的な知識、公文書を読む技術を修得し、「学位授与方針における能力」の「専門分野の知識・理解」の到達目標を達成すると同時に、今現在の外交課題について議論することで「生涯学習力」の到達目標の達成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤史郎他編『日本外交の論点』、2018年
五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008年
入江昭『日本の外交』中央公論社、1966年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：日本の外交①
- 第2回：日本の外交②
- 第3回：資料読解 日露戦争に至る日本外交
- 第4回：日本の外交③
- 第5回：日本の外交④
- 第6回：資料読解 太平洋戦争へ至る日本外交
- 第7回：日本の外交⑤
- 第8回：日本の外交⑥
- 第9回：日本の外交⑦
- 第10回：現在の日本外交の論点について確認する
- 第11回：在日米軍基地問題とは
- 第12回：在日米軍基地問題について議論する
- 第13回：日韓外交問題とは
- 第14回：日韓外交問題について議論する
- 第15回：講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50%
日常の授業への取り組み・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞やテレビのニュースで現在の日本の外交問題、対外関係に関する話題を知る。
授業内容の復習。

履修上の注意 /Remarks

応用政策特講 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本外交 日本政治 政策決定 外交文書

行政組織論 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論

PA0210M

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体など、私たちの周りには多種多様な組織が存在しています。私たち自身が所属する組織、私たちが享受できるサービス供給を行う組織、日々の暮らしを支えるインフラを整備する組織、現代社会において、「組織」というものからの影響を受けずに生活することは不可能と言ってよいでしょう。また1990年代以降の日本の中央省庁や地方自治体といった行政活動の著しい変化は、人間の経営手法の影響を大きく受けた結果である、という指摘があります。これらのことから、公的な部門を中心とした組織論を学ぶことは、行政組織のみならず、複雑な社会の在り様を理解する一助になると考えられます。特に政策の形成・決定・実施・評価という各過程における主要な行為者となる場合が多い行政組織に着目することは、過去から現在までの公共政策や地方自治の変化を知り、実態への洞察を深めることにもつながります。講義全体のキーワードは、「組織論を通じてみるひとと社会」、組織を形成する個人の意識・行動にも言及していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
 - 田尾雅夫(2012)『現代組織論』勁草書房
 - 田尾雅夫(2015)『公共マネジメント：組織論で読み解く地方公務員』有斐閣ブックス
 - 曾我謙悟(2016)『現代日本の官僚制』東京大学出版会
 - ステイーブン・P・ロビンズ[高木晴夫訳](2009)『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
 - 石原俊彦・山之内稔(2011)『地方自治体組織論』関西学院大学出版会
- その他、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	組織の定義と概念
3回	組織と環境・組織構造
4回	官僚制(1)誕生と変容
5回	官僚制(2)原則と逆機能
6回	日本の行政組織(1)官吏と公務員、国家公務員法・地方公務員法
7回	日本の行政組織(2)任用と身分、行政改革
8回	中間テスト
9回	中間テストの解説と復習、日本の行政組織(3)地方公務員制度の変遷
10回	ストリート・レベルの官僚制、組織文化
11回	組織におけるリーダーシップ
12回	ひとのモチベーション
13回	組織における学習
14回	行政サービスを担う組織
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

行政組織論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は（中間テストを実施する予定であるため）授業で配布したレジユメを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします

履修上の注意 /Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学」「地方行政改革論」「公共経営論」「公共政策論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお講義の進行状況により、上記スケジュールを変更することがあります（特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論

PLC213M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易・経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下どのような経済政策を実行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや自国・他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易・経済の国際化がどのような経済環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいくつもの制約を課するかを分析する。そしてその制約下、各国政府がいくつもの経済政策を施行し、その経済政策が自国・他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

ここでいう「経済政策」とは、広い意味での経済政策で、具体的には雇用、経済成長、福祉、財政、教育、貿易、金融、通貨などの政策を含む。このクラスは、言葉を変えて言えば、「国際化された経済から、先進諸国はどのような影響を受け、それに各国政府がどのように対応し、どのような政策を実行するか。また、その政策が各国の社会経済（社会や人々の生活、企業など）にどのような影響を与えるのか」についてのクラスである。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生による教材の講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、教材の指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)教材の講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)期末総合テストが60%。(1)の授業での発言・参加と(2)のテストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよく教材を指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験では授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に立って行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照してください

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政策論 【昼】

担当者名 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較政策論

PLC210M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える際に、その分析の基礎となる分析的枠組みを学ぶ。また、これらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。

これらのサブジェクトの学習により、比較政治経済、比較福祉政策、比較政治学の基礎知識を得る。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生による教材の講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、教材の指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人はしりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

比較政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)教材の講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)期末総合テストが60%。(1)の授業での発言・参加と(2)のテストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよく教材を指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験では授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照してください

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教材の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

授業の概要 /Course Description

本講義（国際機構論I・II）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Iでは、国際機構を理解するための基礎的な情報と視点を提供する。国際機構の歴史的な展開をまず概観したうえで、国際関係における国際機構の意義や課題を説明するための分析視角を学び、理論的な枠組みや見方について理解する。また、地域的な国際機構や非政府間の国際機構の特徴や役割、これらと普遍的な国際機構との違い、さらには国際機構の有する今日的な課題についても学習する。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年。
山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。
○渡部茂己・望月康恵編『国際機構論[総合編]』国際書院、2015年。
横田洋三監『入門 国際機構』法律文化社、2016年。
Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, and Kendall W. Stiles, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, 3rd ed., Lynne Rienner Publishers, 2015.
Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, 3rd ed., Cambridge University Press, 2017.
Jacob Katz Cogan, Ian Hurd, and Ian Johnstone, eds., The Oxford Handbook of International Organizations, Oxford University Press, 2016.
Bob Reinalda, ed., Roudledge Handbook of International Organization, Routledge, 2019.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション【国際機構は重要か？どのような意義があるか？】
第2回 歴史①【19世紀～国際連盟】
第3回 歴史②【国際連合の創設とその後の展開】
第4回 分析視角①【国際機構の存在論：アクター、フォーラム、リソース】
第5回 分析視角②【国際機構の創設：パワー、共通利益、合理性、規範】
第6回 分析視角③【国際機構の存続と消滅：粘着性、正当性、制度的置換】
第7回 普遍的国際機構①【国際連盟と国際連合】
第8回 普遍的国際機構②【GATT/WTO】
第9回 普遍的国際機構③【UNESCO, UNHCR】
第10回 地域主義と地域統合
第11回 地域的国際機構①【EU】
第12回 地域的国際機構②【ASEAN】
第13回 地域的国際機構③【AU, OAS】
第14回 非政府間国際機構【INGO】
第15回 国際機構の諸課題【機能不全(逸脱行動、縄張り争い)、説明責任】

国際機構論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中課題（小レポート） 20%
- ② 定期試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 新聞の国際面、社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

授業の概要 /Course Description

本講義（国際機構論I・II）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論IIでは、現在の国際社会において最も普遍的な国際機構である国際連合を取り上げ、その仕組みや機能、制度改革の動きなどについて学習する。また、安全保障や開発、環境、人道支援といった主要な政策分野における国際機構の活動について、諸アクター間の関係性や実際の合意形成などにも着目し考察する。ディスカッションなどを適宜盛り込み、学生主体の作業を通じて国際機構の現実に触れる機会を設ける。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジユメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

植木安弘『国際連合-その役割と機能』日本評論社、2018年。

○内田孟男編『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年。

田仁揆『国連を読む-私の政務官ノートから』ジャパンタイムズ、2015年。

○明石康『国際連合-軌跡と展望』岩波書店、2006年。

Thomas G. Weiss and Sam Daws, eds., The Oxford Handbook on the United Nations, 2nd ed., Oxford University Press, 2018.

Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, 8th ed., Routledge, 2020.

Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, eds., International Organization and Global Governance, 2nd ed., Routledge 2018.

○Jussi M. Hanhimaki, The United Nations: A Very Short Introduction, 2nd ed., Oxford University Press, 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション【国連はどのように運営されているのか？】

第2回 国連の目的・構造と意思決定

第3回 仕組み①【総会】

第4回 仕組み②【安全保障理事会】

第5回 仕組み③【経済社会理事会】

第6回 仕組み④【国際司法裁判所】

第7回 仕組み⑤【事務総長と事務局】

第8回 国連改革、システム一貫性、多様なアクターの参画

第9回 安全保障①【核兵器、テロ】

第10回 安全保障②【平和活動、平和構築】

第11回 経済【WTO、世界銀行グループ、IMF、AIIB、新開発銀行】

第12回 人道【人道的介入、難民・国内避難民、国際刑事裁判所】

第13回 人権【国連人権理事会、欧州人権裁判所、人権NGO】

第14回 開発援助【MDGs/SDGs、UNDP、OECD/DAC】

第15回 環境問題【UNEP、IPCC、気候変動枠組条約、「気候正義」】

国際機構論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中課題（小レポート） 20%
- ② 定期試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジюмеや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジюмеや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 新聞の国際面、社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジюмеは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション（講義の目的）、開発援助の基礎知識【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 1960年代の開発援助【近代化論】【トリクル・ダウン仮説】
- 第4回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第5回 1980年代の開発援助【構造調整政策】【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第6回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第7回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第8回 グローバル・サウスによる開発協力【バンドン会議】【南南協力】
- 第9回 中国による開発協力【南南協力】
- 第10回 韓国による開発協力【セマウル運動】
- 第11回 日本のODAの歴史【戦後賠償】【黒字還元】
- 第12回 日本のODAの仕組み【開発協力大綱】
- 第13回 開発援助レジームの変容【OECD/DAC】
- 第14回 グローバル開発ガバナンス【GPEDC】
- 第15回 開発協力と国際政治

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40%（10%×4回） 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。定期的に小テストを実施しますので、単元毎に復習をしてください。

国際協力論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。この授業では国際政治学の観点から制度としての開発協力を考察します。そのため開発の実務的側面についてはあまり触れません。資料は事前にMoodleにアップしますので、各自ダウンロードして目を通しておくように。望ましい形としては、資料を印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業内で補足した説明などを書き取るなど、独自のノートづくりをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：国連PKOの仕組み、歴史、役割
- 第2回 事例研究1 カンボジア【歴史、概要】
- 第3回 UNTAC：国連による国造り
- 第4回 事例研究2 ソマリア【歴史、概要】
- 第5回 UNOSOMII：紛争当事者としての国連 (DVD)
- 第6回 事例研究3 ルワンダ【歴史、概要】
- 第7回 UNAMIR: 傍観者としての国連 (DVD)
- 第8回 事例研究4 旧ユーゴスラビア【歴史、概要】
- 第9回 ボスニア・ヘルツェゴビナ
- 第10回 UNPROFOR：スレブレニツァの悲劇 (DVD)
- 第11回 国連PKOの変容と保護する責任の議論
- 第12回 和解・移行期正義
- 第13回 平和構築アプローチ (各論)
- 第14回 紛争地における支援-Do No Harm原則-
- 第15回 NGOによる紛争解決 アフガニスタンにおけるベシャワール会の取り組み (DVD)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出... 40% (10%×4回) 学期末試験... 60%

国際協力論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、ビデオを観た後で課題に答えて提出して頂きます(4回、Moodleを活用する予定)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名
/Instructor

政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下を目的とする。第一に、国際的な人権規範がどのように誕生し、国際社会に普及してきたのかについて、実際に採択された宣言や条約などを取り上げながら学ぶ。第二に、現実の国際社会において、人権がどのように保護され、また推進されているのかについて、国際的・地域的なレジームでの取り組みや、国家やNGOなどの活動を分析することによって検討する。また、テロ対策を名目としたプライバシーの制限など、具体的な論点を取り上げ、国によって異なる視点や国際政治上の動きも紹介する。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芹田健太郎他『ブリッジブック国際人権法（第2版）』信山社、2017年。
- 横田洋三監『国際人権入門（第2版）』法律文化社、2013年。
- 渡部茂己編著『国際人権法』国際書院、2009年。
- 阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法（第3版）』日本評論社、2009年。
- 長有紀枝『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて』中央公論新社、2012年。
- David P. Forsythe, Human Rights in International Relations, 4th ed., Cambridge University Press, 2018.
- Jack Donnelly and Daniel J. Whelan, International Human Rights, 5th ed., Roudledge, 2017.
- Franke Wilmer, Human Rights in International Politics: An Introduction, Lynne Rienner Publishers, 2015.
- Michael Goodhart, Human Rights: Politics and Practice, 3rd ed., Oxford University Press, 2016.
- Andrew Clapham, Human Rights: A Very Short Introduction, Oxford University Press, 2016.
- David Andersen-Rodgers and Kerry F. Crawford, Human Security: Theory and Action, Rowman & Littlefield, 2018.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション【人権は普遍か？どのような考え方や実行があるか？】
- 第2回 歴史①【1945年まで：国内問題としての人権】
- 第3回 歴史②【1945年以降の展開：人権の国際化へ】
- 第4回 国際的な人権保障制度①【世界人権宣言、国際人権規約】
- 第5回 国際的な人権保障制度②【ジェノサイド、難民、人種、女性、子ども】
- 第6回 国際的な人権保障制度③【国連人権理事会、国連人権高等弁務官事務所】
- 第7回 欧州の人権レジーム【欧州審議会、欧州人権条約、コペンハーゲン基準】
- 第8回 米国による人権外交【カーター政権、クリントン政権】
- 第9回 アジア・アフリカ諸国と人権【ASEAN人権宣言、バンジュール憲章】
- 第10回 NGOによる人権推進活動【アドボカシー、社会的圧力、ネットワーク】
- 第11回 論点①【テロ（対策）と人権】
- 第12回 論点②【グローバル化と人権】
- 第13回 論点③【武力紛争下の市民保護】
- 第14回 論点④【人道犯罪者の処罰】
- 第15回 論点⑤【メディアと人権】

国際人権論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中課題（小レポート） 20%
- ② 定期試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジюмеや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジюмеや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 新聞の国際面、社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジюмеは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、携帯電話などで写真に撮ってはけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 現代の国際社会では、人権や人間の安全保障といった、個人の権利や自由の尊重に重きを置く考え方が理念としては共有されてきた一方、地域や国家のレベルでは異なる立場や実行が依然として根強く残っています。前者のような国際的な理念についてのみ理解するのではなく、各国・地域のさまざまな取り組みや実際の争点を考察することによって、多面的な見方を知ることも重要です。本講義を通して、普遍的な（とされる）考え方を相対化する姿勢を養いましょう。

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的方法と理論的方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを、「覇権」や「分析レベル」といったキーワードに基づいて簡潔にみていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史学上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして以下の文献を挙げておく（著者名の五十音順）。

- G.アリソン（藤原朝子 訳）『米中戦争前夜—新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』ダイヤモンド社、2017年。
- K.ウォルツ（河野勝、岡垣知子 訳）『国際政治の理論』勁草書房、2010年。
- K.ウォルツ（渡邊昭夫、岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドステイン（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論』世界書院、1997年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
- J.ナイ他（田中明彦、村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。
- G.モデルスキー（浦野起央、信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角：【分析レベル】、【覇権】、【トウキデイデスの罠】
- 第3回 三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
- 第4回 覇権と国際紛争（1）—スベインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第5回 覇権と国際紛争（2）—バックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第6回 第一次世界大戦（1）：【帝国主義】
- 第7回 第一次世界大戦（2）：【三国同盟】、【三国協商】
- 第8回 第二次世界大戦（1）：【ナチズム】
- 第8回 第二次世界大戦（2）：【連合国】、【枢軸国】
- 第9回 冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
- 第10回 冷戦期の国際紛争（1）—二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
- 第11回 冷戦期の国際紛争（2）—中国と台湾：【台湾海峡危機】
- 第12回 冷戦期の国際紛争（3）—朝鮮半島：【朝鮮戦争】
- 第13回 冷戦期の国際紛争（4）—中東①：【パレスチナ問題】
- 第14回 冷戦期の国際紛争（5）—中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第15回 冷戦後の国際紛争—「イスラム国」をめぐる問題：【テロリズム】

国際紛争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各テーマのレジュメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。

履修上の注意 /Remarks

進み方のペースによってスケジュールの変更もありうるので、その点は了承いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校で世界史などを履修したことがなくても問題はないが、講義後の発展的な学習（復習はもちろん、講義で紹介した文献を読むことなど）に力を入れていただきたい。

キーワード /Keywords

上記の授業計画を参照。

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジュメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【美しき国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想 【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅とコギト】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【承認とコルポラティオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど地域社会において生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、戦後の障がい者福祉施策を俯瞰しながら地域生活、施設利用などでの問題を取り上げ、以下の点について吟味する。

①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【障害のある子どもの生活と願い】
- 5回 障害者福祉の思想① 【優生思想とは何か】
- 6回 障害者福祉の思想② 【ノーマライゼーションからインクルージョンへ】
- 7回 障害者支援の先進例1 【北欧】
- 8回 障害者支援の先進例2 【北欧】
- 9回 権利擁護システム 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】 【生活・介護支援】
- 11回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【家族支援】
- 12回 障害者福祉のこれから① 【地域生活支援】
- 13回 障害者福祉のこれから② 【施設解体とは何か】
- 14回 障害者福祉のこれから③ 【恋愛・性の支援1】
- 15回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援2】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(30%)、筆記試験(70%)
レポートと筆記試験の中で、特に自らの考えが明示されているかを中心にして、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は前もって紹介する参考文献・資料に目を通し、興味関心のある事柄からでよいので問題関心を広げておくこと。
事後学習は授業中に配布する講義資料を精読し、具体的な社会福祉政策のあり方と、障がいのある人の生活実態について理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自立、地域生活、施設生活、恋愛と性、生命倫理、社会的包摂、社会的排除、優生思想

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

公共経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト(12回) ...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(III)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

経済地理学II【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

金融論Ⅰ【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論Ⅰ

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論Ⅰ(および「金融論Ⅱ」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Ⅰでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジュメを印刷し、目を通しておく。
講義後には、講義内容について復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

金融論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に指定されたレジユメを印刷し、目を通しておく。
講義後に復習し、理解を深めておく。

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)
M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)
中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
- 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【管理者と非管理者】
- 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
- 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
- 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
- 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
- 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原理】
- 第12回 組織構造② 【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織における管理① 【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
- 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴的結果】【責任の組織化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、レポート課題の提出を求めます。該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

経営組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 鄭 義哲 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

授業の前半は企業財務を学習する上で最小限必要となる基礎知識となる部分を紹介し、基本的な知識を習得した上で、後半は、企業の財務政策にかかわる資金調達、投資意思決定などの財務理論について学びます。具体的な授業の内容は以下の授業のスケジュールで紹介しています。なお下記授業計画は、あくまで予定であり、受講者の理解度等により変更することがあります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレートファイナンス(第2版)』,日本経済新聞社(2017年)
神原茂樹・菊池誠一・新井富雄,『現代の財務管理』,有斐閣アルマ(2011年)
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳,『日本企業のコーポレートファイナンス』,日本経済新聞出版社(2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(ファイナンスとは)
- 2回 ファイナンスにおける「企業価値とコーポレートガバナンス」
- 3回 ファイナンスの基礎1: リスクのない場合の現在価値・将来価値
- 4回 ファイナンスの基礎2: リスクのある場合の現在価値・将来価値
- 5回 ファイナンスのための会計の基礎1: 貸借対照表・損益計算書
- 6回 ファイナンスのための会計の基礎2: 財務分析
- 7回 資金調達1: エクティ・ファイナンス
- 8回 資金調達2: デット・ファイナンス
- 9回 投資案の評価1: NPV
- 10回 投資案の評価2: IRR
- 11回 資本コスト1: レバレッジ
- 12回 資本コスト2: ビジネスリスクとファイナンシャルリスク
- 13回 MM理論1: 税のない世界
- 14回 MM理論2: 税と倒産コストを考慮
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う内容については、上記の参考文献を通して事前に目を通しておくこと(1時間)。また授業終了後は授業で使った資料を用いて復習すること(1時間)。

履修上の注意 /Remarks

授業では計算問題が出てくることが多いですので電卓は持参した方がいいかもしれません。

企業ファイナンスI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

頑張ってください。日経新聞が読みやすくなると思います。

キーワード /Keywords

企業価値 NPV コーポレートガバナンス

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 /Instructor 鄭 義哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

授業の前半は、（企業ファイナンスIでは所与とした）資本コストを算出するモデルであるCAPMについて勉強します。そのために、株式のリスクやリターンの測定やポートフォリオ理論などを学びます。後半は、CAPMで推定した資本コストを用いた企業価値評価の事例をみて、最後に企業の配当政策を企業価値との関連性から学びます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄、『現代の財務管理』,有斐閣アルマ (2011年)
砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳、『日本企業のコーポレートファイナンス』,日本経済新聞出版社 (2008年)
新井富雄・高橋文郎・芹田敏夫、『コーポレートファイナンス 基礎と応用』,中央経済社 (2016年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (企業ファイナンス1と企業ファイナンス2の関係)
- 2回 効率的市場について
- 3回 リスクとリターンの尺度
- 4回 ポートフォリオのリターン
- 5回 ポートフォリオのリスク
- 6回 最適ポートフォリオの決定1: リスク資産のみの場合
- 7回 最適ポートフォリオの決定2: 安全資産も導入した場合
- 8回 CAPM (資本資産評価モデル)
- 9回 CAPMによる株主資本コストの推定
- 10回 加重平均資本コスト
- 11回 フリーキャッシュフロー
- 12回 割引キャッシュフロー法による企業価値の評価
- 13回 配当政策1: 現金配当
- 14回 配当政策2: 自社株買い
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験80% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う内容については、上記の参考文献を通して事前に目を通しておくこと (1時間)。また授業終了後は授業で使った資料を用いて復習すること (1時間)。

履修上の注意 /Remarks

授業では計算問題が出てくることが多いですので電卓は持参した方がいいかもしれません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

計算問題が出ることも多いですが、欠席せずにまじめに取り組めば、決して難しい内容ではありません。

企業ファイナンスII 【昼】

キーワード /Keywords

リスク リターン 資本コスト 企業価値

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)
嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)
他、参考となる文献を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】【戦略経営論】【プロセス戦略論】【RBV】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】【シナジー効果】【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】【経験曲線】【マトリックス】
- 第7回 成長の戦略4 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】【M&A】【戦略提携】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォース】【PEST】【戦略グループ】【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略 【コストリーダーシップ】【差別化】【集中化】【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】【チャレンジャー】【ニッチャー】【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクル別戦略 【導入期】【成長期】【成熟期】【衰退期】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム 【顧客価値】【バリューチェーン】【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合 【組織構造】【組織文化】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 【イノベーション】【組織学習】【知識創造】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポート等提出物の結果(20%)によります。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」(2018年度生以上は「マネジメント論基礎」)で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か？ - 【コンテンツラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、例年レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末レポート... 60%

財務会計論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む) ... 20% 期末試験... 80%

財務会計論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト（簿記2級程度の仕訳）や、財務会計論の入門書及び教科書（例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光 & 川村義則の最新の書籍）を読むことをすすめる。

事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみる事が重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論

ACC216M

授業の概要 /Course Description

この講義では、独立した公認会計士（監査法人）が、財務諸表の信頼性を検証して担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。税理士、会計士試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目のまとめ、あるいは会計学を学ぶ意味をあらためて再確認することにもなる。しかしながら、本講義では公認会計士が社会に対して担うその責任の拡がりについて幅広く考察する（関わる日本経済新聞記事などを引用し教室で関連コピーを配布することが多い）。過去に会計科目を学んだことのない人であっても、関心があれば積極的に受講されると良い（簿記の知識が無くても授業内容は十分理解できるはず。履修者にとっては、意外と面白い科目になるに違いない）。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される、監査に関わりある論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にとっては、会計監査論のフレームワーク全体に展望を得ることにある。ところで「監査論」は国家試験たる公認会計士試験の一試験科目である。会計士志望の履修者は、本科目の履修によって、難関国家資格にチャレンジする意欲を醸成し、必要とされる知識の土台造りをしていただければ幸いである（しかし、単に会計に関わる一般教養として本科目履修を考えている人の受講も歓迎する。この経済社会において「だまされないようにする」、「真実を見抜く」、「リスクを分散する」などの視点は、本科目の受講を以ってそれらの意識を高めることができる、誰にとっても必要な教養であるとも言えよう）。

教科書 /Textbooks

未定である（初回オリエンテーション時に指定する。生協には事前に入荷依頼をする。参考まで、2019年度は山浦久司著『監査論テキスト』中央経済社を教科書に指定したが、学期直前に変更することもある。本学生協店頭などで確認していただきたい）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

哲学にまで踏み込んだ専門書にて、購入は義務ではないが拙著（任章著,2017『監査と哲学 - 会計プロフェッションの懐疑心 - 』同文館出版）を入手し、なにかと参考にしてもらえれば幸いである。他に、教室でほぼ毎回、プリントを配布する（過去の授業回のプリントも毎回持参するので、欠席した回のプリントもあとで受け取れるようにする）。

会計監査論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：（授業内容の順番は大きく変わることがある。指定する教科書が未定にて、下記は参考に過ぎない）。

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法（SOX）とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 過去の学期末試験の内容のレビュー【定期試験の傾向と対策指導】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果が凡そ70%、レポートが20%、その他出席面を含めての積極性が凡そ10%、あわせて100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習：（事前学習）初回講義時に知らせる講義予定に従って、教科書の定められた章を読んでおくことが望ましい。（事後学習）各回教室で学んだ用語や概念を、あとでレポートにまとめて提出できるよう、復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

定期試験以外にレポートも課す。復習ができるよう、教室には毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。なお期末の定期試験は、普段の出席率の良い人が得点しやすくなるよう、講義した内容の全体からまんべんなく出題する。本科目履修にあたり、簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修の前提としては求めない。講義ではわかりやすい「たとえ話」を多く交えるので、事前知識がなくても誰でも十分に理解できるはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない（出席点それ自体はほとんどないが、できるだけ多く出席しないと、期末定期試験でさほど得点できないはず）。履修の動機付けをしっかりと持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

例えば、財務諸表、公認会計士、監査法人、エンロン社事件、企業改革（SOX）法、金融商品取引法、会社法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算、他。

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

国際貿易論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I	ECN363M
---------	---------

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人(2012)『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディールング】
- ※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的な問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーテンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは
- ※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論Iでは、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当てて、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②独占禁止政策を理解する。
- ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書 /Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第2版）』日本評論社 2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣 2019年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

花園誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体の概略の説明
- 2回 競争政策(1) 競争政策とは何か? 独占禁止法入門
- 3回 競争政策(2) 競争政策はなぜ重要か? 独占禁止法の解説(外部講師の招へい)
- 4回 産業組織論の方法論的基礎 SCPパラダイム: 市場構造・市場行動・市場成果
- 5回 市場の諸類型(1) 市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争)
- 6回 市場の諸類型(2) 市場構造と競争形態(ハーフィンダール指数)
- 7回 地域独占産業の事例 日本の電力システムの構造改革
- 8回 コンテスタブル・マーケット 航空産業の事例
- 9回 共謀と暗黙の協調 カルテル(談合)と暗黙の協調
- 10回 M&Aについて(1) M & Aの定義、事例研究
- 11回 M&Aについて(2) 事例研究
- 12回 垂直的取引制限 再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
- 13回 ネット取引とプラットフォーム プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
- 14回 イノベーションと知的財産権 知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題・計算問題など)80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

産業組織論I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
- ③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新 自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴木『日本の電気通信-競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和-日米英比較研究』
日経ビジネス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 講義全体の概略の説明
- 2回 産業の基礎知識 戦後経済・産業の歩み
- 3回 個別産業の研究 ビール産業(1) ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
- 4回 個別産業の研究 ビール産業(2) 市場セグメンテーション(テイストマップ)。ブランド増殖戦略、製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化)
- 5回 個別産業の研究 ビール産業(3) ス・パードライの事例研究
- 6回 個別産業の研究 ビール産業(4) 味覚戦争・発泡酒戦争の事例研究
- 7回 個別産業の研究 ビール産業(5) ビール産業の価格戦略(カルテルとプライスリーダーシップ)
- 8回 個別産業の研究 自動車産業(1) 米国の自動車産業の歴史
- 9回 個別産業の研究 自動車産業(2) 日本の自動車産業の歴史
- 10回 個別産業の研究 自動車産業(3) 自動車産業の国際戦略・世界的再編
- 11回 個別産業の研究 自動車産業(4) トヨタ生産システムとその進化
- 12回 個別産業の研究 自動車産業(5) 部品供給システムとその変化 CASE革命
- 13回 個別産業の研究 情報通信産業(1) 規制改革と民営化の理論
- 14回 個別産業の研究 情報通信産業(2) 電電公社の民営化・規制改革-第1次情報通信改革-
- 15回 個別産業の研究 情報通信産業(3) 第2次情報通信改革 プロードバンド・インターネット時代の規制政策

産業組織論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題など)80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 /Instructor 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 証券市場の仕組みの理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況など、証券に関する制度および実務的側面についても触れる。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleで配布するので、各自印刷のうえ、講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

釜江廣志(編)(2015)『入門証券市場論(第3版補訂)』有斐閣。
 小林 孝雄・ 芹田敏夫(2009)『新・証券投資論Ⅰ—理論篇』日本経済新聞出版社。
 伊藤敬介・ 荻島誠治・ 諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論Ⅱ—実務篇』日本経済新聞出版社。
 手嶋宣久(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
 花枝英樹(2005)『企業財務入門』白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原理解
- 第 6 回: 債券の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: 株式の評価
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】
- 第 10 回: ポートフォリオ理論(2)【2つの証券の連動性】
- 第 11 回: ポートフォリオ理論(3)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 12 回: 資本資産評価モデル(CAPM)
- 第 13 回: デリバティブ取引
- 第 14 回: 投資家と投資戦略 & 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20% + 中間テスト30% + 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認する。
 事後学習: 講義内容を復習する。なお、一部の回では講義後の約1週間に限定して小テスト(成績評価を参照)実施するため、Moodleで小テストを受験すること。

証券市場論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- * 計算問題が多いので、毎回の講義に電卓を持参すること。
- * 小テストの公開期間は講義後の約1週間である。過去の小テストを遡及的に受験することはできないので忘れずに受験すること。
- * 講義中の私語や騒音、スライドおよび板書の写真・動画撮影を禁止する。禁止事項を行った学生に対して注意しても改善が見られなかった場合、成績評価から減点の措置を取る場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標とする。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定である。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2019年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方財政論【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

地方財政論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることでできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学 I

ECN343M

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.
『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.
『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経済学の視点から見た労働 【労働】【給与水準】
- 第2回 社会的分業と生産性 【分業の利益】【規模の経済】
- 第3回 労働市場という概念と機能 【労働力の取引】【労働市場】
- 第4回 労働力の質の質と技能 【人的資本】【一般的・企業特殊的技能】
- 第5回 企業の労働需要 【労働の限界収入】【企業の労働需要曲線】
- 第6回 市場の労働需要 【代替と補完】【市場の労働需要曲線】
- 第7回 個人の労働供給 【労働の限界不効用】【個人の労働供給曲線】
- 第8回 市場の労働供給 【市場の労働供給曲線】【労働移動】
- 第9回 労働市場のメカニズム 【市場メカニズム】【補償賃金】
- 第10回 中間試験
- 第11回 労働市場への介入とその帰結 【価格規制】【数量規制】
- 第12回 失業の原因と対策(1) 【オークンの法則】【賃金の下方硬直性】
- 第13回 失業の原因と対策(2) 【ミスマッチ】【摩擦的失業】【構造的失業】
- 第14回 公的部門の労働市場 【公的部門】【民間準拠】
- 第15回 労働市場の内部化 【内部労働市場】【正社員】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・・・40% 定期試験・・・60%

労働経済学I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会的分業、労働市場、失業、賃金格差

労働経済学II 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学II

ECN344M

授業の概要 /Course Description

企業にとって「労働」は最も重要な生産要素であると同時に、最も扱いにくい生産要素の一つです。したがって、企業は「労働」をどのように活用していくべきかについて十分に考察しなければなりません。本講義では、企業の立場から「労働」をいかに活用していくべきかを経済学的に考えるために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版。
『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事経済学】
- 第2回 組織構造とインセンティブ 【情報伝達】【インセンティブ】【権限】
- 第3回 組織とフリーライド問題（1） 【ナッシュ均衡】【フリーライド】
- 第4回 組織とフリーライド問題（2） 【監督者】【残余利潤請求権】
- 第5回 事業規模と雇用量 【限界基準】【代替と補完】
- 第6回 採用選抜 【スクリーニング】【自己選抜】
- 第7回 雇用調整（1） 【調整費用】【長期的視野】
- 第8回 雇用調整（2） 【採用費用】【解雇費用】
- 第9回 離職と解雇 【解雇規制】【割増退職金】
- 第10回 インセンティブと報酬体系（1） 【参加制約】【インセンティブ制約】
- 第11回 インセンティブと報酬体系（2） 【プロフィットシェアリング】【モニタリング問題】
- 第12回 インセンティブと報酬体系（3） 【固定給】【出来高給】
- 第13回 報酬体系の設計（1） 【投入量ベース】【産出量ベース】
- 第14回 報酬体系の設計（2） 【絶対評価】【相対評価】
- 第15回 報酬体系の事例 【俸給表】【コミッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・ 40% 定期試験・・・ 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。
参考資料を提示するので各自で読むこと。

労働経済学II【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修済みであることが望ましい科目：労働経済学
並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

人的資源管理論【昼】

担当者名 /Instructor 脇 夕希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営資源の中の「ヒト」の管理に焦点を当てる。近年、働き方改革関連法の施行や従業員自身の価値観の変化やライフスタイルの変化により企業は従業員の働き方の変更に迫られている。こうした変化に企業は対応しなければならない。そこで、本講義ではまずは人的資源管理での「ヒト」のとらえ方を学修する。その次に人的資源管理の領域である雇用管理（採用管理、教育訓練、労働時間管理）と報酬管理（賃金管理）を学修する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

レジュメは、各自ダウンロードしてくること。1回目の講義の際に、ダウンロードの仕方を説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安熙卓（2014）『人的資源管理入門』文真堂。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【なぜ、人的資源管理を学ぶ必要があるのか？】
- 第2回 経済人モデル①【科学的管理法（課業管理）について学修する。】
- 第3回 経済人モデル②【科学的管理法（差別出来高払制、職能別職長制）について学修する。】
- 第4回 社会人モデル①【人間関係論（照明実験、継電器組立実験）について学修する。】
- 第5回 社会人モデル②【人間関係論（面接計画、バンク配線作業実験）について学修する。】
- 第6回 自己実現モデル①【マズローの欲求階層説について学修する。】
- 第7回 自己実現モデル②【ハーズバーグの二要因理論について学修する。】
- 第8回 雇用管理【採用管理について学修する。】
- 第9回 教育訓練管理【教育訓練管理について学修する。】
- 第10回 労働時間管理①【労働基準法について学修する。】
- 第11回 労働時間管理②【短時間制度、フレックスタイム、裁量労働制について学修する。】
- 第12回 賃金管理①【賃金カーブについて学修する。】
- 第13回 賃金管理②【ベースアップ、定期昇給について学修する。】
- 第14回 ダイバーシティ・マネジメント【ダイバーシティ・マネジメントについて学修する。】
- 第15回 まとめ【本講義のまとめ】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・100%で判断する。

履修上の注意や事前事後学習の内容を必ず参照すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後共通：新聞、テレビ、ネット等で企業の働き方や従業員の働き方の最新トピックをキャッチすること。（30時間程度）

事後学習：毎回の講義後、参考書、レジュメやノートにより内容を復習し、次回の講義に臨むこと。（30時間程度）

人的資源管理論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 以下の履修上の注意を理解・納得した学生のみ受講してください。なお、履修を行った時点で受講者は同意したとみなします。
- (1) 初回の講義に出席できない場合は、初回の講義が始まるまでにwaki@ip.kyusan-u.ac.jpまでに、件名人的資源管理論の件、本文に①学籍番号、②指名、③講義欠席の理由を明記しメールで送ること(次回の講義の指示をだすため。受信したメールに返信を行う。)。
 - (2) 遅刻・欠席・途中退出・死語、携帯電話は厳しく処分する。
 - (3) 受講態度の悪い学生、受講ルールを守れない学生は厳しく処分する。
 - (4) 出席管理が必要な場合は、自身で対処すること。
 - (5) 学生の受講態度・人数によっては座席指定を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんと、一緒に講義を作り上げていきたいです。履修上の注意等をご確認いただき受講を決定してください。

キーワード /Keywords

経営学、企業(組織)、人的資源管理論

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will then be applied through an analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
2. The costs and benefits of trade
3. Imports, exports and the balance of trade
4. Restrictions on trade
5. The current global trade situation
6. Group presentations: 1
7. Foreign exchange markets and exchange rates
8. Factors that affect exchange rates
9. Calculations of spot rates and forward rates
10. Exchange rates and the interest rate
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 10%
Group presentation 1: 20%
Group presentation 2: 20%
Vocabulary test 20%
Group report 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

ビジネス英語研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領(現行および新指導要領)に基づいて解説する。
また社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法(指導計画、社会科学における資料活用、学習指導案の作成)など、社会科学の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得する。
- ②中等教育における社会科学、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていく。
- ③教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」(平成29年告示・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学の目標と内容 社会科学教師としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科学の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科学の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科学の授業づくり 評価論とPDCAサイクル 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業(1)
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業(2)
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループ発表や質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備(受講人数によって課題の変更あり)
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。(4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「中学校学習指導要領解説 社会編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 学習指導要領における社会科の位置付け
- 第 3 回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4 回 指導案作成上の留意点
- 第 5 回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6 回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7 回 社会科におけるアクティブラーニング
- 第 8 回 模擬授業(地理的分野①)
- 第 9 回 模擬授業(地理的分野②)
- 第 10 回 模擬授業(歴史的分野①)
- 第 11 回 模擬授業(歴史的分野②)
- 第 12 回 模擬授業(公民的分野①)
- 第 13 回 模擬授業(公民的分野②)
- 第 14 回 授業研究と評価
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など) を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

体験学習を取り入れています。受講生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			環境問題概論
			ENV100F

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか?」についての知識を生かし、SDGs (持続可能な開発目標) に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理 (治水・利水)、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは?
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか?-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容 : 50%
レポート試験 : 50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
可能性としての歴史 HIS200F				

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ベアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 ○○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」「社会参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の＜萌芽＞② - 市民
 - 7回 市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の＜再生＞② - 市民
 - 9回 市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の＜広がり＞② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

市民活動論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第1回～第8回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)[本体価格2,000円]を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
後半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、後半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、
- 2回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 3回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 4回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 5回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 6回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 7回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 8回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 9回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 10回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 11回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 12回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 13回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 14回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

前半レポート 50% 後半レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール
- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
 - 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
 - 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
 - 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
 - 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
 - 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
 - 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
 - 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
 - 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
 - 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
 - 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
 - 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
 - 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
 - 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
 - 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

メンタル・ヘルスI【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフストーリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報システムの利用について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【Moodle】【タイピング】
- 2回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】
- 3回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 4回 関数を活用した計算【セルの参照】【合計】【平均】
- 5回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 6回 グラフ作成の応用【複合グラフ】
- 7回 情報倫理とセキュリティの知識【著作権】【個人情報保護】
- 8回 電子メールの送受信方法【電子メール】【ネットワークマナー】
- 9回 簡易データベース機能の利用【並べ替え】【抽出】
- 10回 データ処理演習1（実データの解析，他のソフト等との連携）
- 11回 データ処理演習2（実データの解析，データの可視化）
- 12回 データ処理演習3（実データの解析，相関，散布図）
- 13回 少し高度なExcelの活用法【Vlookup】【ピボットテーブル】
- 14回 データ処理総合演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提出する課題 ... 50%、
授業中に提示する課題 ... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに掲載されている資料等を事前に参照しておくこと。
タイピングなどのコンピュータ操作については、各自で日頃からの確にできるように努力すること。
授業中に出された課題に事後学習として取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によって「授業計画・内容」を変更することがある。その際は授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

佐藤幸治＝鈴木茂嗣＝田中成明＝前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,000円＋税
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】【法人】【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】【国会】【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】【道徳】【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】【事実】【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジュメや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、石川明他編『法学六法'20』信山社（1,000円）をおすすめします。

法学総論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

日本国憲法原論【夜】

担当者名 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法は、一方では国家の「統治構造（国家の組織や権限行使の仕組み）」を規定し、他方では個々の国民に「人権」を保障している。

この講義のねらいは、次の4つである。

- ① 統治の基本原則（国民主権や権力分立）、
- ② 国家の組織や権限（国会、内閣、裁判所）、
- ③ 人権保障の基本構造、
- ④ いくつかの人権保障場面。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎編著『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 野中俊彦ほか著『憲法〔第5版〕』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -イントロダクション
- 第2回 統治の諸原則 -国民主権と権力分立
- 第3回 代表民主制と選挙（権）
- 第4回 国会
- 第5回 内閣
- 第6回 裁判所
- 第7回 平和主義
- 第8回 人権総論
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由
- 第11回 経済的自由
- 第12回 人身の自由
- 第13回 社会権
- 第14回 平等権
- 第15回 幸福追求権

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書等の該当箇所を事前・事後に読む。

日本国憲法原論【夜】

履修上の注意 /Remarks

小型六法を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 権力分立 代表民主制 国会 内閣 裁判所 人権保障

債権各論【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論

LAW262M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章（改正民法521条～同法724条の2）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する規定群を設けている。

本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの規律を定める重要条文に関わる解釈（論）について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているか（2020（令和2）年4月1日施行の改正民法（債権法）についていえば、どのような機能をこれから果たすことになるか）について、理解を深めてもらうことにある。

とりわけ、われわれの日常生活の一部を形成していると言っても過言ではない「契約（たとえば、コンビニでお菓子1袋を買ったということは、そのお菓子1袋について売買契約が締結され、そこから発生する債務（そのお菓子1袋の引渡しおよび代金支払い）が履行されたということになる。）」および現代社会において不可避免的に発生する「不法行為（交通事故や公害・薬害がその代表例）」の解説（判例（最高裁判所や大審院が判決理由中で定立した規範）・学説の解説）に重点を置く。

ところで、民法・債権法に関しては、2017（平成29）年5月、「民法の一部を改正する法律案」が国会において可決・成立し、同年6月に改正民法が公布され、新法（改正民法（債権法））がついに2020（令和2）年4月1日から施行されることになった。本講義では、旧法となった「改正前民法」の規定の解説にも留意はするが、原則として、現行法たる「平成29年民法（債権関係）改正法」（新法）＝改正民法を主軸に解説を加える。よって、教科書も後掲の通り完全に新法対応のものを指定した。この点、注意されたい。

ただし、改正前民法（旧法）からその内容が大きく変わった諸制度（条文）については、新・旧両制度の要点についても解説を加える。だが

教科書 /Textbooks

※藤岡 康宏＝磯村 保＝浦川 道太郎＝松本 恒雄（編著）『民法IV 債権各論（第4版）有斐閣Sシリーズ』（有斐閣、2019年）；定価（2,600円＋税）※改正民法対応。

※最新版（年度）の小型六法は必携。

※上記「2点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書や学習用判例教材等については、講義の際に配布するレジユメの【文献案内】欄で適宜紹介する。

債権各論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書等での予・復習は必須。レジュメは補助教材に過ぎないことに注意されたい。
 ※以下、各項目・単元において、「改正前民法（旧法）」の内容にも可能な場合は適宜、解説を加える。
 ※今年度「債権各論（夜）」は、同一曜日2時限連続（6・7限）のペア科目となるので、下記授業計画・内容に関しては、1週間で2回分の内容を進めることになる。受講生各位には、この点に留意して予・復習等の計画を立てられたい。

第1回：序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、および不法行為略説、ならびに、平成29年民法（債権関係）改正法について）
 第2回：契約総論①；序説（契約の意義・社会的機能、契約自由の原則とその修正、契約の種類・分類）
 第3回：契約総論②；定型約款（論）民法548条の2～同548条の4および改正消費者契約法略説
 第4回：契約総論③；契約の成立、申込みと承諾（の意思表示）、契約の成立時期
 第5回：契約総論④；契約の効力（1）契約交渉段階における過失に基づく責任、「原始的不能」の考え方の変容
 第6回：契約総論⑤；契約の効力（2）同時履行の抗弁（権）
 第7回：契約総論⑥；契約の効力（3）危険負担（改正前民法との違い、解除との半一元化？、反対給付の履行拒絶権（構成））、事情変更の法理
 第8回：契約総論⑦；契約の効力（4）第三者のためにする契約、契約上の地位の移転（民法539条の2・概論）
 第9回：契約総論⑧；契約の解除（意義、法定解除の要件、契約解除制度の改正前民法からの変更点）
 第10回：契約総論⑨・完；契約の解除（解除の効果を中心に解説）
 第11回：契約各論①；契約の分類の復習、財産権移転型契約（1）贈与（意義・成立要件・効果・特殊の贈与）
 第12回：特別編；最高裁判決の読み方（「法的三段論法」に依拠した判旨の解析方法を解説）
 ※中間レポート論題発表（予定）
 第13回：契約各論②；財産権移転型契約（2）売買（意義・成立要件（売買の一方の予約、手付）、売買の効力）
 第14回：契約各論③；売買のつづき（契約不適合に基づく売主の担保責任（改正前民法における瑕疵担保責任にも触れる））
 第15回：契約各論④；売買のつづき（契約不適合に基づく売主の担保責任、他人物売買、その他の担保責任）
 第16回：契約各論⑤；売買のつづき（危険の移転、買戻し）、財産権移転型契約（3）交換
 第17回：契約各論⑥；財産権利用型（貸借型）契約（1）消費貸借（意義・成立要件・効果）
 第18回：契約各論⑦；消費貸借のつづき（利息の規制〔利息制限法・出資法・貸金業法略説〕）
 第19回：契約各論⑧；財産権利用型（貸借型）契約（2）賃貸借（※以下、借地借家法の概説的内容も含む。意義・成立〔敷金〕・賃貸借の効果）
 第20回：契約各論⑨；賃貸借のつづき（賃貸人の地位の移転〔契約上の地位の移転・再論〕・賃貸借の終了）
 第21回：契約各論⑩；財産権利用型（貸借型）契約（3）使用貸借、役務提供型契約（1）請負（意義・請負の権利・義務関係）
 第22回：契約各論⑪；請負のつづき（請負の終了）、役務提供型契約（2）委任
 第23回：契約各論⑫；役務提供型契約（3）雇用および寄託
 第24回：契約各論⑬・完；その他の契約：組合、終身定期金、および和解
 第25回：法定債権関係①；事務管理
 第26回：法定債権関係②；不当利得（給付利得、侵害利得、支出利得、および不法原因給付など）
 第27回：法定債権関係③；不法行為（不法行為制度の目的、一般不法行為の要件〔序論〕）
 第28回：法定債権関係④；不法行為（一般不法行為の要件：故意・過失、責任能力、権利・利益侵害、事実に因果関係、損害の発生）
 第29回：法定債権関係⑤；不法行為（不法行為の効果）
 第30回：法定債権関係⑥・完；不法行為（特殊の不法行為：使用者責任、工作物責任、共同不法行為など、民法724条の2）および本講義の「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

※期末定期試験の成績【80分間（持込条件は「すべて可」とし、改正民法（債権法）の基礎的知識を中心に論述形式で問う。）】……40%
 ※中間レポートの成績【2,000字程度】……60%
 上記の合算（100%）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】上掲・指定教科書について、あらかじめ熟読すべき箇所・頁等を指示（レジュメに記載）するので、次回（次週）講義までに熟読し、疑問点などをノートにまとめてくること。受講生が多くない科目になる可能性が高いので、講義の際に数名指名して、まとめた内容（疑問点など）を各自口頭で発表してもらおう予定である（加点的要素とする。）。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。
 【事後学習】毎週の講義の理解度を確認するため、講義終了時にミニッツ・ペーパーを配布し、次週講義時に記入したものを提出してもらおう予定である（加点的要素とする。）。内容は、当該週で学んだ内容の復習を兼ねた簡単な一行問題である。期末定期試験や中間レポートのヒントにもなっている。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」や「物権法」を履修済みであれば、本講義の理解はより確実なものとなろう。さらに「債権総論」も履修済みであれば、本講義の理解が一層深まるであろう。逆に、「民法総則」をまったく学習していない場合、本講義の理解は困難なものとなろう。よって、自学習でもよいから、「民法総則」の内容全般（旧法（改正前民法）の内容のみでもよい）をフォローしておくことを強く勧める。また、余裕があれば、平成29年民法（債権関係）改正法の全般的な内容についても、各自フォローしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等も利用して、積極的にどしどし質問してほしい。また、教科書（基本書）選びも勉強の内。上記指定教科書以外にも、図書館蔵書や書店等で「債権各論（改正民法対応のものが望ましい。）」の様々な文献を紐解いてみよう！

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、事務管理、不当利得、不法行為、平成29年民法（債権関係）改正法（＝現行法）の規律内容（メイン）

民法法の理論的展開 【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 民法法の理論に関する横断的・総合的学習を通じ、民法法の体系的理解に必要な専門的知識を深く修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 民法法理論に関する課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法法に関わる諸問題に対して、民法法の理論的視点から自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法法の理論的展開

LAW360M

授業の概要 /Course Description

今年度のテーマは、「（改正前および改正民法における）契約解除や（改正前民法における）債務者主義危険負担の基礎理論に関する論説を分析して、その著者＝講義担当者に、直接疑問点などをぶつけて議論を深める」ことである。

学部時代、多くの学生が経験することだが、ゼミ論文や卒業論文を執筆する際、種々の学術論文や判例評釈（判例研究）を読み、その内容を理解することが必要となる。しかし、当然だが解からない点や疑問も数多く出てくる。これらを自力で理解しようとして、さらに他の文献を調べるなどすることは、きわめて重要な営み・作業ではあるが、本講義では、敢えて講義担当者がここ数年に執筆した論説を教材として、その「解からない点」を直接筆者・著者（＝講義担当者）に質問できる機会を提供するような講義にしたいと思う。

授業形式としては、自身の研究成果である論説について、講義担当者がその内容を要約的に解説し、その内容に対する受講生からの質問を受け付け、それに答える方法を進める。受講者が多ければ質問ペーパー等で質問を受け付け、受講者が少ない場合（概ね10名未満の場合）は、その場で口頭にて質問に答え、一層の議論を喚起したい。

対話型講義であるから、受講者諸君は、積極的な質問・意見を是非ぶつけてほしい。諸君らの目の前に立っているのは、まさにその論文の著者なのだから。

教科書 /Textbooks

- ① 拙稿「危険負担と契約の解除—霧に霞む解除と危険負担の地平？ [特集]民法（債権法）の新たな地平」法学セミナー739号31～35頁（2016年）
 - ② 拙稿「民法（債権法）改正のコンテクストにおける危険負担と解除の関係の変容—債務者主義危険負担における契約の帰す方を分析基軸として—」深谷 格ほか（編著）『大改正時代の民法学』325～344頁所収（成文堂、2017年）
 - ③ 拙稿「ボワソナード旧民法典草案（Projet）における法定解除の法的基礎（fondement juridique）の一素描—『プロジェ・初版』を分析素材として」九州国際大学法学会 法学論集23巻1・2・3合併号263～297頁（2017年）
- ※上記①～③については、各論説の抜刷・コピー等を配布するので、購入の必要はない。
- ④ 受講生諸君が普段使用している債権各論（契約法分野）の体系書・基本書（改正民法にも対応しているものが望ましい。）
 - ⑤ 最新版（年度）の六法

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※上掲・各論説（教科書①～③）の「註（文末注ないし脚注）」において記した種々の参考文献を適宜紹介する。

民法法の理論的展開 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンスおよび「契約の解除」、「債務者主義危険負担」の復習（現行民法（令和2年4月1日施行の改正民法）・改正前民法の規定の確認。各制度の意義・機能など）
- 第2回：拙稿①（＝上掲・教科書①。以下、同じ。）の検討・その1（1はじめに ※以下、各論説の目次項目名を記す。）
- 第3回：拙稿①の検討・その2（2解除制度の「考え方」の変容）
- 第4回：拙稿①の検討・その3（3危険負担制度の「考え方」の変容）
- 第5回：拙稿①の検討・その4（完）（4おわりに—霧に霞む「地平」の見通しを良くするためには？）
- 第6回：拙稿②の検討・その1（－はじめに）
- 第7回：拙稿②の検討・その2（二債務者主義危険負担〔民536条1項〕における契約の帰する—契約の当然〔自動的〕消滅構成と存続構成）
- 第8回：拙稿②の検討・その3（三民法〔債権法〕改正作業の各段階における危険負担と解除の関係—改正法536条1項への転回の軌跡）
- 第9回：拙稿②の検討・その4（四債務者主義危険負担における契約の帰するへの無自覚が産み出したもの）
- 第10回：拙稿②の検討・その5（完）（五むすびにかえて）
- 第11回：拙稿③の検討・その1（－はじめに、ニフランス民法旧1184条およびわが国旧民法財産編421条の構造）
- 第12回：拙稿③の検討・その2（三『プロジェ・初版』草案441条および対応邦訳）
- 第13回：拙稿③の検討・その3（四『プロジェ・初版』註釈における法定解除の法的基礎についての検討）
- 第14回：拙稿③の検討・その4（五ポワソナードが示した「黙示の解除条件」の法的基礎の特質）
- 第15回：拙稿③の検討・その5（完）（六むすびにかえて）および「本講義のまとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※中間レポート（≠切は7月上旬予定）……20%（本文・脚注含めて2,000～3,000字程度。文献引用方法〔出典の明記〕の適切性など、レポートとしての体裁をきちんと備えていないものは不可〔0点〕である。その他、執筆要綱等詳細は、初回講義の際に説明する。）
- ※期末定期試験（80分間）……80%（持込みは「すべて可」とする。）
- 以上の合算（中間レポート20%＋期末定期試験80%＝100%）で総合成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】教科書①～③（講義担当者執筆の各論説）につき、開講後の早い段階で事前目を通しておき、適宜、理解しづらいと思う箇所等をノートにメモするなどして、毎講義前に、「払拭したい疑問点を明らかにしてから」講義に臨むことが求められる。この毎回の予習に必要な学習時間の目安は60分である。
- 【事後学習】適宜、【課題（その回の講義をきちんと聴き、文献等を調べれば容易に解答できる内容のもの）】を出すので、各自しっかりと取り組み、解答を記したペーパーを提出すること。総合成績に加算的に評価する。この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意 /Remarks

- 「（理論的）展開科目」であるから、少なくとも、民法（財産法）科目を履修済みの者（ないしは、それに相当する自学習をしてきた者）の受講が望ましい。特に、「民法専門演習I」と併せて受講すれば、ゼミにおける議論にも深みが増すものと思われる。
- 応用・発展的科目ではあるが、努力する気持ちがあるならば、受講大歓迎である。また、好成績を収めることも決して難しいことではない。コツコツとした努力が実を結ぶような成績評価を行うので、真摯に受講されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 「中間レポート」と「持込み全て可の期末定期試験」＝楽勝科目ではないので、その点、十分に注意すること。「レポート論題」および期末定期試験の設問は、比較的難解なものを予定している。

キーワード /Keywords

- 契約の解除、改正民法541条、旧民法ポワソナード草案における法定解除、フランス民法（旧）1184条、債務者主義危険負担（改正前民法536条1項）

都市環境論【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。当時を知る患者さんたちや支援者たちがなくなっている現在、後世に伝えていくためにも、水俣に関する学習を行う必要があるでしょう。

また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当に「うまい」と感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」、加工食品にどのような添加物がどれくらい入っているのか食品表示の見方といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通じた環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成29年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育) : : 簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは? 水俣学とは? 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	フードバンク ～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から	【フードバンク】
第8回	食と農～健康の源＝自らの食を見直そう	【食農】
第9回	上水道 : : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第10回	下水処理をめぐって～下水処理の原理	【水質汚濁】
第11回	大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは?	【大気汚染】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々＝エコツーリズムに関わろう!	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日々の姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。些細なことですが、雨の日に、私は建物の中に入る際入り口に準備されたビニール製の傘入れ袋を使用にあたっては、新しいものをとらずに、ゴミ箱に捨てられた古いものを使います。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック

公共政策論【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分は何のような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップー』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 シルバー・デモクラシーと若者政策
- 15回 まとめ

公共政策論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史を学ぶとともに、変遷をたどってきた障害者施策を概観し現在の到達点を知ること、併せて「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を学ぶことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への権利擁護、「合理的配慮」の意義と目的について理解を深める。
その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する、援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第6版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守るということ① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守るということ② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

様々なメディアや書籍に取り上げられる障害者に関するニュースや話題に関心を寄せること。授業終了後には配布した資料をファイル化し、回復できる状態にしておくこと。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の特性と疾病
- 第3回 高齢者の福祉需要と介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 人口減少・少子高齢社会の現状と課題
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念と対象】
- 第8回 介護の概念や対象【介護予防の必要性】
- 第9回 介護予防【介護予防プランの実際と介護過程】
- 第10回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第11回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第12回 高齢者虐待と予防
- 第13回 終末期ケア
- 第14回 老人福祉法と関連法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等について理解することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13)弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険制度創設の背景と目的及び基本方針
- 第3回 介護保険制度の仕組み【保険者と被保険者など】
- 第4回 介護保険制度の仕組み【介護度の認定と利用及び給付】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第7回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第8回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第9回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第10回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第11回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第12回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 授業への参加態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社（○）
・ J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

ミクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておくこと

ミクロ経済学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【資産価格バブル】【投機的取引】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【バブルと資源配分】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【完全雇用GDP】【有効需要原理】【ベビーシッター組合の寓話】
- 11回 GDP決定理論(2) 【消費関数】【45度線分析】
- 12回 GDP決定理論(3) 【比較静学】【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%，期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル（=45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期モデル（=新古典派成長モデル）を説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】 【ケインズ政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】 【貨幣と債券】 【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】 【貨幣需要】 【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】 【公開市場操作】
- 7回 流動性選好理論(4) 【信用創造】 【貨幣乗数】
- 8回 流動性選好理論(5) 【地域通貨】 【仮想通貨】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】 【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】 【金融政策】
- 11回 新古典派成長理論(1) 【マクロ生産関数】
- 12回 新古典派成長理論(2) 【一人当たりGDPの決定要因】 【全要素生産性】 【資本労働比率】
- 13回 新古典派成長理論(3) 【新古典派成長モデル】
- 14回 新古典派成長理論(4) 【貯蓄率】 【収束】 【黄金律】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%， 期末試験：75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

国際経済論I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 15 % レポート 15 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易（1）【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易（2）【貿易の利益】
- 4回 不完全競争と国際貿易（3）【ダンピング】【価格差別化】
- 5回 不完全競争と国際貿易（4）【産業内貿易】【独占的競争市場】
- 6回 不完全競争と貿易政策（1）【輸入関税】
- 7回 不完全競争と貿易政策（2）【輸入数量割当】
- 8回 不完全競争と貿易政策（3）【外国独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易政策（4）【戦略的貿易政策】
- 10回 生産要素の国際移動（1）【海外直接投資】
- 11回 生産要素の国際移動（2）【国際労働移動】
- 12回 貿易と環境（1）【貿易政策から環境への影響】
- 13回 貿易と環境（2）【排出権取引】
- 14回 貿易と環境（3）【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

国際経済論II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 15 % レポート 15 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)
ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【SWOT分析】【外部要因と内部要因】【5つの競争要因】【経営資源】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 中間テスト
- 第9回 企業戦略① 【企業優位】【垂直統合戦略】
- 第10回 企業戦略② 【多角化戦略】
- 第11回 企業戦略③ 【PPM】
- 第12回 企業戦略④ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】【製品戦略】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...40% 中間テスト...30% 小レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
なお、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営戦略論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会計学)とは何か?【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 中間のまとめ
- 12回 財務会計の諸問題その1 - 会計学とは何か? - 【コンテンツラーメン】
- 13回 財務会計の諸問題その2 - 会計学とは何か? 【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の種類等を知る【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、例年レポート等を含む) ... 20% 中間試験... 20% 期末レポート... 60%

財務会計論I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

財政学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨン：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

財政学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係 :教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②:日本の教育思想
- 7回 教育史①:西洋の教育史
- 8回 教育史②:日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育:言語・文化
- 14回 仕事と教育:進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また教授活動に必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省（平成30年告示）
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007 1900円 + 税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
- 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
- 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
- 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 公共
- 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
- 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
- 第7回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
- 第8回：公民科の授業づくり 教材研究・教材活用・グループワークについて
- 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第10回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む(1) 実践と省察
- 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む(2) 主体的・対話的で深い学びについて
- 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
- 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
- 第14回：授業指導案作成
- 第15回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
- 事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) 能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
 上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。
 なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業(参加型授業の展開)
- 第 9回 模擬授業(資料活用法、オリジナル教材の作成)
- 第 10回 模擬授業(現代社会の諸問題)
- 第 11回 模擬授業(政治・経済・法)
- 第 12回 模擬授業(現代の諸課題と倫理)
- 第 13回 模擬授業(受験指導に焦点を当てる)
- 第 14回 模擬授業(社会参加の授業理論)
- 第 15回 まとめ(主権者教育など)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など)を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究①
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣) 2019 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。
その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
- 6回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 7回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 教科の模擬授業 その4 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 10回 学級経営案の報告と検討
- 11回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 12回 保護者理解に関するグループワーク
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習(中・高)【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%

最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。

事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。

授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯学習学 【夜】

キーワード /Keywords